

1989  
12

# 聖徒の道

末日聖徒イエス・キリスト教会



# 聖徒の道

1989年12月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本書は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン  
 十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット  
 顧問：ヒュー・W・ピノック、ジーン・R・クック、ウィリアム・R・ブラッドフォード、キース・W・ワイルコックス

編集長：ヒュー・W・ピノック

教名：機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

編集主幹：ブライアン・K・ケリー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集主幹補佐：アン・レムリン

編集主幹補佐/こどものページ：

ティエーン・ウォーカー

アート・ディレクター：M・マサト・カワサキ

デザイナー：シエリー・クック

制作：シドニー・N・マクドナルド、レジナルド・J・クリステンセン、ジーン・アン・ケンブ、

ティモシー・シエパード、ステイブ・テイ

トン

配送部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道 1989年12月号第33巻第12号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社/クロスロード

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

普通号150円、大会号350円

International Magazine PBMA 8912JA

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright © 1989 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課☎03-440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター☎044-811-0417

The Seito no Michi is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Application to mail at second class postage rates is pending at Salt Lake City, Utah. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address.

When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito no Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

## ●—もくじ

大管長会クリスマスメッセージ		1
大管長会メッセージ		
「だれにも話さないように」	トーマス・S・モンソン	2
「私たちも証します」		8
家庭訪問メッセージ		
神殿の祝福にあずかるためのふさわしさ		15
戦争のさなかで味わった不安	ロバート・K・ヒルマン	16
「賢く秩序正しく」	ダリン・H・オークス	18
モルモンメッセージ		24
特別な子供	バーバラ・B・スミス	25
予言者ジョセフの過ごしたクリスマス	ラリー・C・ポーター	28
タバナクルに迷いこんだズズメ	ロナルド・D・ジョン	38
私が出会った予言者	カーラ・サンソン	46
青少年のページ		
質疑応答		34
若い女性の祭典——「偉大な女性」を目指して		40
「私たちは皆さんを愛しています」	エズラ・タフト・ベンソン	
「真理を守りましょう」	アーデス・G・カップ	
最初の扉	ロバート・F・ジェックス	45
とても大切な聖句	エリザベス・コトレル	49

## 子どものページ

新しい星	ドラ・D・フラック	2
予言者ジョセフ・スミスの言葉		5
イエス・キリストを証した人々	パット・グラハム	6
おもちゃばこ	リッチ・ラタほか	8

表紙の説明—「博士たちの礼拝」(部分) クウェンティン・L・マサイス画。

The Metropolitan Museum of Art. John Stewart Kennedy Fund 19



## 大管長会 クリスマスメッセージ

**キ**リスト教世界のすべての人々が主イエス・キリストの誕生を祝うすばらしいクリスマスの季節を、皆さんと共に喜び迎えたいと思います。

聖書とモルモン経の双方の記述によると、あの聖夜に約束のしるしが天に現われたといえます。最初に救い主の誕生を知らされた人々の中に、あの謙遜な羊飼いたちがいます。ベツレヘムの近くで羊の群れの番をしていた彼らの前にみ使いが現われ、次のように言いました。「『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。』……するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使と一緒に神をさんびして言った、『いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。』」（ルカ 2：10-14）

末日聖徒イエス・キリスト教会に託されている主要な使命は、謙遜で心の清い人々を見つけ、彼らに「大きな喜び」をもたらすおとずれ、すなわちイエス・キリストの福音を伝えることです。イエス・キリストの福音は、私たちにとっては地上に平和をもたらす唯一の希望であり、人々に喜びを与えてくれるものです。このクリスマスの季節にあたり、私たちは新たな決意をもって、家庭の中でさらに福音の実践に努め、全地の兄弟姉妹に対し、今まで以上に熱心に福音を伝えていこうではありませんか。

私たちは皆さんを心から愛し、一人一人の方々に感謝しております。皆さんが家族の方々や愛する人々と共に楽しいクリスマスを迎え、健康と幸せに満ちた新年を迎えられますように。

大管長会

# 「だれにも話さないように」

隠れた良い行ないは人々の前に  
現われてこないかもしれません。  
しかしその行ないとそれをした人とは  
神の前に覚えられるのです。

第二副管長

トーマス・S・モンソン

しばらく前のことですが、ある人のお見舞いに大きな病院へ行きました。その地域の病院はほとんどが増築を行なっていましたが、この病院も例外ではありませんでした。病室の番号を聞くために受付の所へ行くと、その席の後ろに、増築のために寄付してくれた人々への感謝の言葉を書いた立派な飾り額がかかっていました。10万ドルの寄付をした人の名前は特に、その飾り額にキラキラ輝く鎖でつるされた真鍮板の上に、美しい書体で刻まれていました。それも一人一人、別々の真鍮板にです。

そこに刻まれていたのは、世間に広く知られた人々の名前でした。実業界の大物、学問で身を立てた人などが名を連ねていました。私は彼らの慈善行為に感謝しました。私の目をとらえたもう1枚の真鍮板があります。それは前のものとは違って、名前が刻まれていませんでした。刻まれていたのは「匿名」のただひと言だけでした。私はそれを見てうれしく思い、一体だれなのだろうかと考えました。その人はだれにも知られることなく静かな喜びを味わったに違いありません。

私は歴史をさかのぼり、聖地に思いをめぐらせました。そして私たちがこのクリスマスの季節に特に強く思いを寄せているお方について考えました。そのお方はかの山上で

ご自身の弟子たちに、人に施しをするときの心のあり方を説き、次のように勧告されました。「自分の義を見られるために人の前で行わないように、注意しなさい。……施しをする場合、右の手のしていることを左の手に知らせるな。」(マタイ6：1、3)

そして、この神聖な真理の実践ということを彼らの心に強く刻み込むかのように、このお方は群集と共に山を下りられました。「すると、そのとき、ひとりのらい病人がイエスのところにきて、ひれ伏して言った、『主よ、みこころでしたら、きよめていただけるのですが。』イエスは手を伸ばして、彼にさわり、『そうしてあげよう、きよくなれ』と言われた。すると、らい病は直ちにきよめられた。イエスは彼に言われた、『だれにも話さないように、注意しなさい。ただ行って自分のからだを祭司に見せ、それからモーセが命じた供え物をささげて、人々に証明しなさい。』」(マタイ8：2-4)

匿名という言葉は当時においても貴い意味を持つものでした。それは今でも変わるところはありません。

1915年に豪華船ルシタニア号が大西洋の海深く沈没していったとき、多くの人が船と命を共にしました。このときの犠牲者の中には人知れず勇気ある行ないを示した人々



「すると、そのとき、  
ひとりのらい病人が  
イエスのところにきて、  
ひれ伏して言った、  
『主よ、  
みこころでしたら、  
きよめていただける  
のですが。』  
イエスは手を伸ばして、  
彼にさわり、  
『そうしてあげよう、  
きよくなれ』  
と言われた。  
すると、  
らい病は  
直ちにきよめられた。  
イエスは彼に言われた、  
『だれにも  
話さないように、  
注意しなさい。  
ただ行って自分の  
からだを祭司に見せ、  
それからモーセが  
命じた供え物を  
ささげて、  
人々に  
証明しなさい。』  
(マタイ8：2-4)

がたくさんいました。ルシタニア号とともに海中に姿を消したある男の人は、まったく泳げないのに自分の救命具を別の女性に渡しました。そのアルフレッド・バンダビルトという男性はアメリカの大富豪でしたが、そのことは問題ではありません。彼は世の宝を与えたのではなく、自分の命を捧げたのです。エマソンはこう言っています。「指輪や宝石は贈り物ではなく、単なる代用品である。真の贈り物はあなた自身の一部を捧げることである。」(『贈り物』「エマソン全集」p.286)

何年か前の冬、旅客機が離陸直後に失速し、氷の張ったポトマック河に墜落しました。このとき、勇敢で英雄的な行為が数々見られました。中でも最も劇的だったのは、救助に当たったヘリコプターの操縦士が目撃した男性の行動でした。救助用のロープがもがき苦しむひとりの生存者の所に下ろされました。ところが彼は命綱にすがろうとせず、それをほかの人の体に結わえたのです。その人が無事に救出されると、再びロープが下ろされました。しかし助けられたのは別の人でした。結局5人の人が氷の水の中から救われたのですが、あの無名の英雄はその中にはいませんでした。名を知られることもなく、「……彼が私たちに残した鮮やかな印象は誉れあるものでした。」(スティーブン・スペンダー『常に心に思う人々』「宗教詩作品集」ジェームズ・ダルトン・モリソン編, p.291)

命をかけた行為でなければ、真の贈り物ではないというわけではありません。主の教えに対する忠実さを示す機会は、日々の生活の中にたくさんあります。その簡単な例を3つほど紹介したいと思います。

1. ある冬の朝、父親がふたりの息子を静かに起こして言いました。「昨日の夜は雪だったんだ。早く服を着て、明るくならない内に近所の家の前の雪かきをしよう。」

3人は暖かな服に身を固めて、真っ暗な外に出、数軒の家の前の雪かきをしました。父親は子供たちにひと言だけ言いました。「音をたてないで。だれがしたかわからないよ



うにね。」これもまた匿名の行ないです。

2. ソルトレークのある老人施設でふたりの若者が聖餐の準備をしました。そのとき、車いすに乗った年配の患者が「寒い」と言いました。すると、ひとりの若者がすぐに彼女の所に行き、自分の背広を脱ぎました。そしてそれを彼女の肩にかけ、また聖餐のテーブルの所に戻りました。それから聖餐の祝福が行なわれ、そこに集まった患者たちに配られました。

会が終わったあとで、私はその若者に「あなたがきょうここでなされたことはいつまでも忘れません」と言いました。

彼は「背広を脱いで聖餐の祝福をするのは、ふさわしい服装と言えないのではないかと心配でした」と言いました。

それで私は彼に言いました。「あの場合、一番ふさわしい服装をしていたのはあなたですよ。」

私は彼の名を知りません。彼もまた匿名の人なのです。

3. 東ドイツでわずかな会員たちと一緒に小さな墓地を尋ねたことがあります。それは暗い夜のことで、冷たい雨が一日中降り続いていました。

私たちが行ったのは、何年も前、主のみ業に仕えていたときに亡くなったひとりの宣教師の墓です。夜の静寂の中、私たちはその墓石のある所に来ました。懐中電灯で照らすとそこにはこう刻まれていました。

ジョセフ・A・オーツ

出生1870年12月12日 ユタ州バージン

死去1896年1月10日 ドイツ、ドレスデン

懐中電灯の光でよく見ると、この墓がほかとは違っていることに気がつきました。大理石の墓石はきれいに磨かれ、ほかの墓石の周りに生えているような雑草もすべて抜き取ってありました。そして丁寧に刈り入れた芝生と美しい花は、だれかが心を込めて手入れをしていることを示していました。「どなたがこの墓をこんなにきれいにしてくださっているのですか」と尋ねてみましたが、答えがありません。

んでした。

最後にやっと、ひとりの12歳の少年が、親や指導者から言われたのではなく、自分でしたいと思ったからそうすると打ち明けました。彼は主のみ業に仕え、自分の命を捧げたその宣教師のために何かをしたかっただけだと言いました。私は彼に礼を言ってからそこにいた人たちに彼の隠れた行ないをだれにも言わないで、彼が宣教師にした贈り物

皆さんがこの真理を生活の指針として、  
神と隣人に、仕え胸を張って  
進んで行かれるように望むものです。  
ガリラヤに向けて耳を澄ましてみましょう。  
救い主の教えが  
こだましてくるのではないのでしょうか。

を匿名のままにしておくように頼みました。

私が読んだ本の中で、主のこの教えを最も印象的に、かつ美しく描いた作品は、ヘンリー・バン・ダイクの名作「家」だと思います。主人公ジョン・ウェイトマンは財力と政治力を持つ成功者でした。次の言葉に彼の施しの哲学がよく現われています。「最高に満足のいく結果を間違わずに得るにはどのような施し方をするかよく考えなければなりません。見境のない与え方はよくない。こじきには一銭も施してはならない。……贈り物はよく目立つ所、そして周りのだれからも喜ばれる所に置くことだ。」

ある晩、彼は座り心地のよいいすに腰を下ろし、机の上に新聞を広げ、彼の寄付で建てられた病棟や政治法律学の講座、ウェイトマン中学校開校などの講座、記事や写真を見ながら満足感に浸っていました。

それから机の上にあった家庭用の聖書を開き、次のよう

に書かれている所を読みました。「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗みだすような地上に、宝をたくわえてはならない。

むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。」(マタイ 6：19—20)

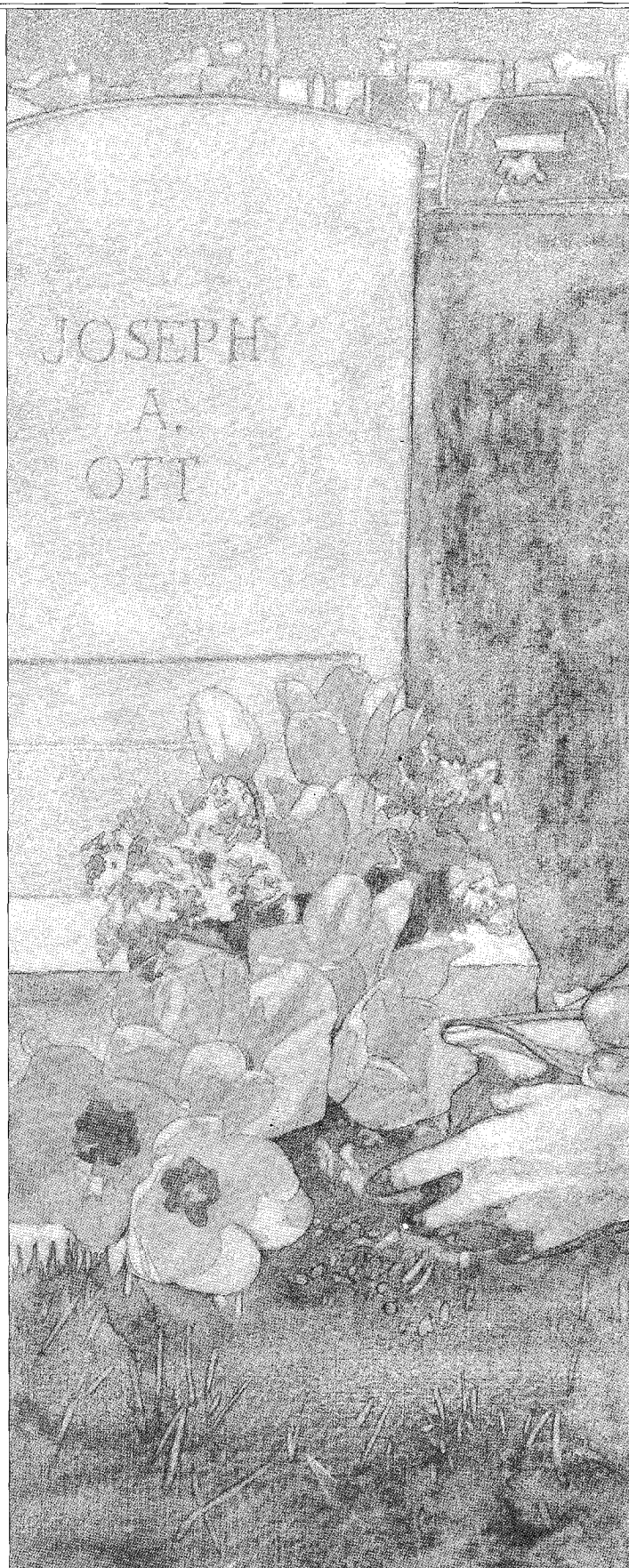
体が机の方に傾き聖書が浮かびあがるように見えました。そして彼は腕の中に頭を沈め、深い眠りの中に入っていました。

彼は夢の中で天の町に連れて行かれました。彼は生前の知人と一緒にガイドに迎えられ、彼らのために用意された天国の家に案内されることになりました。

一軒の美しい家の前で止まるとガイドが言いました。「マクレーン先生、これはあなたの家です。お入りください。この家にはもはや死も悲しみも苦しみもありません。あなたの昔の敵はすべて征服されたのです。しかしあなたが人のためにした良い行ない、助け、慰め、そして苦しむ人に与えた力と愛はすべてここにあります。あなたのこの家はそれらのもので造られているのです。」(同上)

病身の妻に献身的に尽くした男性や夫に早く先立たれたながらも子供たちを立派に育てあげた母親にもそれぞれすばらしい家が与えられました。そして、30年もの間、病の床にあった女性にも同じような家が与えられました。助けてくれる人はいませんでしたが、彼女は望みを失いませんでした。ひとつの目的を勇気という奇跡をもって貫き通したのです。決して不平を言わず、自分の所へ来るすべての人に喜びと安らぎを与えていたのです。

ここまで来て、主人公は早く自分に与えられる家が見たいと、いても立ってもいられない気持ちでした。彼は門番と一緒に歩いていきましたが、居並ぶ家は段々と小さくなるばかりです。最後にもう寂しい野原にやって来ました。そこに見たのは、羊飼いの小屋というにもまだ小さい一軒のあばら家でした。そしてガイドがこう言いました。「ジョ





ン・ウェイトマン、これがあなたの家です。」

彼は必死になって言いました。「私が、学校、病院、……3つの教会を建てたことを君は聞いていないのか。」

「待ちなさい」とガイドがたしなめました。「……それらは悪い行ないではありません。しかしそれらはすべて人々に知らされ、地上であなたの名声と家の基として使われたのです。……報いを受けてしまっているのです。あなたは

**ジョン・ウェイトマンは  
夢の中で天の町に連れて行かれました。  
彼は生前の知人と一緒にガイドに迎えられ、  
彼らのために用意された  
天国の家に案内されることになりました。**

2度も報いを受けたいと言うのですか。」

彼はみじめな気持ちでしたが、用心深くこう聞きました、「ここでは一体何が大切なのですか。」

ガイドはこう答えました。「偽りのない施しだけです。そうせずにはいられないという気持ちで、第一に人の幸せを願って行なったことだけなのです。報酬よりも犠牲が大きい働き、自分自身を忘れてした贈り物だけなのです。」(同上)

彼は7時を告げる時計の音で目を覚ましました。いつの間にか夜が明けていました。彼にはまだ時間が残されていました。そして人に与えるべき愛と贈り物が残されていたのです。この一篇を覚えておいていただきたいと思います。

鐘は鳴らされない内は鐘ではない、歌は歌われない内は歌ではない、

あなたの心の中の愛は、そこにとどめたままにしてお

くものではない。

愛は人に与えるまでは愛ではない。

(リチャード・ロジャース、オスカー・ハマージュタイン「16歳から17歳へ」)

皆さんがこの真理を生活の指針として、神と隣人に仕え、胸を張って進んで行かれるように望むものです。ガリラヤに向けて耳を澄ましてみましょう。救い主の教えがごだましてくるのではないのでしょうか。「自分の義を、見られるために人の前で行わないように、注意なさい。」(マタイ6:1)良いことをしても「だれにも話さないように、注意なさい。」(マタイ8:4)そうすればさらに大きな平安を得、生活は輝きを増し、豊かな心を持つことができるでしょう。

隠れた良い行ないは人々の前に現われてこないかもしれませんが。しかしその行ないとそれをした人とは神の前に賞えられるのです。□

### ホーム・ティーチャーへの提案

強調点：ホーム・ティーチングのときに、以下の点について話し合うとよいでしょう。

1. 救い主は「自分の義を、見られるために人の前で行わないように、注意なさい」と勧告し、与えることの真の意味を教えられました。主の弟子たちの心にこの教えの大切さを印象づける出来事として、どのようなことがあったでしょうか。
2. 日々の生活の中で、この教えを実践する機会があるでしょうか。
3. 私たちは隠れた良き行ないをするように教えられていますが、それは天で与えられる「家」のためにすべきことでしょうか。あるいは奉仕の喜びを味わうためにすべきことでしょうか。
4. 人知れず行なう愛の奉仕を見てくださるのはどなたでしょうか。

# 「私たちも証します」

モルモン経に関する現代の予言者たちの証

ベンソン大管長は、1988年10月の総大会で次のように述べています。

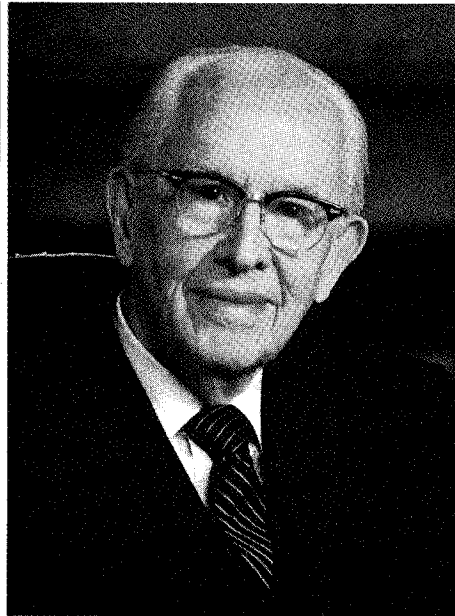
「私の心の中には、モルモン経の教えに従うことによって教会全体がさらに神に近づく有様が思い描かれています。」

そして、私は地がモルモン経で満たされる有様も心に思い描いています。」（『モルモン経で洪水のごとく地を満たす』「聖徒の道」1989年2月号，p. 6）

ベンソン大管長と同じように、副管長も十二使徒も、皆モルモン経を深く愛しています。この「最も正確な書物」について、彼らは以下のように述べています。

## エズラ・タフト・ベンソン大管長

「モルモン経はふたつの方法をもって人々をキリストのみもとに導いています。そのひとつは、キリストとその福音につ



エズラ・タフト・ベンソン大管長

いて率直に告げる方法です。モルモン経はイエス・キリストが神の子であること、また私たちに贖い主が必要であり、主に信頼を置くことが必要であることを証しています。さらにモルモン経は、墮落と贖罪と福音の第一原則についても証しています。その中には、へりくだる心と悔いる精神を持つことと、みたまによって生まれ変わることの必要性も説かれています。また、私たちは正義を守って終わりまで耐え忍び、聖徒として徳高い生活

を送らなければならないことも教えています。

第2は、キリストの敵を明らかにする方法です。モルモン経は偽りの教義を打ち破り、争論を鎮めるものです。（IIニーファイ 3：12参照）またそれは、謙遜にキリストに従う者たちが、今日の悪魔の企てや戦略、その教えに対抗できるよう力を与えるものです。モルモン経の中に描かれている背教者のタイプは、今日のそれとよく似ています。私たちが誤りを見抜き、今日の誤った教育や政治、宗教、哲学などの概念といかにか戦ったらよいかその方法を知ることができるように、神は実に無限の先見の明をもってモルモン経を備えられたのです。」（『モルモン経は神のみ言葉である』「聖徒の道」1988年5月号，p. 3）



#### ゴードン・B・ヒンクレー副管長

「兄弟姉妹、もし私たちの間に奇跡と呼ばれるものがあるとしたら、それはこの書物〔モルモン経〕であろう。不信者はジョセフ・スミス最初の示現に疑問を抱き、その事実を証明するものは何もないと言うかもしれない。また批評家たちは、神につける事柄は神のみたま以外によっても理解できると言わんばかりに、この業の開始に先立つ天からの顕現のすべてを、実践主義的な考え方からすれば実証できない目に見えぬものだと嘲笑する。彼らは私たちの教義を信じないかもしれない。しかし、みずからの心に正直になれば、モルモン経を無視すること

はできない。モルモン経は今この地上にあり、彼らはそれに触れ、それを読むことができるからである。その重みを、体と心の両方で感じるができるのである。またその書物が人々に及ぼす力を見ることができるのである。」(「大会報告」1959年10月, p.118)



#### トーマス・S・モンソン副管長

「何年か前のこと、生死の境をさ迷うある若い父親の傍らに立っていたときのことでした。彼は私の手を取り、じっと目を見つめて、お願い願うようにこう言いました。『監督、私はもう死にます。死んだときに私の霊がどうなるのか教えてください。』

私は答える前に、天からの助けを求めました。ふと見ると、ベッドの傍らのテーブルにモルモン経があります。そこで手に取って開くと、そこはアルマ40章でした。今こうして私が皆さんの前で話しているように、私は声を出して読みました。『さて死んでからよみがえる時までの霊の有様はどうであるかと言うに、ごらん、あらゆる人の霊はそれが善であっても悪であっても、この死ななくてはならぬ肉体を離れるとその霊に生命を与えたもうた神のところへ帰るのである。これは天使が私にお示しになった。

それから義しい人の霊はパラダイスとなえる幸福な有様、すなわち安息と平和な有様に入り一切のわずらいと憂いと悲しみとを離れて息<sup>やす</sup>む。』(アルマ40:11-12)

この若き友は目を閉じ、心からの感謝の気持ちを表わしながら、静かに今述べたパラダイスへと旅立たれました。『主はよみがえりぬ』『聖徒の道』1982年4月号, pp.29-30)



#### ハワード・W・ハンター長老

「私たちは、かつてこの世でその生涯を送った聖書の中の予言者たちが、力強い証を数多く残していることを知っています。しかし、私たちのよきおとずれは、新世界に生を受けた予言者たちの言葉が、単に私たちに霊的な洞察力を与えてくれるということにとどまりません。私たちがすでに聖書を読んで理解している事柄と一致し、またそれを支持する確かな証を与えてくれるのです。

心から真理を求めていながらまだモルモン経を読んだことのない方は、ぜひお読みください。あなたの生活に多大な影響を与えることでしょう。モルモン経は、神が人間に対してどのように接したもうかを教えると同時に、福音の教えに従って生活したいという思いをさらに強めてくれるでしょう。またイエスについて力強い証を与えてくれます。」(『復活の証拠』「聖徒の道」1983年7月号, p.27)

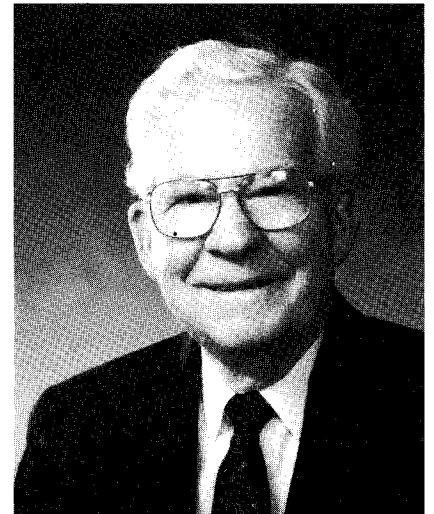


#### ボイド・K・パッカー長老

「いかなる宣教師も会員も、いや、使徒や大管長でさえ、モロナイ10章4—5節の約束をかなえてあげることではできません。個人が、ここに書いてあるとおりに行なって初めて啓示としてその人に直接与えられるものなのです。しかしこの書物が確かであるかどうかの質問は、この書物を読み終えてからでなければできません。しかも、この書物の中に書かれている主が定められた方法に従わなくてはなりません。そのような条件を満たすならば、約束されたように個人的な啓示を受ける資格が得られるのです。

私はモルモン経が真実の書であり、イエス・キリストについてのもうひとつの証であることを皆さんに証します。私はこの聖典を、一介の軍人であったときに、誠心誠意読み、その後、理解を求めて願いました。私はそうして啓示を得まし

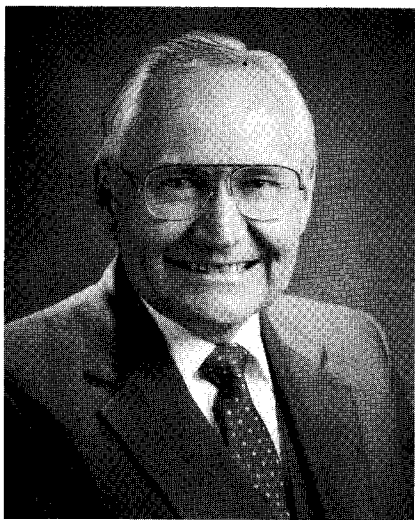
た。」(『私の心のこと』「聖徒の道」1986年7月号, p.61参照)



#### マービン・J・アシュトン長老

「最近教会に改宗したひとりの人がこのような話をしてくれました。『私は十代のとき、ほとんど施設に入ったり出たりしていました。でも食べ物はかなり良かったし、たいがいのことも認められていて、まんざら悪い生活でもありませんでした。しかしやはり退屈な生活で、漫画、雑誌など何か本を持っている人がいると、食べ物と引き換えに、それを貸してもらおうようなことをよくしました。ある日、私は1冊のきれいな分厚い本を持っている人を見かけました。かなり読みごたえのありそうな本で、私は肉やじゃがいも、それに1週間の食糧の大部分と取り換えようと申し出ました。彼はそれ

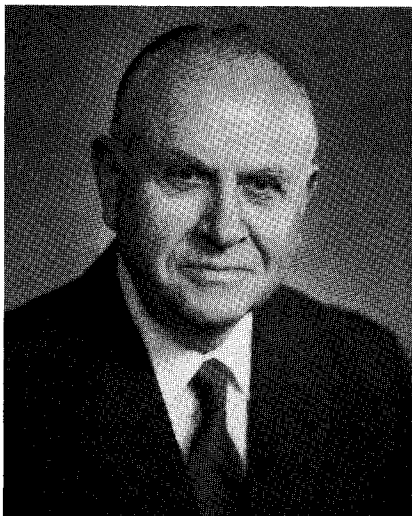
を承知し、本を貸してくれました。私はそれを読むにつれ、自分が読んでいるのは非常に大切な、真実のものであるということがわかりました。私が食べ物を犠牲にしたその本の名は、モルモン経といたしました。私は機会を見つけて宣教師に会い、自分の生活習慣を変え、今では新しい人生の道を見いだしました。私は食べ物と引き換えにしたその本が大好きです。』（『人は自分が愛するものに仕えます。』「聖徒の道」1981年9月号、p.37）



**L・トム・ペリー長老**

「モルモン経は、一千年にも及ぶ人類の歴史を振り返ることによってのみ得られる、将来への展望を可能にしてくれる偉大な古代の記録です。この記録の中に、私たちは、義に舞い戻っては離れていく民の姿を見ることができます。また、彼らの神への信仰と神の王国建設への願望から来る一致や、人々の心が利己的な

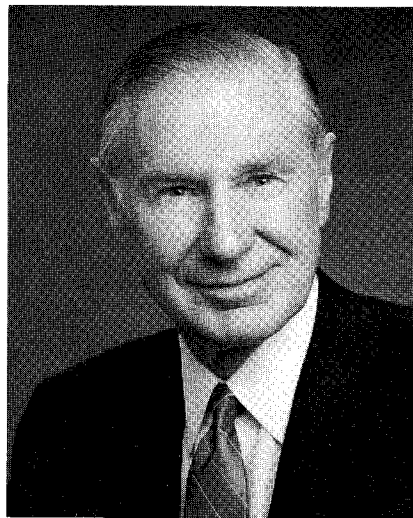
要求、肉欲的な快樂、富やこの世の財産に向いたときに起こる争いをも見ることができます。』（『一致して神の王国を建てる』「聖徒の道」1987年7月号、p.35）



**デビッド・B・ヘイト長老**

「モルモン経はただ好奇心を満足させるためにこの世に出されたものではありません。この書物は確固たる目的をもって書かれました。その目的はだれが読んでも感じ取ることができるはずで、モルモン経のとびらの言から、この書物が書かれた目的が『ユダヤ人と異邦人とにイエスは永遠の神なるキリストにましまして、万国の民に現われたもうことを確信させる』ことにあることがわかります。この書物に書かれている言葉は、キリストに対する証であり、神が全人類を愛しておられるとの教えです。その目的は、

イエスをキリストとして受け入れるように人々を導くことにあります。この書物にはまた、キリストが実際に古代のアメリカ大陸を訪れたことが記録されており、そのとき人々にはっきりと力強く教えられた事柄について書かれています。モルモン経は聖書に記された救い主の教えを再び証するものであり、ほかのいかなる事柄にもましてキリストについて多く語られています。また、私たちの救い主が全人類の贖い主であると教え、さらに、神の救いの計画の中心は救い主であることが、絶えず強調されています。この神聖な記録により、人はその教えやその教えに基づく教会に改宗するのです。』（『予言者ジョセフ・スミス』「ブリガム・ヤング大学ファイヤサイドにおける宗教講話1985—86」p.96）



**ジェームズ・E・ファウスト長老**

「以前に私は母の愛読書を手にしたこ

とがありました。それは使い古したモルモン経でした。ほとんどのページに印がつけてあり、丁寧に扱っていたのですが、あるページは端が破れ、しわがより、表紙ははげていました。母は、モルモン経がほかのどの本よりも人を神に近づける本だということを、だれからも教えてもらう必要はありませんでした。すでに知っていたのです。母はモルモン経を読み、研究し、書かれている事柄について祈り、またモルモン経を用いて福音を教えました。少年であった私は母のそのモルモン経を手にし、母が喜んで証し心から愛したその書物の偉大な真理を、母の目を通して理解しようとしていました。

しかしながら当時の私は、モルモン経の持つ深遠なメッセージを、自分自身が努力せずに、ただ親から譲り受けるということではできませんでした。私は誠実な心と強い目的意識なしに、この偉大な書物を理解できるとは思いません。私たちは、この本が真実であるかどうか、キリストのみ名によって尋ねる必要があります。……

今私は、使い古した貴重なモルモン経から母が理解したことを、私自身の理解の目を通してさらにはっきりと知ることができます。私たちがモルモン経の偉大な真理に対する証を得て、それにふさわしい生活を送れるように祈っています。私たちの宗教のかなめ石が、全地を揺り動かすほどの真理の重みを負って堅く据えられていることを証します。」(『私たちの宗教のかなめ石』「聖徒の道」1984年1月号, pp.14, 15, 18参照)



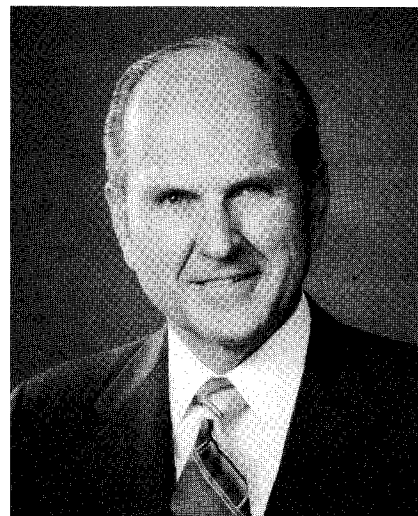
ニール・A・マックスウェル長老

「ジョセフを通してもたらされた聖典には、復活されたキリストがアメリカ大陸を訪られたときの記述にあるように、教義と美しさがひとつになった部分が随所に見られます。

『[イエスは] こう言って自らも地にひざまずいて御父に祈りたもうた。その祈りは書くことができないが群集の中でこれを聞いた者たちは次のように証を立てた。

「……これを口で言いあらわせる者もなく、筆で書きあらわせる者もなく、また人間の心で想像できぬほど偉大で驚嘆すべきものである。イエスが、私たちのために御父に祈って居りたもうのを聞いたとき、私たちの心に満ちた喜びは人間の想像ができないものである。』(IIIニールファイ17:15-17)

祝福されたモルモン経を真剣に研究する人は、簡潔ながら霊的で力強い言葉の繰り返しの中にさえ、複雑さと美しさが融合した不思議な世界を見いだします。私たちが最も必要とするものは与えられています。しかし、もっと多くのものを渴望するのです。」(『聖見者ヨセフ』「聖徒の道」1984年1月号, pp.93-94)



ラッセル・M・ネルソン長老

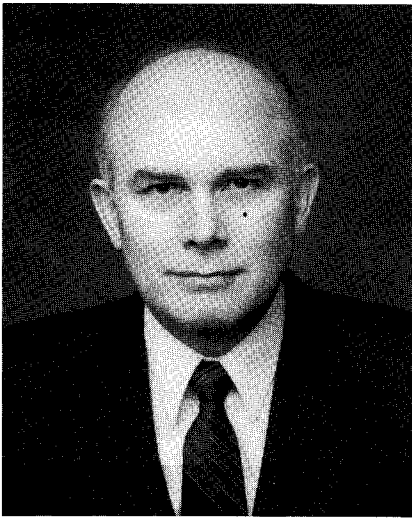
「私がウォルターリードの陸軍医療センターで働いていたときのことです。ご夫婦で勤務していた同僚がふたりで、モルモンのことについて私に質問しました。私はちょっとした予備知識を与えたあとで、ふたりに私のモルモン経を貸しました。1週間ほどすると、ふたりは私にモルモン経を返し、『どうもありがとう』と言うのです。

私は「『どうもありがとう』というのはどういうことですか?」と尋ねました。この書物を深く愛する者として、あまりにも見当違いの言葉だと感じたからです。私はこう言いました。『たぶん、本当はお読みにならなかったのではないですか。どうぞもう一度持ち帰って、ぜひお読みになってください。そして、お読みになったら、ぜひ感想をお聞かせいただけるとありがたいのですが。』

ふたりは再びモルモン経を受け取り、実はただページをめくってみただけだったことを認めました。3週間後、目に涙を浮かべながらやって来たふたりはこう言いました。『この書物が真実だということがわかりました。どうしたらもっと学ぶことができるでしょうか。』

私は次のように答えました。『これでおふたりがこの本をお読みになったことがわかりました。それでは次へ進みましょう。』やがて、このふたりはバプテスマを受けました。

イエス・キリストについてのもうひとつの証として、モルモン経には人に確信を得させる大いなる力が備わっています。この書物がこの世に存在する目的については、予言者ジョセフ・スミスの言葉以上に適切な説明はありません。」

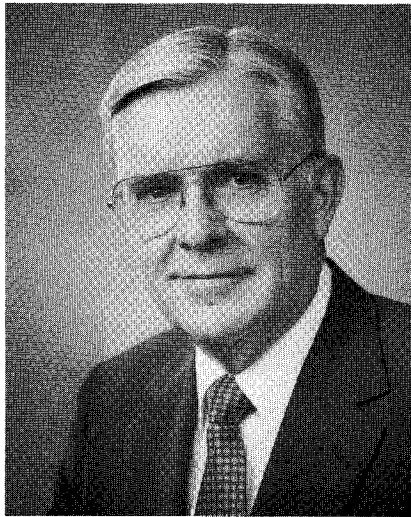


#### ダリン・H・オークス長老

「主は、モルモン経には、完全な永遠の福音がほかのどの聖典にも増して非常にはっきりと載っていると宣言しておられます。(教義と聖約20：8-9；27：5参照)多くの人々がイエス・キリストの神性を疑い、その贖いや復活の真実性を疑問視する時代にあって、キリストについての第2の証であるモルモン経のメッセージは今までに差し迫って必要とされています。

エズラ・タフト・ベンソン大管長が再三注意しておられるように、モルモン経

は『私たちの時代のために書かれたもの』であり、『イエス・キリストに対する私たちの証のかなめ石となるもの』です。(『モルモン経—私たちの宗教のかなめ石』「聖徒の道」1987年1月号、pp.5-6)天父が予言者を通してモルモン経をもっと熱心に研究するよう命じておられるのは、今の時代の人々にとって、祖先の時代の人々以上にモルモン経のメッセージが必要だからだと私は思います。ベンソン大管長が語っているように、モルモン経は『贖いの教義についてこれまでになく完全な説明を与えて』おり、『そこにある主の証は明快で、原文そのままの力があります。』(同上、p.5)、『あなたがたはキリストをどう思うか』「聖徒の道」1989年2月号、p.68)



#### M・ラッセル・バラード長老

「現実の人生で直面する様々な問題に対して、これほど示唆に富んだ書物は、私の知る限りモルモン経以外にありません。私がまだ若いころイギリスで伝道し

ていたときのことです。ある教会員ではない家族を訪ねました。その家族は幼い子供を突然亡くした直後で、とても大きな悲しみに打ちひしがれていました。その家族の所属する教会の牧師が、「息子さんはバプテスマを受けていなかったので、残念ながら永遠の罰を受けることになるでしょう」と教えていたからです。

そのような状況のときにその家族を訪問した私と同僚は、幼い子を亡くした母親の深い悲しみに接し、モロナイ8章8節をその母親に読んで聞かせました。

『汝の贖い主たり、汝の主たり、汝の神たるキリストの言葉を聞け。わがこの世に降りしは義人に悔改めを勧むるためにあらず。罪人に悔改めを勧むるためなり。医者の助けを必要とするは健康なる者にあらずして病人なり。幼児は罪を犯すこと能わざれば健康なる者なり。従ってアダムの受けたるのろいはわれにより幼児より取り去られてもはやかれらを如何ともする能わず。また割礼の律法もわれにより廃されてもはやなし。』

この言葉を聞いた母親は、救われた思いで涙を流しました。平安がおとずれ、悲しみがいやされたのです。

モルモン経を通して、現実の問題に苦しんでいる人々の生活にいくたび平安がもたらされたことでしょうか。モルモン経からもたらされる霊的な導きの例は、枚挙にいとまがないほどです。モルモン経に対する私の愛は深まる一方です。モルモン経を読むたびに、新しい光がそのページから私のもとへさし込んでくるように思えるのです。私はこのかけがえのない神聖な書物を心から愛しています。」



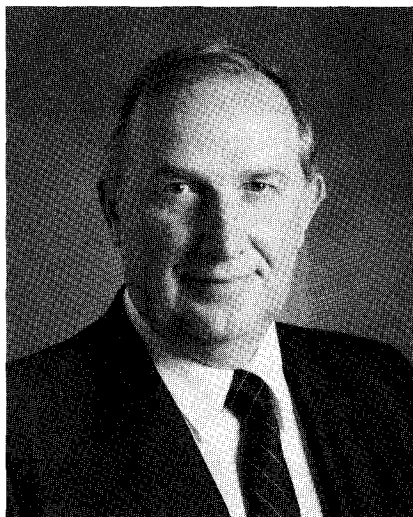
#### ジョセフ・B・ワースリン長老

「幸いなことに、私は幼いころからモルモン経に接してきました。私の両親は、神のみ力で書かれたこの書物を心から愛し、よく家でモルモン経を使って福音の原則について説明してくれました。おかげで、家族が皆こうした原則を理解できるようになったのです。

私は伝道中、自分のモルモン経を毎日使いました。この神聖な書物は、私にとっては格別重要なものであり、いつも私のそばにいる同僚のような存在でした。現在では、そのモルモン経も表紙がすり切れ、紙がボロボロになっています。しかし、その本をもう一度開いて読んでいくとき、私の心はまた、ニューファイ人やレーマン人、ジェレドの民の予言者たちの靈感に満ちた言葉を味わうことができます。私は十代のときに初めてこの本を読み通したのですが、そのとき、私はそれがなんと神聖で感動に満ちた聖典であるかがわかったのです。この霊的で貴重な教えについて私がこれまで蓄積してきた知識は、現在、私にとって以前にも増

して大きな意味を持っています。私たちの予言者であり聖見者であり啓示を受ける者である方が、この神聖な書物の大切さをたびたび訴えておられるので、私にはこの書物がさらに大きな意味を持つようになりました。

私は教会員がひとり残らずこの神聖な書物を読むように望んでいます。それは、この書物が福音についてさらに深い知識を与えてくれるからにほかなりません。」



#### リチャード・B・スコット長老

「メキシコシティー神殿の献堂式のときに、私は自分の生活が変わるほどの大きな経験をしました。それはメキシコや中央アメリカの多数の男女の指導者が出席した8番目の献堂セッションのときでした。思いがけなく話を頼まれた私は、心にあふれる強い感動を伝えようと努め、今は亡き幕のかなたの人々のことを話しました。彼らは予言の成就に際し、み業の新たな時代の幕開けを迎えるために、奉仕し、苦勞し、多大の犠牲を払って基礎を据えた人々です。

モルモン経という聖なる記録を刻み、保護してきた代々の予言者のために、私は心の願いを語りました。私たちが読みもしないモルモン経をわきに抱えてあちこち歩くこともなく、中身を読んで考えも実行もせずにほこりをかぶらせたまま家に飾っているのを、彼らが見たら悲しむと感じたのです。……

モルモン経の中には誤った言い伝えの影響を正し、全き人生を享受するための教えが神の知恵によって収められています。モルモン経は、現代の私たちが直面している問題や試練の解決法を教えてくれます。主は私たちの問題や試練を予見し、この書の中で生活上の深刻な過ちを正す方法を示されました。しかし、書物自体が閉じられたままで読まれることがなければ、そうした導きも意味のないものになってしまいます。

私は、モルモン経を尊び、それが神によって記されたものであることを証するだけでは十分でないことを、会場の人々に証しました。むしろ、その中に収められた真理を知り、それを生活の中に取り入れ、人々と分かち合う必要があるのです。私はその場の人々に言い尽くせぬ愛を感じ、モルモン経の価値をひとり残らずすべての人に知ってほしいと痛切に思いました。」(『引き上げてくれる真の友』「聖徒の道」1989年2月号, p.78)□



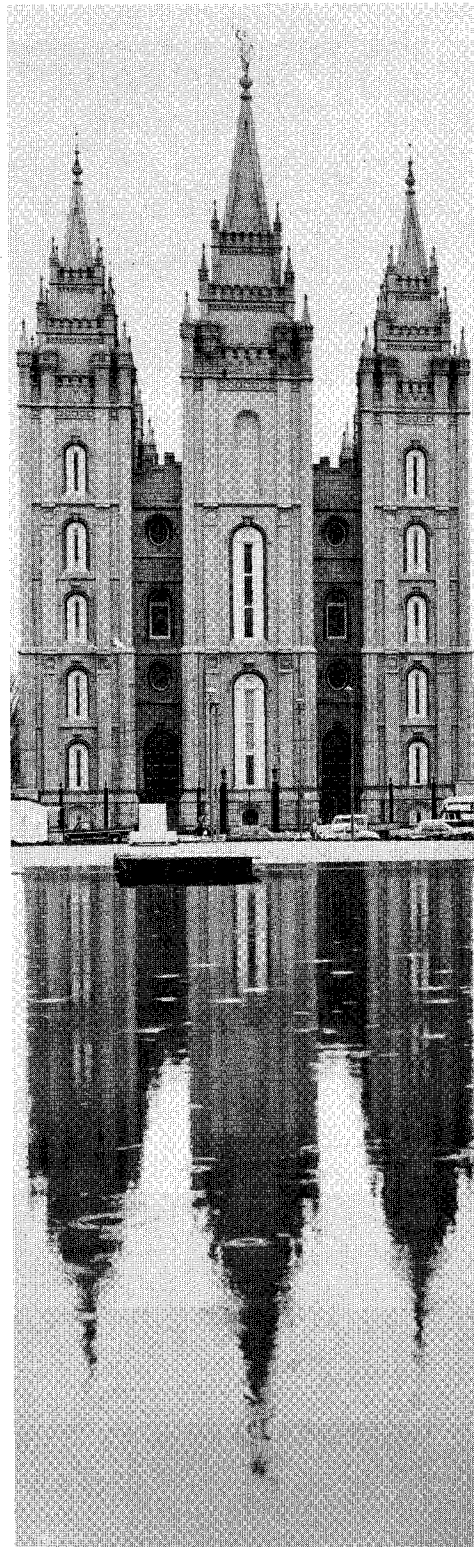
## ●家庭訪問メッセージ●

# 神殿の祝福にあずかるためのふさわしさ

目的：神殿の儀式を受け、死者の贖いの業を推し進めるにふさわしくなるように姉妹たちを励ます。

**神**殿の外壁には必ず、「主の宮居」という文字が刻まれています。そしてその神聖な宮居の中には、文字どおりの意味において、あるいはみたまの臨在という意味において、主が住まわれ、人々に啓示を与えられるのです。神殿は教え、決意、奉仕、交わりの場です。また地上で最も神聖な場所です。私たちは人々の救いに必要な儀式をこの神殿において受けるのです。エンダウメントと結び固めの儀式を通して私たちは主と神聖な儀式を交わり、永遠の生命の約束を受けます。また神殿では死者を救うための儀式も執行されます。

私たちは神殿の儀式を受けているか否かにかかわらず、神殿の業のために貢献することができます。まだエンダウメントを受けていない姉妹でも、神殿に参入して死者のためのバプテスマを受けることはできます。独身の姉妹たちにもエンダウメントを受ける道は開かれています。ですから、将来に備えて計画を立てることができます。神殿外で結婚した人でも、監督や支部長から推薦状を受け、夫の承認を得るなら、神殿に参入することができます。また自分の家族に対して、神殿に参入して結び固めを受けるように勧めることもできます。すでに自分自身の神



殿儀式を受けている人々は、自分が交わした誓約を尊ぶように日々努力しなければなりません。

人名を提出して、死者のための儀式を受けに神殿に参入するのは、神殿活動としては非常に目立つものです。しかし十二使徒評議員会会員のダリン・H・オークス長老は、ほかにも参画する方法はいろいろあると話しています。ワード部家族歴史相談員、儀式執行者などとして働くこともすべて、死者の贖いを助けるための活動です。(今月号「賢く秩序正しく」参照)

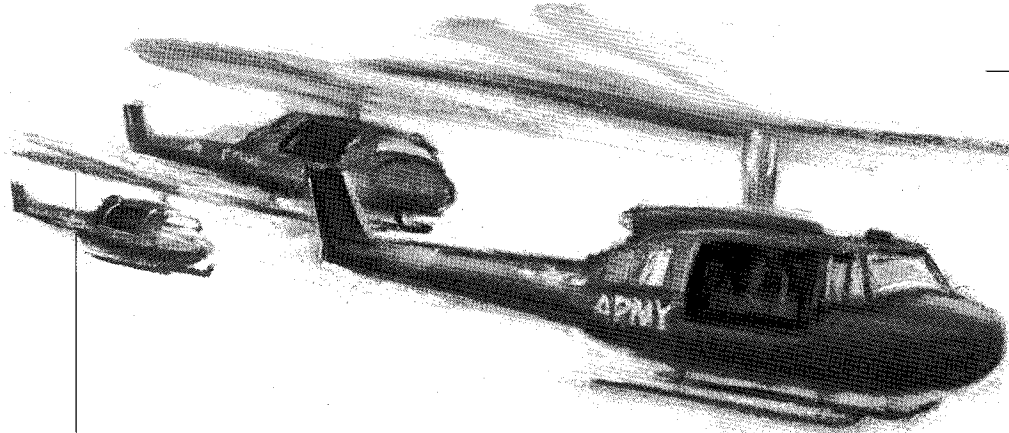
心を謙遜にして神殿参入に備えるなら、神殿に参入するとき主のみたまを感じることができるという強い証を得ることができるでしょう。まだ神殿の儀式を受けていない人であっても、死者の贖いの儀式を通して、また将来受ける儀式に備えてふさわしい生活をするを通して、神殿礼拝に参画することができるのです。

□

### 訪問教師への提案

1. 神殿参入について、また神殿参入に備えることについて訪問先の姉妹の気持ちを聞く。あるいは自分の考えていることを述べる。
2. 神殿推薦状にふさわしい生活をするよう、愛の気持ちをもって勧める。

(「家庭の夕べアイデア集」pp.54-57, 94-98, 199-202, 203-204 参照)



ロバート・K・ヒルマン

**私**は2年間、アメリカ兵としてベトナムに行っていました。ベトナムには、いずれも高温の、乾季と雨季のふたつの時期があります。今朝も、ここ数週間来続いている、気温の高い湿った状態でした。私は浅い溝に腰を下ろしていました。疲れきっていて、泥水が軍靴の中に入ってきて、血が混じった汚水の悪臭が鼻をついても、いっこうに気になりません。額から汗がしたたり落ち、シャツをぐっしょりぬらしています。蒸すような暑さのために、呼吸することさえ苦しく感じられます。

私は3週間前から偵察隊の任務に就いていました。そのときは、生き残った同僚たちと一緒にベースキャンプへ引きあげるため、迎へのヘリコプターを着陸地点付近で待っていたのです。

私は2、3日前からのことを考えていました。死んだ友人のこと、生き延びた人々の苦しみ、そしてすべてに嫌気がさしていた自分のこと……。来る日も来る日も偵察に明け暮れていました。昼は敵兵を追跡し、夜は彼らが自分たちを捜しに来ないように祈ったものです。ところがいつも敵兵はやって来るのでした。

突然、頭上を弾丸がうなづいてかすめ、私は本能的に溝にかがみ込みました。敵の狙撃が始まったのです。うかうかできません。味方の歩哨がジャングルをうかがっているのですが、ライフル射撃がどこから来たのかつきとめられません。

同時に、ヘリコプター編隊の爆音があたりを揺るがし、そのうち3機が私たちの後方10メートル辺りに着陸しました。敵を引きつけるための機銃掃射が始まりました。交替要員の兵隊がヘリコプター

から素早く出動して溝に伏せ、仲間の負傷者がかつぎ込まれました。わずか数秒で搭乗者は入れ替わり、ヘリコプターは再び飛び立っていきました。次が私たちの番です。「あと少しだ。」私は立ち上がってしびれた足を伸ばしたい衝動をこらえながら、自分に言い聞かせました。

辺りは再び静まり返ったようになりました。押し殺した話し声と、ときどき聞こえる銃声以外は、静けさを破るものはありません。ふと、聞いたような節の口笛が聞こえてきました。何の歌だろう。恐れを静め、戦いを忘れさせてくれるような音色です。私は耳を澄まし、辺りを見回して、1メートルほど離れたところに座っている兵士に目を留めました。名札はよく見えませんが、相手は到着したばかりの隊の一兵卒でした。彼は口笛を吹き続けています。すると、私にも曲名がわかりました。賛美歌の『感謝を神に捧げん』です。

私はすぐさま彼のところへはい寄っていき、末日聖徒かどうか、神権を持っているかどうか尋ねました。そうだ、という返事に、私の胸は高鳴りました。数カ月前にサイゴン支部に出席して以来、ひとりの教会員とも会っていなかったのです。聖餐を祝福できる状態かどうか尋ねると、資格はあるという返事でした。

その日は安息日でした。もっとも曜日と日付は、時計でしかわかりませんでした。

た。配給の乾パンと水筒を持っていたので、一緒に聖餐をしてほしいと頼みました。彼はうなづきました。私たちは溝をはい出て、背の高い草や竹の生い繁った、ほかの兵たちから見えない場所へ移動しました。

私は、徴兵通知が来たときに監督からもらった軍人用の「福音の原則」を、胸ポケットから取り出しました。そして、ヘルメットを逆さにしてテーブルの代わりとし、彼が白いきれいなハンカチを出して聖餐の布にしました。そして新しい同僚と泥の中にひざまずき、乾パンの包みをあけ、割って祝福したのです。私が祈っている間、同僚はライフルをかまえて、ジャングルの方を警戒していました。そして、お互いにパンを取り合いました。次に彼が武器を置いて水筒の水を取り、

# 戦争のさなかで味わった平安

祝福する間、私が見張りをしたのです。

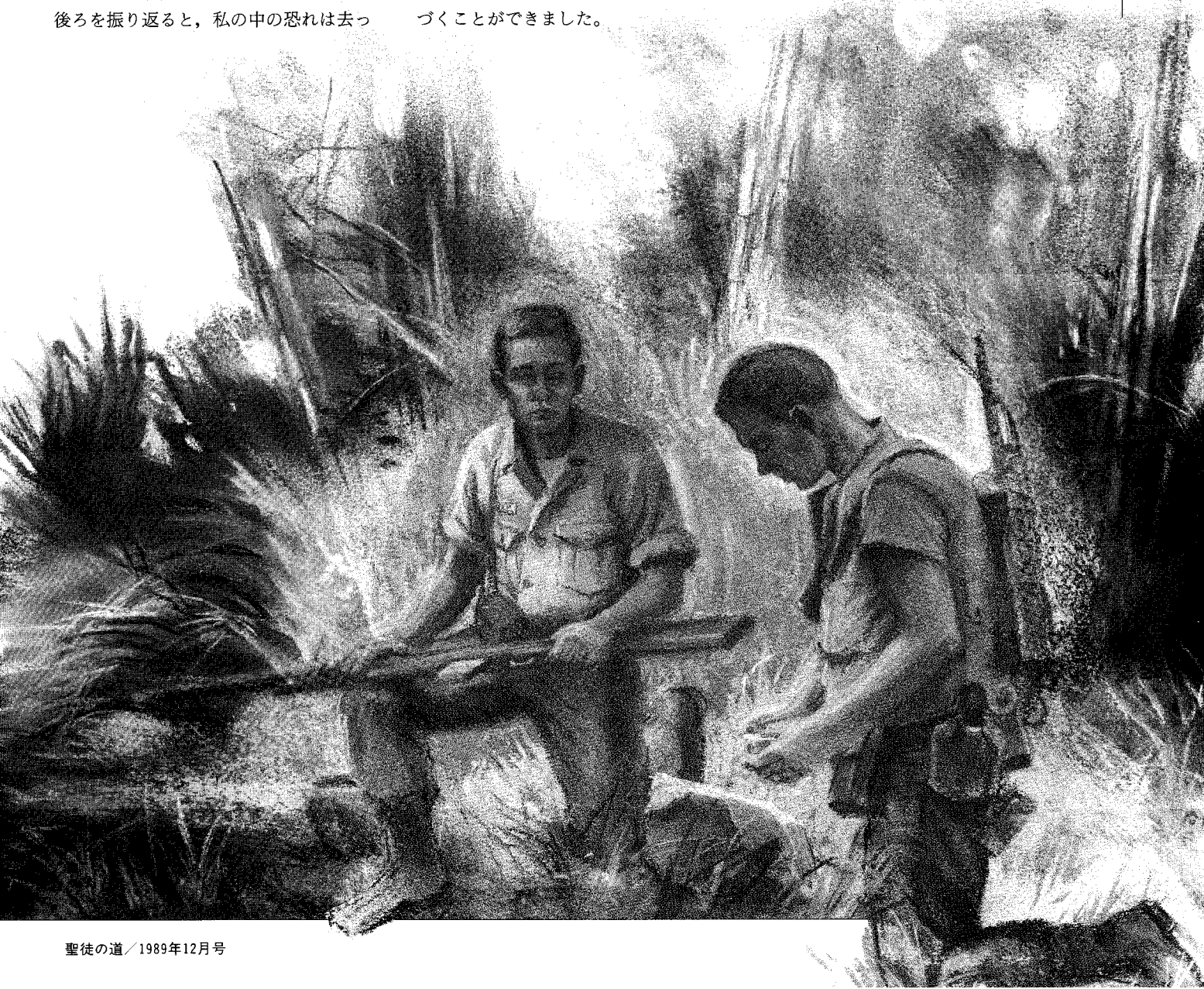
一生のうち、あの日の聖餐のパンほど甘く、あの日の水ほど清らかなものはありませんでした。そして、あのときの儀式ほど力を与えられたこともありません。ふたりはしっかりと手を握り合い、それから急いで安全な溝の中へ戻りました。すると、すぐにまたヘリコプターの爆音が空気を震わせ、私は起き上がって同僚たちと共に着陸地点へ走っていきました。後ろを振り返ると、私の中の恐れは去っ

ていました。福音で結ばれた私の兄弟が、笑顔で手を振っています。私はヘリコプターに乗り込み、その場を後にしました。

あの兵士の名前を、私は聞きませんでした。彼も私の名前を聞きませんでした。しかしあの短い数分で、私たちは永遠に続くきずなを結んだのです。あの兄弟は私の心を戦争の恐怖と絶望から救ってくれました。ジャングルの中で聖餐を取ったとき、私はかつてなかったほど主に近づくことができました。

福音の儀式を通して、私たちは平安を見いだしたのです。□

\*ロバート・K・ヒルマン：カリフォルニア州シトラスハイツステーク部シトラスハイツ第8ワード部所属。



# 「賢く秩序正しく」

十二使徒定員会会員

ダリン・H・オークス

私たちは死者の贖い、  
また神殿活動、  
家族歴史活動を推し進めるために、  
数多くの面で貢献することができます。  
そのいずれも  
キリストの真の弟子としての働きと  
献身を表わすものであることに  
違いはありません。

**主**なる神はモーセに向けて、神のみ業と栄光は「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」ことにあると言われました。(モーセ1:39)人が不死不滅の体を得ることは、イエス・キリストの贖いと復活によってすでに確かなものとなっています。そして私たちは、人に永遠の生命をもたらすというみ業の一翼を担う特権を授けられています。それが教会の使命です。

教会の使命を果たすために私たちが今している働きは、福音の宣言、聖徒の完成、死者の贖いという3つの視点に立って組織されています。すでにご承知のように、この3つは分かちがたく緊密に結びついています。

今からいくつかの一般的な原則を述べたいと思います。それはすべての末日聖徒に、自分自身のための儀式を受けるとともに、先祖のために永遠の儀式を受けるよう励ましを与えるに違いありません。この教会の会員は家族の歴史を探求します。それは生者と死者に救いの儀式にあずかる機会を与えるためです。その理由については次のように書かれています。「われらは、キリストの贖罪により、すべての人類は、福音のおきてと儀式とを守ることにより救われ得ると信ず。」(信仰簡条第3条)

**第1の原則。**神殿活動また家族歴史活動を推進するための私たちの働きは、主のみ業を成し遂げるにふさわしいものでなければなりません。限られた時間の中で達成できなかったという理由で、神の子供たちを責めたてるようなことがあってはなりません。ひと口に教会員といっても、一人一人が置かれている状況は様々です。年齢、健康状態、教育、住んでいる場所、家族に対する責任、経済力、個人



的にあるいは図書館を通してどれだけの資料を利用できるかなどという点をはじめとして、実に様々な状況にあります。もしこれらの違いを考慮に入れずに、働きを求めていくと、み業を進めるどころか、教会員に罪悪感を高じらせてしまうようなことにもなります。

**第2の原則。**死者を贖うための業の中には、なすべき事柄が数多くあり、教会員は皆、特定の時間に個々の状況に適した方法を祈りによって選択し、みずからの責任を果たしていくべきです。この業は主のみたまの導きと、神権指導者の指導の下に行なわれるべきものです。神権指導者は家族の歴史に関する召しを教会員に与え、教会という組織体の中でこの業にかかわる指示を与えていきます。

私たちに求められているのは、すべての人にすべてのことをするよう強いるのではなく、すべての人に何かを果たすよう励ましを与えることです。

教会員は死者の贖い、また神殿活動、家族歴史活動を推し進めるために、数多くの面で貢献することができます。その中には召しに関連して果たすべきものもあれば、個人的にできることもあります。しかし、そのいずれにしてもキリストの真の弟子としての働きと献身を表わすものであることに違いはありません。またどの働きも犠牲と奉仕の精神によってなされるものです。

私たちが最初に考えるのは、死者の名前を書いた記録を提出して、神殿に行き、身代わりの儀式を受けることです。しかし、この業にはほかにも数多くの責任があります。ワード部家族歴史相談員、記録センター宣教師、またマイクロフィルム<sup>マイクロフィルム</sup>の作成、図書館の仕事、データ入力、人名抄<sup>抄</sup>出などの責任で働く人々もいます。神殿宣教師、儀式の執行を助ける人、記録係、受付などの責任もあります。また人目につくことなく神殿の中で食事の準備、クリーニング、託児<sup>しゅつ</sup>などの責任を黙々と果たしている人もいます。

そして、そのすべての人々の陰に、彼らを支え励ます家族や友人がいることも忘れてはなりません。たとえば、神

殿に参入する人々のために子守り役をする若い女性や、夜遅くまで宿泊の世話をする夫婦なども、神殿活動に対して大切な働きをしているのです。

神殿活動、家族歴史活動の中でも非常に重要な責任のいくつかは、家庭で行なわれます。自分の家族の系図記録を最新の状態に保つことや、結び固めの儀式がすべて行なわれているかどうかの確認も確かに大切なことです。しかし、私がここで言及したいのはそのような種類の責任ではありません。私たちはそれぞれ家庭において、日記をつけ、家族の覚えの書に入れる写真やデータなどを集める責任があります。

また、親戚の人々から得られる情報を集め記録する仕事もあります。さらには家族の歴史を書き、そこから得られるすばらしい教訓を子供たちに伝える責任もあります。エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように教えています。「家庭は、永遠の価値を持つ事柄を教える最適の場所です。」(『家族を永遠のものとするために』「聖徒の道」1983年1月号、p.104)教会の使命達成のためになすべき重要な責任のひとつに、言葉と模範によって子供たちに教会の教えを説き、それを実生活にどう取り入れるかを教えるという務めがあります。若い夫婦はあまり多くの家族の記録を提出できないとか、社会の第一線を退いた両親のように頻りに神殿参入ができないという理由で罪悪感を持つ必要はありません。

実際には働き務めていながら、自分は教会の使命の達成に貢献していないと思い込んでいる人もいます。このような思い込みは働きが不十分だからではなく、状況認識が不十分だからです。たとえば小さな子供を幾人も抱えた母親ならば、それぞれの家庭において、教会の使命を3つの分野すべてにおいて果たしていくことができます。子供を伝道に備えさせることもそのひとつです。また神殿を尊ぶように教え、そこで交わす誓約に対する備えをさせたり、日目の生活の中で自己の完成のためにどう努力したらよいか



を教えたりすることなども、教会の使命を達成するための働きのひとつに数えられます。

**第3の原則。**教会員は福音の宣言、聖徒の完成、死者の贖いの業を教会の使命としてとらえるだけでなく、一人一人に与えられた責任として考えるようにするとよいでしょう。教会員は皆この3つの分野において何らかの活動を継続的に行なうべきです。ただし、自分が置かれている現在の状況や力をよく考え、自分の生活を全体的な視野でとらえ、無理のないようしなければなりません。

教会の使命の3つの分野は互いに共通した部分を持ち、決して切り離して考えるべきものではありません。人を誘って神殿に行く人は、死者の贖いだけでなく、聖徒の完成のために働いていることにもなります。神殿に参入する人は、主の宮居の中で、教会員同士の交わりとみたまによって強められることでしょう。成人会員には神殿で自分自身の儀式を受け、そこで交わす誓約を守り通すように励まし、若人に対しては伝道や神殿結婚に備えるよう奨励すべきです。

### どこまで期待されているのか

教会の召しのほかに、個人的にどれほどのことができるのか、また何ができるのかという点については、ベンジャミン王の偉大な説教の中に語られている原則を指針とすべきです。ベンジャミン王は貧しい人を助けることなど、「罪無しに神の前を歩く」ためにしなければならないことについて民に教えた言葉の中で、次のように言いました。「お前たちは注意してすべてのこれらのことが賢く秩序正しく行われるようにせよ。人がその力以上のことをするのはぜひ必要ではない。」(モーサヤ4：27) 予言者ジョセフ・スミスがモルモン経の翻訳に苦闘していたときに、主は彼に次のみ言葉を授けられました。「汝更に急ぐことなく、または翻訳し得るために与えられたる力と方法以上に働くこと

なかれ。ただ終りまで励むべし。」(教義と聖約10：4)

指導者は教会員に対して、これらの靈感あふれる言葉を指針としてみたまのささやきに従い、各自の「力と方法」を考え、「賢く秩序正しい」方法で神殿活動、家族歴史活動として自分に何ができるかを定めるよう励ます必要があります。このようにして、「終りまで励む」なら、成功を取めることができるでしょう。神殿と家族歴史に関する業をさらに推進するためになすべきことは数多くあります。一人一人の教会員の力を広く結集するなら大きな成果を生み出すことができます。

神殿活動、家族歴史活動に関して個人的に何を行なうかを計画するときには、ただ遠大なだけでなく、とにかく生涯続けて行なうという観点から見通しを立てなければなりません。教会の使命を達成するためにどれほどの時間と力を注げるか、すなわち人生の特定の時期に何ができるか、また何をしなければならぬかということは、状況の変化に応じ、時とともに変わっていきます。また3つの各分野にかかる相対的な時間の量も変化していきます。

### 「すべてのわざ」

私たちは皆、以下の賢明な教えをよく知っています。「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。……捜すに時があり、失うに時があり、保つに時があり、捨てるに時がある。」(伝道3：1、6) 指導者はこれが確かに真実であることを教えるとともに、みずからこれを応用して決定を下していくべきです。

私たちは人生の中で様々な教会の召しを受けますが、どの時期にどのような召しを受けるかによっても、教会の使命達成に向けて何をすることが大きく左右されてきます。たとえば、専任宣教師は伝道という責任にすべての思いを傾注します。それは「季節」にかなったことであり、ほかの分野にどれだけ力を注ぐかは、当然のことながら変わって



きます。

私が法律学校に学んでいたころ、最寄りの神殿から2,200キロも離れた所に住んでいました。学費や幼い子供たちを養うためのお金を稼ぐのはとても大変でした。その当時、私たち夫婦は、夏にユタへ戻ったときだけは神殿に参入することができましたが、ほかのときはとても無理な状況でした。当時の私の神権指導者は、参入の回数が少ないことで私に罪悪感を持たせるようなことは何も言いませんでした。私はそのことを感謝しています。数年後に私はワシントンD.C.で働きましたが、そこでは図書館で膨大な量の資料を利用することができ、教会の召しのほかに、家族の歴史の探求に力を集中することができました。後にほかの市へ引っ越してからはステーキ部宣教師として召され、優先順位が家族歴史活動から伝道活動へ移りました。

### 「賢く秩序正しく」

現在の状態の中で「賢く秩序正しく」い方法で何ができるかを祈りをもって判断するよう励ますことは、教会を管理するうえでも、また個人の成長を図るうえでも大切な原則です。割り当てや責任という名のもとに、大切な原則が無視されることがあります。昔はよく、定員会や扶助協会の会員に対して月に何回か回数を定めて神殿に参入する割り当てがなされたというような話を聞いたことがあります。

また地区の指導者が財政的必要を満たすために、ワード部の会員たちに同額の献金を割り当てたというような話もよく聞きました。しかし、それらは個々の状況の違いや自発的な捧げ物の精神を無視したものです。そのような献金の割り当ては、自由意志による捧げ物がもたらす祝福を否定してしまうものです。

ベンジャミン王は「すべてこれらのことが頭割り方式で行なわれるようにせよ。たとえ力以上のことを求められても、その通りにせよ」とは言いませんでした。(モーサヤ

4：27参照)また予言者ジョセフ・スミスも、「私は人々に正しい原則を教え、次に献金割り当てをする」というようなことは言っていません。(「説教集」10：57—58参照)

私たちが理解し、実践すべき原則をまとめてみたいと思います。

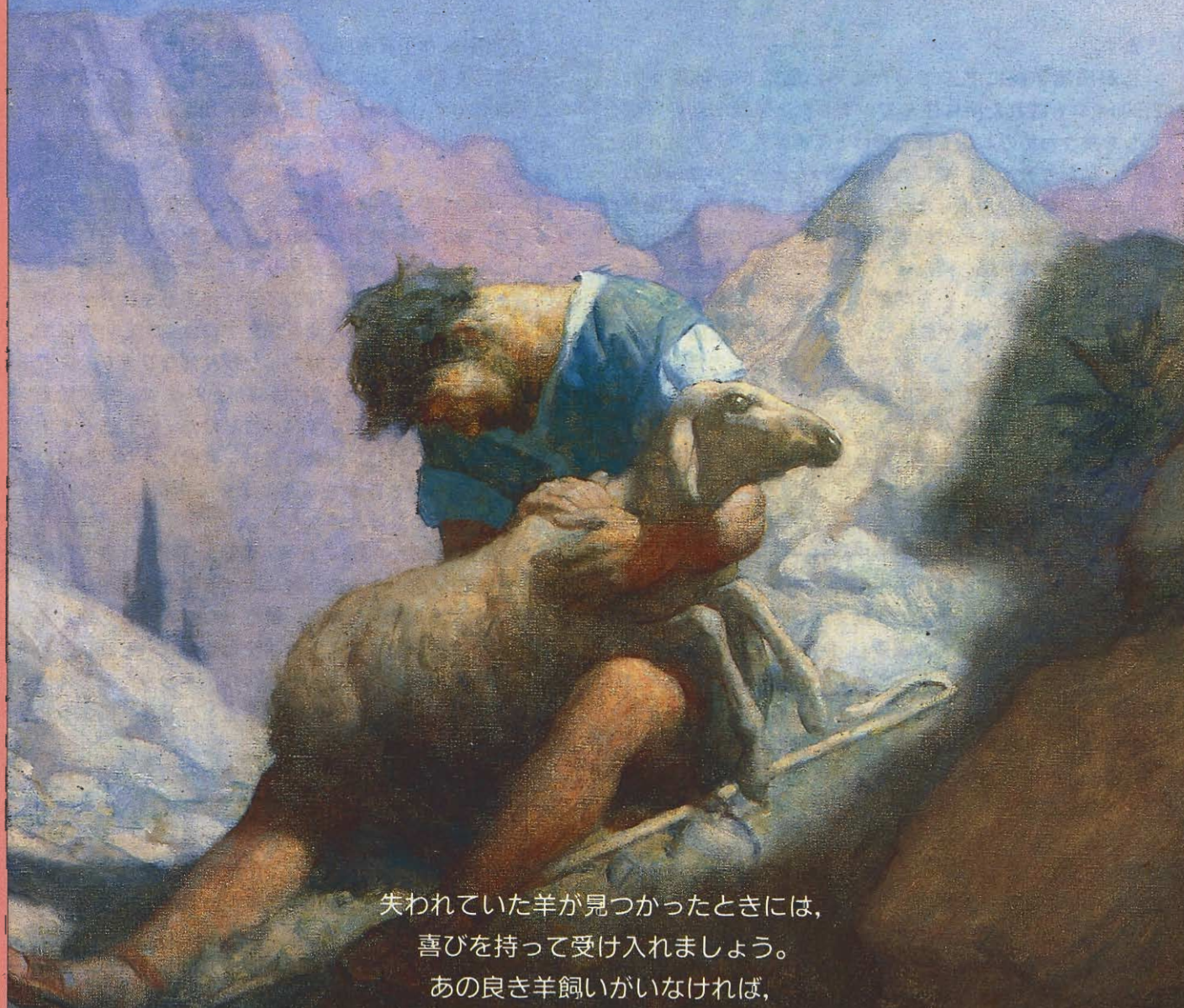
(1) すべてのことは秩序正しく賢く行なわなければなりません。私たちは教会員がそれぞれに異なる状況にあるということを認識する必要があります。また私たちはこれらのことを考慮に入れて、神の子らに罪悪感を持たせるような方法ではなく、主のみ業を果たすにふさわしい方法で、教会の使命の達成に向けて努力しなければなりません。

(2) 天が下のすべての業には時があります。神殿活動また家族歴史活動としてなすべきことはたくさんあります。私たちは教会員に対し、教会の召しを考慮に入れ、各自の状況の中で何ができるかを祈りによって選択し、「終りまで励む」よう勧めなければなりません。

(3) 教会員は皆、福音の宣言、聖徒の完成、死者の贖いという教会の使命の3つの分野における働きを、生涯をかけて行なうべき個人的な務め、特権として考える必要があります。また自分がどのような状況に置かれ、どれほどの力を持っているかを考慮に入れながら、主のみたまと神権指導者の導きのもとに、自分の働きをときどき評価することも必要です。

私たちは親族間の組織を作り、家族の計画を立てなければなりません。また心を奮い立たせ、祈りを捧げ、教義を学んで、子供たちにも教えなければなりません。そして生者と亡き先祖たちの事柄を調べて、推薦状を受け、神殿に参入し、誓約を交わし、儀式を受けなければなりません。みずからの責任をまっとうして、人々を永遠の生命に導くための方法を兄弟姉妹に教え示す人は、自分自身も祝福を授けられることでしょう。なぜなら、それが神の業であり、神の栄光だからです。□

「わたしと一緒に喜んでください。  
いなくなった羊を見つけましたから。」  
(ルカ15：6)



失われていた羊が見つかったときには、  
喜びを持って受け入れましょう。  
あの良き羊飼いがいなければ、  
私たちも皆失われた羊になっていたのです。  
(Ⅲニーファイ18：31-32参照)

## 新たな責任を受ける教会幹部

—総大会における発表—

9月30日と10月1日の両日にソルト  
レークシティで行なわれた第159  
回半期総大会において、大管長会は教会幹  
部のいくつかの責任の異動を発表した。

その内容は、七十人会長会への新たな2  
名の会長の指名、現在の教会幹部の中から  
8名の名誉教会幹部の誕生、他の8名の教  
会幹部の解任である。さらに、中央日曜学  
校会長会および中央若い男性会長会が再編  
成された。

七十人会長会の新たな会長として指名を  
受けたのは、レックス・D・ピネガー長老  
とカーロス・E・エイシー長老である。ふ  
たりは、W・グラント・バンガーター長老  
とヒュー・W・ピノック長老の後任となる。

ピネガー長老は1972年10月6日に七十  
人第一定員会会員に召され、それまではバ  
ージニア・ノースカロライナ伝道部長の任  
にあった。

エイシー長老は1976年4月3日に七十  
人第一定員会会員に召され、西ドイツ、フ  
ランクフルトで教会のヨーロッパ地域会長  
を務めた後、合衆国に戻ったばかりである。

また、8人の教会幹部が名誉教会幹部と  
なった。この地位は、健康状態および年齢  
などの要素を考慮して1978年10月に初め  
て設けられたが、教会幹部の職から解任す  
るものではなく、多忙な職務から生じる重  
圧を免じるための措置である。新しい名誉  
教会幹部は、以下のとおりである。

セオドア・M・パートン長老(82歳、  
1960年に教会幹部として召された)。前系  
図部(現家族歴史部)部長、ヨーロッパにお  
ける教会プログラムの管理責任者、西ドイ  
ツおよびヨーロッパ伝道部の各伝道部長な  
どを歴任。

ロバート・L・シンプソン長老(74歳、  
1961年)。管理監督会副監督、太平洋地域  
会長、ロサンゼルス神殿長、ニュージーラ  
ンドおよびロンドン東伝道部の各伝道部長  
などを歴任。

ビクター・L・ブラウン長老(75歳、

1961年)。管理監督を13年間務めた後、  
1975年に七十人第一定員会会員に召され  
た。

ポール・H・ダン長老(65歳、1964年)。  
ユタ州南部地域会長会第一副会長、神権管  
理部部長、七十人会長会会員などを歴任。

J・トーマス・ファイアズ長老(71歳、  
1974年)。南北両アメリカ南部地域会長、  
七十人会長会会員、ウルグアイ伝道部伝道  
部長などを歴任。

W・グラント・バンガーター長老(71歳、  
1975年)。七十人会長会会員、ブラジル、ポ  
ルトガル・リスボン、および国際伝道部の  
各伝道部長などを歴任。

ロイデン・G・デリック長老(74歳、  
1975年)。アジア地域会長会副会長、七十  
人会長会会員などを歴任。

レックス・C・リーブ長老(74歳、1978  
年)。北アメリカ北東部および北西部地域  
会長、カリフォルニア・アナハイム伝道部  
長などを歴任。

(この8人は、ジョセフ・アンダーソン  
長老、バーナード・P・ブロックバンク長  
老、スターリング・W・シル長老、エルド  
レッド・G・スミス長老、ジョン・H・バ  
ンデンバーグ長老の5人と共に名誉教会幹  
部となる)

さらに8人の教会幹部が、5年の任期を  
終了して七十人第二定員会から解任された。  
大管長会は、この8人の教会幹部が召され  
た際、任期は5年であり、「その後、名誉と  
感謝をもって解任される」と発表していた。  
解任される教会幹部は以下のとおりである。

ジョン・ソネンバーグ長老、67歳、太平  
洋地域前会長。F・アーサー・ケイ長老、  
73歳、太平洋地域前会長。フィリップ・  
T・ソントッグ長老、68歳、フィリピン/  
ミクロネシア地域会長会前副会長。ラッセル  
・C・テイラー長老、64歳。ロバート・  
B・ハーバートソン長老、57歳。デビア・  
ハリス長老、73歳。スペンサー・H・オズ  
ボーン長老、68歳。キース・W・ウィルコ

ックス長老、68歳。

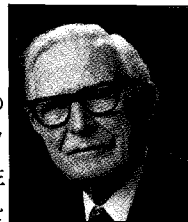
ヒュー・W・ピノック長老がロバート・  
L・シンプソン長老の後任として、中央日  
曜学校会長となった。副会長はデレク・  
A・カスパート長老とテディー・E・ブル  
ーアートン長老の予定。

ボーン・J・フェザーストーン長老は中  
央若い男性会長としてとどまり、新たに副  
会長としてジェフリー・R・ホランド長老  
およびモンティ・J・ブラフ長老が就任す  
る。

## 100歳の誕生日を迎えた ジョセフ・アンダーソン 長老

1989年11月20日、  
名誉教会幹部の

ジョセフ・アンダーソ  
ン長老は100歳の誕生  
日を祝い、教会歴史を  
通じて最も長命の教会幹部となった。



1889年に11人兄弟の末子として誕生し  
たアンダーソン長老は、教会の飛躍的な発  
展を見守ってきた。会員数は18万人から  
700万人に増加し、ステーキ部の数は32か  
ら1,700、伝道部の数は13から200をそれ  
ぞれ越えるまでに達している。

アンダーソン長老は、教会の4人の大管  
長(ヒーバー・J・グラント、ジョージ・  
アルバート・スミス、デビッド・O・マッ  
ケイ、ジョセフ・フィールディング・スミ  
ス)の秘書を務め、1970年に十二使徒定員  
会補助に召されるまでは、大管長会の秘書  
としても働いた。1976年には七十人第一  
定員会会員となり、2年後、90歳を迎えてか  
らは、名誉教会幹部として全面的な活動か  
ら退いている。

アンダーソン長老は、1911年から1914  
年まで専任宣教師としてスイスとドイツで  
伝道し、その粘り強さと機敏さとは、つと  
に知られている。95歳を過ぎても、アンダ  
ーソン長老は体調維持のために水泳を続け  
ていた。

「イエス・キリストの福音のおかげで、  
自分の人生に満足しています」と、アンダ  
ーソン長老は語っている。

# 「一つの心と一つの道」

アジア地域会長 ダグラス・H・スミス

今年、少し早目にクリスマスのプレゼントを贈られ、キリストについて考える機会になりました。贈り物は刺繍の壁飾りです。そこには、果樹や花々に囲まれた一軒の家のそばに立つふたりの男女が描かれています。ふたりの間には大きなハートの模様があしらってあり、絵の周りには次のような言葉が記されています。「そして彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。わたしは彼らに一つの心と一つの道を与える。」(エレミヤ32:38-39 参照)

この「一つの心と一つの道」という言葉を見て、どのようにすれば御父がその子供たちに約束されたすべてのものを受け継ぐことができるか、改めて考えさせられました。

すべての人は、家庭の中で思いにおいても行ないにおいても、神とひとつになろうと決心する必要があります。ザカリヤが主の宮で香をたき天使ガブリエルが姿を現わした時代にも、この原則は実践されていました。天使はザカリヤにこう告げにきました。「あなたの妻エリサベツは、あなたたちが長年祈り求めてきた子供をみごもっています。生まれてくる子供に『ヨハネ』と名づけなさい。」ザカリヤは天使の言葉に疑問を持ちました。彼も妻も「年をとって」いたからです。そこで天使はザカリヤにこう告げました。「私はこの喜ばしい知らせを宣べ伝えるために主のみ前から遣わされたが、あなたは信じなかったので、子供が生まれてくるまで口がきけなくなる。」

この同じ天使は、ヨセフと婚約していたマリヤのもとにも神によって遣わされました。天使ガブリエルがマリヤに、あなたは神の子を生むので、その子にはイエスと名づけなければならぬと告げると、マリヤは、まだ夫を知らないのにどうしてそのようなことが起きるのでしょう、と尋ねました。すると天使は、非常に簡潔ながら十分な説明をしました。それに対するマリヤの心の思いは、次の答えによく表わされていま

す。「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。」(ルカ1:5-38参照)

マリヤとエリサベツはふたりをひとつに結びつけたこれらの奇跡に思いをめぐらしながら時を過ごしました。ふたりは身に受けた幸福のために、思いがひとつになっていました。ふたりは主に忠実であり従順であつたために、道がひとつとなりました。思いにおいても、命じられた事柄においても、一致していました。

天使にあらかじめ告げられたとおりに、ヨハネとイエスは奇跡によって誕生しました。口がきけるようになったザカリヤは、神を賛美しました。

イエスがお生まれになったのは、羊飼いたちが羊の番をしているときでした。信仰あつた羊飼いたちのもとに天使たちが送られ、神を賛美して、救い主の誕生という奇跡を知らせました。そこで、羊飼いたちはベツレヘムに行きました。そしてその従順さのゆえに、飼葉おけの中に眠っているお方とひとつになることができたのです。彼らは世の救い主となるお方を幼な子の姿で見ました。疲れきつたこの世の人々に平安を与え、全人類に喜びをもたらすために来られたお方を見たのです。そのとき羊飼いたちの心は、父なる神、そして愛子イエス・キリストとひとつになっていました。

子供がこの世に生まれるたびに、奇跡が起きています。花も木も、天地も海もみな、万物の造り主であるお方の栄光を表わしていますが、それでも人生は不思議に満ちています。神はその偉大な力をもって今もなお、その子供たちに心を配っておられます。私たちが神の民となり、主を神とするように望んでおられるのです。

また別の日には、博士たちが主に贈り物をしました。私たちがそうすべきではないのでしょうか。みこころに従う望みと信仰に満ちた心を、主に捧げようではありませんか。もし、心からの贈り物として主のみこころを行なうなら、私たちは主の奇跡を見

るでしょう。1990年に、もし末日聖徒イエス・キリスト教会のアジアの会員一人一人が、生ける予言者を通して主が私たちに行なうよう望んでおられる事柄を、忠実に実行しよう決心するなら、私たちは少なくとも以下の事柄を行なうようにしましょう。

- ステーク部宣教師に友人、知人を「ひとり」紹介する。
- もう一度活発になれるように、「ひとり」のお休み会員に働きかける。
- バプテスマを受けたばかりの「ひとり」の新会員をフェローシップする。
- 「ひとつ」の神殿推薦状、つまり自分自身の神殿推薦状を受けるように努力する。
- できれば、少なくとも月に「1回」は神殿に参入する。(あるいは、家族の記録を「1枚」完成させる、霊的な体験を何か「ひとつ」記録しておく、先祖を「ひとり」探し出してその記録をつける、など)
- ワード部やステーク部の指導者は各自の責任を忠実に果たし、少なくとも以下の事柄を行なえるように決心をするとよいでしょう。
- 毎年「1回」は目標を立て、自分の管轄する人々にそれを説明する。
- 半年に「1回」は伝道を目的としたオープンハウスを開く。
- 再活発化の日を「1日」設け、活発な会員全員に適切なフォローアップの責任を割り当てる。
- 指導者と会員のために、神殿団体参入の日を「1日」設ける。
- 提出された報告書を毎月「1回」入念に検討し、必要な指示や励まし、心からの感謝を伝える。

このようにすれば、ステーク部宣教師も専任宣教師も主のみ業に全身全霊を打ち込んで働けるでしょう。また主がこの地上で歩まれたように歩むことができるでしょう。つまり、人々を祝福し、福音を宣べ伝え、霊的あるいは知的な理解力を伸ばすことができるはずで、さらに、宣教師一人一人が言語を習得し、主の道を教える際に人々と心を通わせられるようになるでしょう。

こうした贈り物はこのクリスマスだけでなく、1年中、主に捧げることができます。私たちにはそのようにする力があります。

そのためには信仰と従順さが求められるでしょう。主と「ひとつ」になりたいという望みが私たちの心の中に育ちますように。主が私たちに行為を望んでおられる業に、私たちが取り組みますようにお祈り

いたします。聖典に記録されている、神のみ前から送られた天使のメッセージが私たちの心を奮い立たせますように。そして、主が神となられることを私たちが認めるときに、そのメッセージが主の民の一員となる

ために役立つよう願っています。心を「ひとつ」にし、道を「ひとつ」にして、キリストのみもとに来てください。

## アジア地域から

### 難民も皆人間

クリスティン・オールレッド

たいていの外国の人々は「香港」という言葉を聞くと、ぜいたくなショッピングや素晴らしい中国料理が楽しめる、天国のような島を思い浮かべます。ところが、ベトナム人にとっては、「香港」へ行くことは、自由へ一歩近づくことなのです。

私は3カ月間、香港で難民の目を通して世界を見る機会を得ましたが、私の目に映ったものは驚くべき事柄でした。書物は私たちの精神を教化してくれますが、人間の心を変えるのはやはり人間です。私がここを訪れたのは調査のためでしたが、それが結果的には私の人間に対する見方を変えることになりました。

多くの人々は一生の間、自分が持つ真の可能性とは無関係の様々な「レッテル」を張られます。否定的な「レッテル」を気にしていれば、自分には何の取り柄もなく、ほかの人と比べてごく平凡な人間に過ぎないと思込むようになってしまうでしょう。香港に来るベトナム人たちには「ポート・ピープル」「庇護希望者」「経済移民」などのレッテルが張られ、「運のいいやつ」と呼ばれています。しかし、私が香港にいるベトナム人たちに「レッテル」を張るとすれば、むしろ彼らの真の姿を表わす「神の子」という言葉で呼びたいと思います。

ベトナム人たちにも天父の子供として、その尊厳を保ち、愛と尊敬を受ける権利があります。私たちには、すべての人を偏りなく愛してくださる慈悲深い天の御父がおられます。これはなんと素晴らしいことでしょう。ペテロは使徒行伝10章34-35節の中で次のように述べています。「神は人をかたよりみないかたで、神を敬い義を行う

者はどの国民でも受け入れて下さることが、ほんとうによくわかってきました。」神が私たちがこの世の境遇だけで裁かれなすれば、どうして私たちがこの世の境遇だけを見て同胞を裁いてよいのでしょうか。

私は難民キャンプで彼らと一緒に過ごすうちに、天父がベトナムにいるご自分の子供たちに対してどのような気持ちを抱いておられるかが、以前にも増してよくわかるようになりました。夏の間、チュエン・ムン・キャンプで英語とアメリカ文化について、いくつかの成人クラスで教える機会がありました。私が英語を教えていると、彼らの中には私に対して忍耐強くベトナム語を教えてくれる人がいました。そのような人々と出会えたことは、私にとって本当に大きな特権でした。ベトナム人たちと一緒に学ぶたびに、私は彼らの笑顔と学習に対する熱意に励まされました。

クラスを終えた後で、私は何人かの生徒たちととても親しくなり、彼らの悲惨な体験についても聞くことができました。本当に驚いたことは、私が彼らに興味を持っているのと同じように、彼らも私に興味を抱いている様子が伺えることです。彼らと友達になってわかったことは、ベトナム人も皆さんや私と変わらない同じ人間だということです。愛し憎み、笑い泣き、悩み苦しみながら一生懸命生きているのです。話題はおもに家族のことでした。家族が全員そろって通常の生活が送れるようになる日を、彼らは待ち望んでいるのです。

私たちと同じ希望や願いを持ったベトナム人たちは苦難の歴史の中を歩んできました。もう何十年の間、彼らの生活は戦争と暴力にさらされてきました。もと難民のホン・チャンさんは、難民は自由に対する強い望みに駆り立てられて国を出るのだと、語りました。彼らの求める自由とは、愛す

る人たちと共に平穏に幸福に過ごせる自由なのです。

一部の人の高慢のために個人の自由意志が束縛されることがあります。権力や支配に対する欲望のためにひと握りの人間がほかの人間を抑えつけようとするのです。ベンソン大管長は先ごろ行なわれた4月の総大会で、心の高ぶりが原因で他人を見下している人が大勢いることを指摘されました。ヤコブはモルモン経の中で民に向かい、そのような罪について叱責しています。

「あなたたちの中にはほかの兄弟たちよりは沢山に宝を手に入れたから心が高ぶり、……また自分はほかの兄弟たちよりもすぐれているからと思ってこれを苦しめる者がある。……このような行いは、あらゆる人をつくりたもうたお方にとって憎むべき行いであるとは思わないか。神の目にはこの人もあの人も同じように大切である。」(モルモン経ヤコブ2:13, 21)

奉仕の中にさえ高慢が潜んでいることもあります。「これらの最も小さい者」に仕えようすると、奉仕することによって自分が相手より優れているように感じたり、相手が救われるのは自分たちが努力したためであると思ったりすることがあります。救いを与えることのできるお方はただひとりであり、人類に希望と贖いをもたらしてくださった功績はただ救い主だけのものです。キリストがなされたと同じような奉仕をするには、柔和でへりくだった心が必要です。私はこの教訓を、ベトナム人の子供たちとの生活の中で学びました。

ハイ・リン・チャウ・キャンプで、私は小学校の子供たちを教えました。私の仕事は遊びを教えることでした。子供は生来遊び方を知っている、と考えている多くの人々にとって、これはおかしなことのように思えるかもしれませんが、難民キャンプ

で何年も過ごしていると、この当たり前の能力さえも失われた子供たちが出てくるのです。キリストが幼い子供たちを愛されたのもうなずけます。ベトナムの子供たちのあどけなく、わけへだてのない愛に、私は引きつけられてしまいました。子供たちの小さな手を握り、笑みをたたえたその大きな目をのぞくと、彼らを抱きしめ家に連れて帰りたくなくなってしまふほどです。

ほとんどの人は、難民キャンプで働く機会はないでしょう。しかし、わけへだてなく、だれにでも与えられる神の愛を伝えるには、自分自身の家庭や近隣、地域社会でも何かできることがあるはず。自分自身と同じように隣人のことを考えられるはず。相手が肉親、友人、また同じ国の人であろうと、誠実にまた親切に隣人と接するならば、私たちは主のみ手に使われる器として行動していることになります。難民は数えきれないほどの苦難に耐えています。とりわけ必要としているのは愛と尊敬です。しかし、これは人間に共通の問題であり、私たちがみずからへりくだって周囲の人々を高めるならば、ある程度は解決できる問題なのです。私たちがみずからへりくだることによって、人を尊び、皆が文字どおりの兄弟姉妹であることを感じることができるよう祈っています。

## キリストと ひとつにならん

アジア地域の教会員たちは皆、今年のクリスマスはキリストとひとつになり、キリストに近づこうと決心しています。あなたはいかがでしょうか。

あるワード部の若い男性と若い女性は、クリスマスプレゼントを入れる靴下を自分たちで工夫して作り、贈り物をいっぱい詰めてみました。そして、児童養護施設へ持っていったのです。まず最初に、小さな子供たちと一緒にゲームをした後、皆で靴下を開けると、子供たちは愛の込められた贈り物に大喜びでした。

また別のワード部では、不用になった衣類を集めました。若い女性たちが洗濯し、アイロンをかけ、修繕をして貧しい家族の

ために準備し、青少年がそれをクリスマスイブに、困っている人々のもとへ届けたのです。また、そうした人々にクリスマス・キャロルを歌い、クリスマスを一緒に過ごしました。そのワード部の十代の子供たちは、そのとき感じたよい気持ちをつつとも忘れないことでしょう。彼らは、主の子供たちに奉仕することによって、「キリストとひとつに」なろうと努力したのです。

またあるワード部では、イエス・キリストの誕生を祝うために、とても楽しい計画を立てました。活発な会員の家庭で、12月24日近くに特別な家庭の夕べを開くようお願いしました。特に思い出深いものとするために、教会員ではない家族や、同じワード部内のお休み会員の家族を招待するように勧めました。そして招待はそれらの家族全員で個人的に行なってもらいました。家庭の夕べのプログラムとしては、救い主の誕生についての話をしたり、全員で歌を歌ったりしました。また、クリスマスの飾りのついた食物も用意されました。

家族の夕べが終わった後も、フォローアップのために12月25日に近い日を選んで、家庭の夕べに招待した人々にクリスマスの

クッキーを届けました。さらにクリスマス当日には、美しく包装したモルモン経が教会員ではない家族に贈られました。

この催しは、周到な計画と入念な準備のもとに行なわれましたが、そのワード部の家族にとって、これまでクリスマスに体験した中で最も楽しく、また実り多い試みとなりました。この催しに参加したすべての家族が、クリスマスの真の精神に触れることができたのです。家族は皆それぞれ異なった独自の経験をしましたが、皆に共通して言えることは、地に平和を、人に善意をもたらすためにお生まれになった世の救い主に一歩近づくことができたということです。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、現世および来世にわたって平和を求めるこの世の人々の希望です。クリスマスを迎えて、ほかの人々へ愛の贈り物を捧げることがどんなに大切かを理解している人は、ごくわずかにすぎません。それこそ、平和の君である主への贈り物なのです。

キリストの誕生を祝うために、何か特別なことをしてください。主とひとつになるための方法を計画してください。

## あなたはイエスが生まれるのを見ましたか

「あの最初のクリスマスに、あなたはイエスが生まれるのを見ましたか。」このような問いで始まるクリスマス・キャロルがあります。

「布にくるまって飼葉おけの中に寝かされた幼な子」キリスト、すなわち神のみ子、全人類の救い主を実際に見に来たのはだれだったでしょうか。

「夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた……羊飼いたちは『さあ、ベツレヘムへ行くと、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか』と、互に語り合った。」(ルカ2:8, 15) また、博士たちは東の空で見た星に導かれ、神のみ子を見にやって来たのです。

あの最初のクリスマスの日に羊飼いや博士たちがキリストのみもとへ行ったように、

私たちがキリストを見いださなくてはなりません。キリストは私たち一人一人にこう言われました。「わたしについてきなさい。」(マルコ1:17) また、モロナイも私たちに次のように勧告しています。「キリストの御許に来てキリストによって全くなれ。……勢いと心と力とをつくして神を愛するならば、神があなたたちに与えたもう恵みは充分である。」(モロナイ10:32)

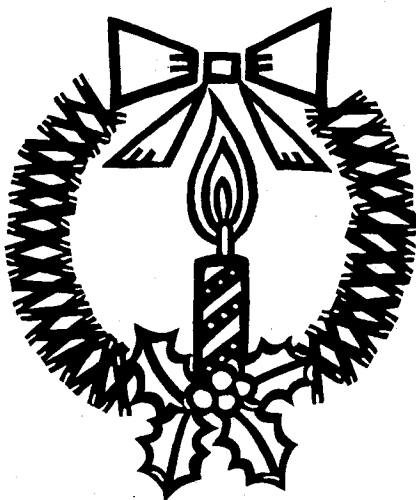
サコンナコーン省出身のパカラス・ボンカーラシ姉妹は、バプテスマを受けてキリストのみもとへ来ました。かつて純粋な仏教徒であった彼女が教会へ来るようになったのは、好奇心と新しい経験をしてみたという願いからでした。

ボンカーラシ姉妹は、教育を受けるためにコーンカエンに行きました。すると、

商店街へ行くたびに、黒いネームプレートをつけたふたりの若い女性が街頭に立ち、通行人に話しかけている姿が目にとまりました。彼女はこうに語っています。「私はそのふたりが心を合わせて一生懸命努力している姿に感動しました。それで、歩み寄って話しかけたのです。結局、私のアパートへ来ていただく約束をしてしまいました。」それから2カ月間レッスンを受けた後、ボンカーラシ姉妹はバプテスマを受けました。バプテスマのことについて、彼女はこうに説明しています。「私はバプテスマを受けたとき、生まれたままの自分が死に、聖徒として再び生まれ変わったのを感じました。すべての儀式が終わった後、私は自分がまるで全能の主のみ腕の中にやさしく抱かれた生まれたばかりの小羊のように感じたのです。一点の汚れもなく完全な姿となり、いつでも神の教会で神のみ業に携わる用意ができていました。」

私たちは皆バプテスマを受けたとき、誓約を交わし、「キリストの御名を受けて終りまでキリストに事えと堅く決心をした」のです。(モロナイ6:3)主に仕えようという決心を貫き通すことにより、私たちはキリストにあって全き者となり、主とひとつになるのです。

クリスマスを迎え、さあ皆さん、キリストとひとつになりましょう。



## 家族の健康管理

### 事故の防止

けがは、その多くが避けられたはずの事故によるものです。事故は台所や調理場でよく起こります。また、子供たちが食事をした後、危ない物で遊んだりしているとき、あるいは車の往来が激しい道路で、よく事故が起きます。このような事故を防ぐには、子供たちに、触れる物や飲食する物、遊ぶ道具や行く場所などに気をつけるよう教えるなくてはなりません。

#### 台所で

どの家にも調理場があり、食事を準備するときは火を使います。料理の最中は調理器具や食べ物が非常に熱くなるので、台所ではよく注意するように子供に教えることが必要です。やけどをしないように、熱いなべや料理をかき混ぜるのに用いる器具などに触らないように教えてください。調理がすんだら、熱いなべやフライパン、油などは子供の手が届かないところへ片づけましょう。

お手伝いのできない小さい子は、邪魔になって調理をする人が熱いものをひっくり返すようなことのないように、できるだけ台所へは入れないほうが安全です。大人も子供も、熱湯や熱いものを浴びてやけどをすることが多いのです。

#### 危険物

飲めば危険な物は、家の中にたくさんあります。たとえば、灯油、ガソリン、エンジンオイル、ペンキ、薬、清掃用の薬品などです。これらの保管が安全でないと、子供が飲もうとするかもしれません。命にかかわる恐れがあります。

これらの中には簡単に燃えるものもあり、子供が遊んでいて火事になる危険性があります。大人が以下のような注意を払うならば、子供を危険から守ることができるのです。

1. 危険物は子供の手が届かないところ

へ保管する。鍵つきの戸棚にしまおうとか、子供の入れない所に入れておく。

2. 危険物は食べ物の容器に入れない。食べられる物が入っていると子供たちが思う恐れがある。

3. 容器に、危険物であることを示すマークをかいておくこと。このマークは毒のしるしだと、子供たちに教える。(毒物や危険物のしるしに、どくろと交差した骨の絵がよく使われる)

#### 道路で

毎年大勢の子供たちが交通事故で亡くなっています。以下のような簡単な交通規則を教えれば防ぐことのできる事故も多いのです。

1. 乗用車やバス、トラック、バイクにいつも気をつける。音にも注意する。車が近くに来たら、安全な所へよける。

2. 前方から来る車が見えるように、道路は右側を歩く。道路の真ん中や、車の向きと同じ左側を歩かない。

3. 道路を横断するときは、いつも両側を見る。車が近づいてきたら、通り過ぎるまで待つ。

4. 外が暗いときは、運転者の目にとまりやすいように、明るい色の服を着る。

5. 横断のときは幼児の手を引く。車が来ていたら、早く渡れるように子供に手を貸す必要がある。

#### 子供と一緒にできること

1. 家庭にある物の中で、事故のもとになりうる物の一覧表を作る。それぞれについて、事故を避ける方法を話し合う。

2. 不注意のために事故にあった子供の話をする。いつも注意して安全を守ることの大切さを強調する。

3. 中身が有害であることを示す容器のマークを子供たちに見せて、そのような危険物を飲んだり食べたり、それで遊んだりしないように教える。

小岩ワード部の大祭司鮫島浩二兄弟は、産婦人科医として霊界から子供たちを無事に現世に迎え入れる仕事に携わって9年になる。この1年間に彼の周囲で起きた様々な霊的な出来事を以下にいくつか紹介する。

## 「明日奇跡が起こる」



高瀬大地

「監督、S姉妹が入院しました。大きな手術をするようで、……とても落ち込んでいて……。」それが最初の報告でした。「監督、T姉妹が体調が悪くて、入院……。」「監督、M兄弟が脊髄に……。」「監督、G姉妹が乳癌で手術を……。」そして最後の報告はこうでした。「監督、O姉妹がどうも痛らしくて、このままでは子供の命も、もしかすると姉妹の命も……。」

次から次へと私のもとに送られてくる報告を耳にして、さしものんきな私も、そのときばかりは愕然としてしまいました。そしてワード部で起こっていることについて、「主が何を望まれているのか」、それを知らなくてはと思いました。すぐに断食と祈りを始め、神殿に行ってみころを主に尋ねました。神殿の中で、ひとり静かに次から次へと起こってくる一連の困難な状況と、それに直面しているすばらしく信仰のあつい兄弟姉妹のことを考えると、涙が止めどもなくあふれてきました。

S姉妹、T姉妹、M兄弟、G姉妹、O兄弟姉妹……G姉妹以外はこれまでそれぞれに比較的恵まれた環境にあった兄弟姉妹たちでした。G姉妹はこれまでずっとつらく悲しい状態にあり、やっと光が見えてきたときなのに、また今度は「癌」。O兄弟姉妹はつい何カ月か前に結婚して、子供ができたと喜んでいて矢先なのに……と思うとやりきれなさで胸がいっぱいになりました。

「主よ、あなたはまだこれらの兄弟姉妹を試されるのでしょうか？」と幾度も尋ねたことをよく覚えています。同時にそんな問いかけしかできない自分を悔い改め、「主

がそうなされるからには必ずそのようなわけがあり……。」と、いくつかの聖句を思いながら、「最後まで主を信じ、主に頼らなくては」とみずからを励まし、何度も何度も主に祈り尋ねました。「主よ、あなたのみこころは何でしょうか？ 私に何をせよとおっしゃるのでしょうか？」やがて自分の心にはっきりとした答えが返ってきたのです。「今、ワード部全員が試されています。全員で祈りと信仰を示してください。」目からうろこが落ちる思いでした。

さっそく次の安息日(11月27日)、ワード部全員で特別に、病と戦っている兄弟姉妹のために断食をすることになりました。その特別な断食のさなか、中山洋兄弟がワード部の全会員を代表して祈りを捧げてくださいました。その祈りは本当にすばらしいもので、まさに主がじつと耳を傾けてくださっていると実感したほどです。その断食には、プライマリーの子供たちも喜んで加わりました。2日後にはO姉妹の手術を控えていました。それまでにS姉妹の大きな手術も終わり、T姉妹も体が回復し、M兄弟も痛みが和らぎ、G姉妹の乳癌の手術も無事終わっていました。

中山兄弟が祈っている間中、ずっと残されたO兄弟姉妹のことを考えていました。そのときのO姉妹の体の状態は決して良いものとは思われませんでした。種々の検査をすればするほど、悪性の腫瘍であることがいよいよ明確になり、ほとんど間違いなく癌であろうという結論が出されていたのです。そのために、主治医となった大祭司

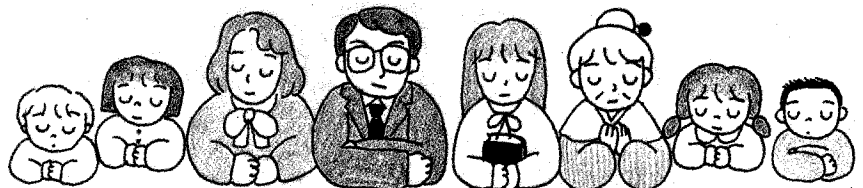
の兄弟は必死に祈り、神殿にも何度も参入しました。手術の2週間前の日曜日には、ワード部の大祭司グループの兄弟たちが作った輪の中心に座り、特別な祝福をその頭に授かったのです。この愛すべき立派な主治医の兄弟は手術の前日まで何人かの医師の知恵を借り、O姉妹のカルテを論じ合い、最悪の事態にも備えなければなりません。そのときまでは、検査結果を総合して判断する限り彼女の腫瘍は100パーセント癌で、もはや疑う余地は残されていなかったのです。

後に彼はしみじみと次のようなエピソードを話してくれました。「手術の前日、超音波検査をしながら腫瘍についてスタッフみんなで検討しているとき、突然ひとりの先生がそれと同じ写真を見たことがあると言ってカルテを出してきました。その写真は彼女のもの、うりふたつでした。急いで表紙を見直してみるとそこには『卵巣癌のため死亡』と書いてあり、一同しばし沈黙してしまいました。」

翌日の手術の結果のことを考え、「最悪の結果が出るかもしれない」との思いと、「誓約の子を神権者の手で殺させるようなことを主がなさるはずがない。主にすべてをゆだねよう」との複雑な気持ちで家に帰った主治医の神権者は、そのときすでに妊娠していた自分の妻にこう言ったのです。

「明日O姉妹が癌だとわかったとき、子供はおそらく助けられないだろう。もしかしたらO姉妹本人の命も非常に危険かもしれない。でも、姉妹だけでも助かったときは私たちの今度生まれてくる子供を彼らに養子として育ててもらおうか。」姉妹は快くそれに応じたそうです。後になってそれを聞いたとき、私は彼らの愛にまさしく頭の下がる思いでした。

手術の前日には私も病院に伺い、その帰り道、これまでのことをあれこれと考えて





みました。それぞれの立場で、それぞれの人が愛と信仰を示し、一生懸命祈ってくれたこと、神様の導きなど、考えながら駅のホームを歩いていたとき、突然、「明日奇跡が起こる。明日奇跡が起こる」との声が心の中に響いてきました。神様が〇兄弟姉妹と主治医の神権者の祈りを、また聖徒たち全員の祈りを聞いてくださったと感じ、胸がいっぱいになり、ポロポロと涙を流して家まで帰って来ました。

翌日、10時半ごろ、主治医の兄弟から電話がありました。「監督、奇跡です。奇跡としか言いようがないです。良性です。良性の卵巣腫瘍でした。子供も母親も無事です。」彼の声は本当に喜びで弾んでいました。

神様は本当に生きておられ私たちの祈りを聞いてくださいます。すべての問題は私たちを助け、高めるために、主が特別に準備してくださったものであることを証します。どんなにつらく大変でも、主のみこころに従い、主が与えてくださるもの喜んで受けるだけの信仰と祈りがあるとき、奇跡が起こるような気がします。「監督、あれはやはり奇跡が起こったんですよ。彼女は癌だったんです。癌が良性のものに変わったんですよ。」ある姉妹がつくづく私に言いました。私も本当にそう思っています。(たかせ・ひろただ 1948生まれ、東京東ステーク部若い男性会長)

## 「奇跡が起こったのです」

大賀江美

**生**まれて間もない、幼い沙祈子の安らかな寝顔を見ていると、この子が生まれるまでに経験した様々なことが、次から次へと思い出されます。そしてこの上ない感謝の気持ちに満たされるのです。

待望の赤ちゃんに胸を弾ませ病院を訪れたのは、昨年10月のことでした。期待どおり妊娠していることを告げられましたが、それに加えて、思いもかけず子宮が卵巣に赤ちゃんの成長を妨げるようなかなり大きな腫瘍があるとの診断も受けました。不安に満ちた帰り道、神様から授かった大切な命、そして私の病気のことが頭の中をめぐ

り涙が流れました。

それから2カ月は検査と手術への準備の日々でした。手術の前に知らされたのは「もしかしたら手術操作によって流産するかもしれない」ということでした。そのことだけでも私にとっては大きな苦しみとなりました。赤ちゃんに申し訳ないという思いと、どうにか赤ちゃんが助かり無事生まれてくることを望むだけで精一杯でした。

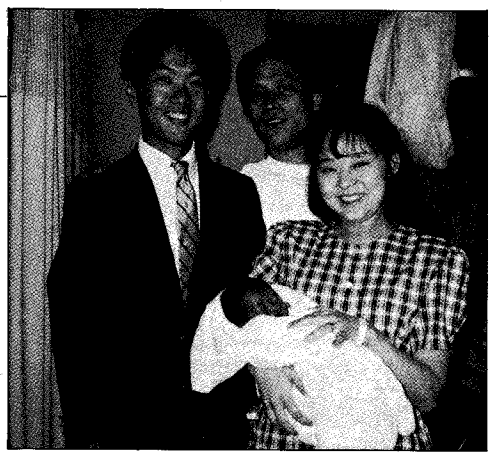
さらに検査の結果としてあとになって知らされたのですが、私の腫瘍は悪性の可能性が強く、最悪の場合子供が産めなくなるだけでなく私自身の命も長くないだろうということでした。

「イエスさま、どうぞ私と共にいてください」と何度祈ったことでしょうか。不安にさいなまれるたび、祈ることによって平安が与えられました。小岩ワード部の監督が「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい」(ヨハネ14:1)という聖句をくださいました。「ただすべてを神様にゆだねて信じよう。きっと私たちにふさわしい道が備えられている」そう思ったとき心が軽くなり希望がわいてきました。

このように祈り平安を受けるうちに、悲しみと苦しみで真つ暗な状態から、神様からの多くの祝福が見えるようになり、たくさんの励ましに対する感謝の気持ちに満たされるようになりました。数えきれないほどの祝福の中から、特に3つだけ記したいと思います。

ひとつは、私たちの集うワード部に産婦人科医の兄弟がおられ、私の主治医となってくくださったことです。すばらしい神権者に診察され、手術を施していただけることほど心強いことはありません。私たちふたりの命を守るために力を尽くしてくださり、明るく力強い態度で常に私を元気づけてくださいました。この兄弟の医師としての立派な腕と神権者としての強い信仰と靈感なしには、あのような奇跡は見る事ができなかったと思います。神様が私をこの兄弟の近くにおいてくださったことを感謝しています。

ふたつめは、私たちの周囲の方々が本当に大きな愛と信仰を示してくくださったこと



鮫島兄弟(中央)と大賀ご夫妻

です。プライマリーの子供たちをはじめとして兄弟姉妹たちが心からの断食と祈りを捧げてくださったこと、また神殿に名前を入れてくれたり、お見舞いに来てくださったりと、本当に多くの方々の信仰と祈りがあり、それらすべてが奇跡を起こすべく天に届いたのだと、今改めて思います

そして3つ目は愛する主人の存在です。手術を受けたのは私でしたが、不安も苦しみも痛みも私の分まで引き受けてくれるほどに、共にこの試練を乗り越えてくれたのが私の永遠の伴侶でした。すばらしい神権者と巡り会い、神殿で結婚し、共に歩める幸せをかみしめ、家庭に福音があることにこの上ない喜びと感謝の思いでいっぱいです。

手術は短時間で終わりました。結果的には腫瘍も良性で、赤ちゃんにも何ら影響を及ぼさず、すべて最善の形で終わりました。奇跡が起こったのです。そして、6月15日、主治医の兄弟と主人に見守られ、沙祈子が元気に誕生しました。

神様から授かった沙祈子。これから私たちと共に成長し、神様の道を歩んで行くことでしょうか。神様のもとへ共に戻れるよう、私たち一家は信仰を共にし、イエス・キリストの愛を胸に生活しようと、今新たに決心しています。

私たちは生涯忘れることのできない大きな経験をしました。今、当時を振り返ってみると、苦しかったことよりも、神様から受けた大きな祝福や、周囲の方々から受けた大きな愛ばかりが思い出されます。そしてこれから私たちはその受けた愛を周囲の方々に与える人になりたいと望んでいます。(おおが・えみ、1964年生まれ、小岩ワード部扶助協会教師)

## 「われらは癒えたり」

大賀敏浩

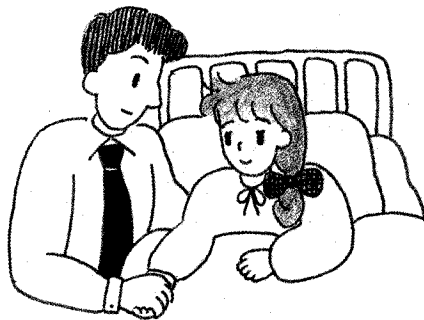
**平** 成元年6月15日、その日は私たち家族にとって忘れられない日となるでしょう。1988年3月に結婚し、それから半年後に妊娠しているとの確信を持ち、期待に胸を踊らせて病院の門をくぐりました。ところが検査の結果は「妊娠はしているのだが、卵巣か子宮に腫瘍がある」とのことです、往路の期待はどこへやら、つらい帰り道となりました。

次の日は安息日で、聖餐会の間中ふたりとも涙を流し、「癒されますように」との祈りの気持ちで過ごしました。

その日と前後して私たちふたりには特別なチャレンジが与えられました。それはステーキ部主催の音楽会での、ワード部コーラスの指揮と伴奏の責任でした。奇しくも課題曲はメサイヤコーラスの中の『われらは癒えたり』でした。最初は精神的また肉体的にも余裕がないとの理由で、断わろうと思いましたが、私たちにとって「特別な癒し」が今こそ必要だと思い、喜んで引き受けました。

その後の検査の結果も芳しくなく、最悪の結果と言ってもよいものでした。お腹の赤ちゃんだけでなく、母体さえも危ぶまれるものだったのです。主治医である兄弟と共に、「あとは神様に祈り、奇跡を起こそう」と話し合ったものでした。

手術の日も決まりましたが、肉体的にはつわりと精神的不安から、妻にとって10月、11月は大変苦しい日々が続きました。そんな中で苦しみを和らげてくれるものは、11月13日に予定されていた音楽会の発表の準備であり、ワード部の方々の温かい励ましでした。音楽会では練習の成果を十分に発揮し、100点満点の出来でした。また手術の週の安息日には、特別にワード部の会員やステーキ部役員の方々も断食をし、祈りを捧げてくださいました。その日の聖餐会での特別な祈りは、かつて経験したことがないほど霊的でみたまに満たされたものでした。これらの特別な出来事によって、まさに「われらは癒えたり」という強い信



仰を持つことができました。

11月29日の手術の前日、主治医の兄弟、長老定員会の会長、それに私とで妻の頭に手を置き、祝福を授けることができました。みたまを受け、私の口から出る祝福の言葉は、必ず癒されることよりも「この経験を通して得た愛を、治ったときに周りの人々に与えるように」というものでした。そして手術の日となりました。私は、主と執刀してくれる兄弟にすべてをゆだねました。手術室の前でモルモン経を読み祈ると、ひとつの聖句が目にとび込んできました。主は「人々の信仰に応じて大きな奇蹟」を現わしてくださいと。(IIニーフアイ26:13)

まさしくその手術は奇跡でした。妻と赤ちゃん両方の命を救ったのです。

その後の経過は順調で、6月15日早朝、ふたりの神権者が見守る中、誓約の子はこの世に生を受けました。名前は「沙祈子」と命名されました。悪いものの中から清いものを洗い出し(沙)、祈りの中から生まれ、祈りを生涯忘れずにいてほしい(祈)という意味と願いを込めてつけられた名前です。

これらの尊い経験は、イエスがキリストであり、神様が生きておられることの証をより一層強めるものとなりました。また、確かに「試練〔に〕耐えられるようにのがれる道も備えて下さる」(Iコリント10:13)のを知ることができました。小岩ワード部の方々をはじめ、多くの方々の愛と励ましに心から感謝しています。(おおがとしひろ 1959年生まれ、小岩ワード部日曜学校教師)

## 生まるるに時があり、死ぬるに時があり

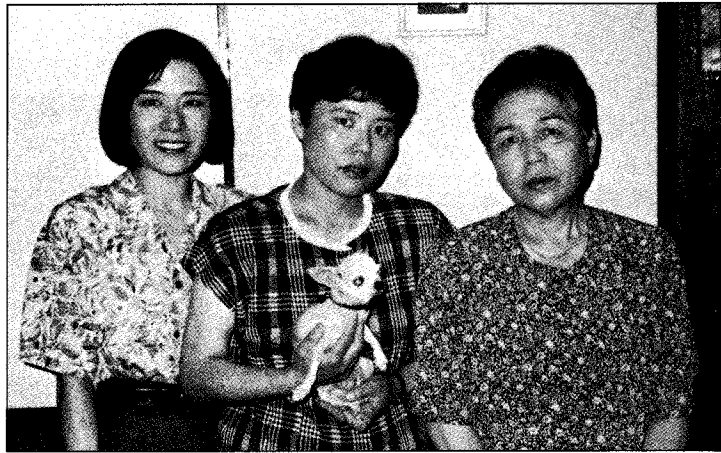
後藤カ柝

**私** が改宗したのは1988年で、私の66歳の誕生日でした。末娘が9年前に改宗した当時、主人も私もキリスト教には何の関心もなかったため、反対もしませんでした。その私がこの年になって改宗するなどとは夢にも思いませんでした。

私は主人と共に九州の宮崎で、40年余りの間、スーパーマーケットを営んでいました。年中無休で朝から晩まで忙しい商売だったため、家族が一緒になって語り合うこともあまりありませんでした。

そんなある朝のことです。元気に働いていた主人の容態が突然悪くなり、救急車を呼びましたが、病院に着いたときはすでに意識がなくなってしまったのです。せめてもう一度意識を取り戻してくれたらという思いで一心に祈りましたが、願いはかなえられませんでした。主人は意識が戻らないままにこの世を去りました。原因は脳内出血でした。このときばかりは神も仏もあるものだろうかと思いました。伴侶を失った私には、悲しむ暇もなく、主人の分まで働かなければならない大変な日々が始まりました。

そんなときに、娘のお友達で、アメリカに住んでおられる方から1年くらい前に送っていただいたモルモン経を、なんとなく開いて読むようになりました。でもむずかしくてなかなか理解できませんでした。モルモン経の見出しには彼女の証が書いてありました。そして「モロナイ書第10章3—5節、アルマ書第32章24—43節を読んでください。そして神様にそれが本当かどうかお祈りしてください。そうすれば本当であることがわかります」と付記してありました。完全にはわからなくとも、休むときにはいつもモルモン経を抱いて寝るようになりました。そうすることによって心の不安がなくなり、不思議なことに落ち着いて眠ることができるようになったのです。夜、安らかに眠れることは私にとって本当にすばらしい祝福でした。主人の突然の死は私



カネ姉妹と千鶴姉妹，早苗姉妹(右から)

にとって大きな試練でしたが，これも祝福であるとさえ思えるようになりました。

主人が守り通してきたお店も，私たちがだけでは経営がむずかしくなり，住み慣れた九州から東京へ引越さざるを得なくなりました。そして，まるで目に見えない糸でたぐり寄せられるようにこの教会に集うようになりました。この間，思い起こすと本当に様々な困難がありましたが，慈愛に満ちたすばらしい指導者とお会いでき，また兄弟姉妹たちの温かい愛を受け，信仰の門をくぐることができたことを心から感謝しています。

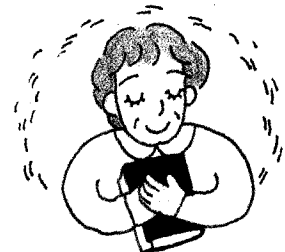
病気がちだった私に，監督さんはホームティーチャーとして病院の先生をつけてくださいました。昨年のごことです。乳癌の検診を2，3年していませんでしたので，ホームティーチャーに相談しましたところ，さっそく外科の先生を紹介してくださいました。30年前，乳腺炎を患った部分にしこりがあり気にしていたのですが，検査をしていただいたところ，「乳腺炎から年数もたっているし，こんな症状の人もいますから心配はないですよ。次は1カ月後に検査

しましょう」と言われました。1カ月後，再度検査をしていただきましたが別に変化がないので，「次は半年後でいいですよ」と言われました。そのときは「ああよかった。心配するほどのことではなかったんだ」と安心したのですが，なぜか日がたつにつれて「癌ではないだろうか？」という思いが強くなり，不安な気持ちで朝夕神様へお祈りをしていました。

ある日お祈りをしていましたら，「早くホームティーチャーに相談しなさい」と言われたような思いがして，その日のうちに連絡を取りました。ホームティーチャーは「そんなにいつも気にかけていたら精神的にまいってしまうから，一度，癌検診センターに行きなさい」と紹介状を書いてくださいました。翌日診察に行きましたところ，今度は触診されただけで，「すぐ入院しなさい。十中八九，癌に間違いない」と言われました。あんなに毎日心配していましたので癌と宣告されたら取り乱すのではないかと思っていました，自分でも不思議なほどに落ち着いていました。きっと神様が私を守り，強め，励ましてくださっていた

のだと思います。早期発見で手術していただき，今はこのように日々過ごせることを心から感謝しています。

祈りは必ず聞き届けられることを身をもって証することができます。伝道の書にこのような聖句があります。「<sup>おの</sup>天が下のすべての事には季節があり，すべてのわざには時がある。生るるに時があり，死ぬるに時があり……泣くに時があり，笑うに時があり……神のなされることは，皆その時にならなって美しい。」(伝道3：1-2，4，11)神様は，私たち家族一人一人にとって最も良い時期を準備してくださいました。二女もバプテスマを受け，毎週共に教会に集うことができます。また主人のために死者の身代わりのバプテスマを施していただきました。今はパラダイスにいる主人を思うとき，神様への感謝の気持ちで胸がいっぱいになります。モルモン経は神様の真実のみ言葉であり，この書物を通して，私たちは慰めを受け生きる希望が与えられることを心から証します。(ごとう・かね 1922年生まれ)



## 編集室から

皆さんの原稿を  
募集しています。

▶各地のたよりの原稿を常時募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)，本誌を読まれての感想文などをお送りください。

▶ワード部/支部特集への投稿を希望される方は，編集室へ直接お電話ください。必要な資料をお送りいたします。

▶来年3月号掲載分の締切は1月10日です。なお，投稿の際，必ず連絡先(電話番号)

と教会での責任(役職名)，生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また，掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264

## 健康・長寿への道 ——知恵の言葉

東京東ステーキ部松戸ワード部  
嶋木 諄

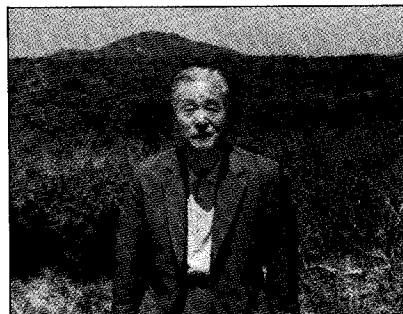
**私**は約40年間にわたり医薬品メーカーに勤務していました。技術関係の仕事をしていたためもあり、若いころはほとんど宴席で飲む機会もなかったのですが、年をとるに従ってその機会が増えてきて、仕事のうえでの話を進めるためにも盃を交わさなければならないことが多くなりました。私はもともと酒類、たばこが苦手で、若いころには飲めるようになりたいと思って飲む練習をしたこともありましたが、どうも私の体には合わず、結局飲めるようになりませんでした。そんなわけで飲めないということで大変な苦勞をしたこともありました。

しかし酒類やたばこを飲めないで本当によかったと思ったのが5年前のことです。酒類、たばこ、肉類、野菜の摂取と癌の発生とのかかわりについての国立がんセンターによる調査結果が、日本癌学会で発表されたのです。実に16年間、26万人に及ぶ観察の結果、酒類、たばこ、肉類を毎日のよ

うに取り、野菜はあまり食べないような人は癌はもちろんそのほかの成人病にも非常にかかりやすいということでした。

結論として、癌予防のためには酒類、たばこをやめて肉類はなるべく控えめに取り、野菜はいわゆる緑黄色野菜を積極的に取ることで述べています。私自身30歳代に入ってからはもっぱら菜食中心の食生活をするようになり、そのためか毎年の成人病検診も今のところ異常もなく、元気に暮らしています。たばこの危険性についても報告されており、それによると、夫が喫煙者である場合、妻はたばこを飲まなくても常に家庭内でたばこの煙にさらされているために、肺がんや鼻のがん、脳腫瘍、心筋梗塞などにかかりやすいということです。もちろん喫煙者自身および同一世帯内の子供たちも大きな影響を受けることとなります。この話を聞いたとき、私はたばこを飲めなかったおかげで家族に被害を与えることもなく、本当によかったと思いました。

私はこの教会に入って教義と聖約第89章の健康の律法、いわゆる知恵の言葉についてお話を聞いたときに、その内容が長い歳月をかけて調査研究をされた学者の発言とよく一致したところがあることを知りま

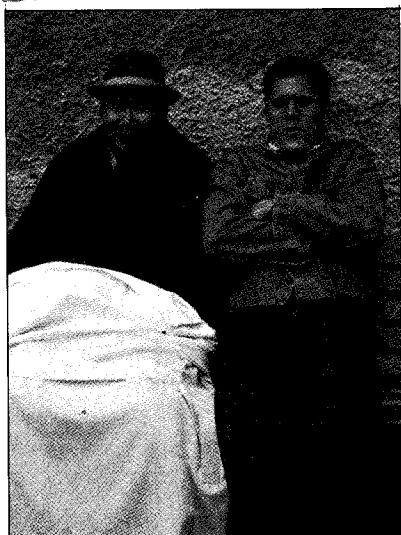


した。しかもジョセフ・スミスが知恵の言葉を啓示として受けたのが今から156年前のことなのです。私は神の言葉は真実にして永遠である、ということをも身をもって感じました。

私はこの知恵の言葉は天父が私たちのことを心から愛しておられ、現世において常に健康で長く暮らすことができるように授けてくださったみ言葉であることを証します。また私たちの身体を間違った飲食物で汚すことで、肉体的にも、また霊的にも傷つけてはならないと痛感しています。教会に入ることによって得た、この大きな喜びについて私は天父に心から感謝しています。(うのき・じゅん 1919年生まれ、1989年4月9日にバプテスマを受ける)

organizing a special  
vice president  
so many of the lives  
that he had touche  
reminded me of th  
been benefitted  
men

### 「善き」映画を



日本からの帰還宣教師であるマーク・マリ  
オット兄弟は、ブリガム・ヤング大学映画  
科に在籍している。同大学に講演のため招  
かれた著名な日本の映画監督、山田洋次氏  
の話を感動。師事を願い求めたところ、折  
良く「寅さん」映画の新作の製作スタッフ  
として加わることを許され、来日した。山  
田監督の下で数カ月、通訳などをしながら  
日本映画の技術、精神のエッセンスを学び、  
このたび帰国することになった。以下はマ  
リオット兄弟の証である。

**ス**ペンサー・W・キンボール大管長は、  
かつて次のように語りました。「『わ  
が命尽きるとも』や『ドクトル・ジバゴ』  
『ベン・ハー』の制作者たちに匹敵する才  
能を持った人物は、もう出ないのだろうか。  
『マイ・フェア・レディー』や『サウン  
ド・オブ・ミュージック』は数え切れない  
ほどの観客を魅了してきた。しかし、それ  
らをしのぐ映画を作り出す人々が、やがて  
教会員の中からも輩出すると、私は信じて  
いる。……モルモニズムはまだ書物にも、  
絵画にも、彫刻にも、講演にも完全には表  
現されていない。それは、靈感を受けた才  
能ある人々がこれからとりかかる仕事であ  
る。」

主は扉を開け、人々の心に靈感を与えて、  
この予言が成就する道を備えてくださって  
います。その道とは、映画というメディア  
を通じて無数の人々に主のみたまを感じさ

せ、善意の心を世界中へ広げるといふ道で  
す。

私は、山田洋次監督のもとで働き、学ぶ  
機会が与えられたことに、主の導きと助け  
を感じています。これは将来自分の映画を  
制作するという目標を持っている私には、  
貴重な体験となるでしょう。

今年の4月の総大会で、M・ラッセル・  
バラード長老は、テレビの影響力について  
取りあげ、次のように語りました。「教会員  
はテレビから影響を受ける以上に、自分の  
方から人々に良い影響を及ぼす必要があり

ます。」(『テレビの影響力』『聖徒の道』  
1989年7月号、p.84参照)映画制作者が天  
の力を受けて働くならば、善を推し広める  
ために、どれだけ大きな影響力を発揮でき  
るでしょう。

近い将来、偉大なモルモン映画監督が  
出現し、どのような観客の賞賛にも値する、  
優れた娯楽映画を作り出すでしょう。その  
ような映画は人々の心に善に対する望みを  
抱かせ、悪質で不健全な娯楽の氾濫という  
現代社会の重荷を、いくらかでも取り除い  
てくれると信じています。

大先生  
マーク・マリオット 22  
私が山田洋次監督の作  
品に出会ったのは、私の大  
学のフリアン青年祭の  
外国映画上映だった。彼は  
自分の映画の演じた方法  
に招待されたのだ。  
「二人」を主役とした他の  
最終カットを見たら、私は  
山田監督が自分のキャリアの  
大部分を費やしたことが  
よくわかるようになった。  
しかし、彼は自分が保持  
しているパターを利用して  
の素晴らしい教えたかた  
と、このことがわかった。  
個人的にお会いして、  
彼の仕事を見て学びたい  
と願った。  
そのことを手紙に書き、日  
本の下で学ばなければなら  
ない。五月末に告白するよ  
うに努力した。彼は「この  
チャンスを握り、特別に自  
分が参加することを喜んでシ  
アットして知っていたと思  
う。故郷のカフォルニア  
サンディエゴで先生の初  
期シリーズの脚本を見  
ると、本音がわかってい  
る。その仕事を見て学ぶ  
機会が大きくなって、今  
作の撮影中だ。



『寅さん』の撮影隊に参加して  
山田監督から映画の心を学ぶ



アのフリアンで行われ、現  
ロケのスタッフに知って通  
訳を手伝うことになった。  
フリアンの撮影は、私も  
案内された。撮影隊は私  
と、私には山田監督を近  
く観察することを許可さ  
された。私は山田監督の  
私生活を知ることができ  
た。山田監督は、自分  
の求ることを伝えて、自  
分の監督の心を知るた  
く、山田監督の心を知る  
ことになった。彼は人を  
理解し、親切である。寅  
さんの心は山田監督の心  
とつながっている。

山田監督の心を知るた  
く、山田監督の心を知る  
ことになった。彼は人を  
理解し、親切である。寅  
さんの心は山田監督の心  
とつながっている。

9月1日付の東京新聞より

NEW OFFICERS

## 新役員への任命

- 大阪北ステーク部茨木ワード部  
新監督: 小杉俊明  
(前任者: 中嶋清次)
  - 東京北ステーク部浦和ワード部  
新監督: 松本勝己  
(前任者: 高井淳一)
  - 熊本地方部大牟田支部  
新支部長: 浜田宏陽  
(前任者: 小林周二)
  - 東京東ステーク部牛久ワード部  
新監督: 佐藤正温  
(前任者: 重松征史)
  - 高崎ステーク部宇都宮支部  
新支部長: 長谷川充豊  
(前任者: 田代富夫)
  - 高崎ステーク部桐生ワード部  
新監督: 浅野敏重  
(前任者: 周藤清太郎)
  - 札幌ステーク部岩見沢支部  
新支部長: 陸野好男  
(前任者: 山田明毅)
  - 札幌西ステーク部新琴似ワード部  
新監督: 菊谷欣広  
(前任者: 原田久)
- NEW UNIT
- ★東京東ステーク部つくばワード部(1989年10月8日牛久ワード部から分割)監督: 重松征史
  - ★北陸地方部福井第二支部(1989年10月1日福井支部から分割)支部長: Kenneth Rue Edward Herbert
  - ★北陸地方部金沢北支部は金沢兼六園支部に名称が変更されました。

## いつか神様の みもとで

長野地方部松本支部  
植野正行・祐子

**昨**年9月に結婚し、待望の子供もこの9月には誕生することになりました。しかし、6月末、残念ながらこの世では育たない子だとわかりました。

楽しみにしていただけにとっても落胆しましたが、私たちには福音がありました。様様な恵みと励ましをいただき、今回ほど福

音を知っていてありがたさを感じたことはありませんでした。

私たちは相談し、クモラの丘霊園を買うことにしました。8月31日、実家の近くということもあり、両親と共に納骨に行きました。墓の奉獻の祈りをし、とてもすがすがしい気持ちになりました。

翌日、私たちは神殿に参入しました。日の光栄の部屋で祈ったとき、愛する息子が今神様のみもとに帰っていることを確信でき、安堵の思いが胸に広がりました。私たちは今、息子に会えるのは日の栄えに行くしかない、互いに励まし合っています。



この福音は真実であり、天父と御子イエス・キリスト様が生きておられることを心から証します。  
(うえの・まさゆき、ゆうこ)

## お知らせ

FULL TIME MISSIONARIES

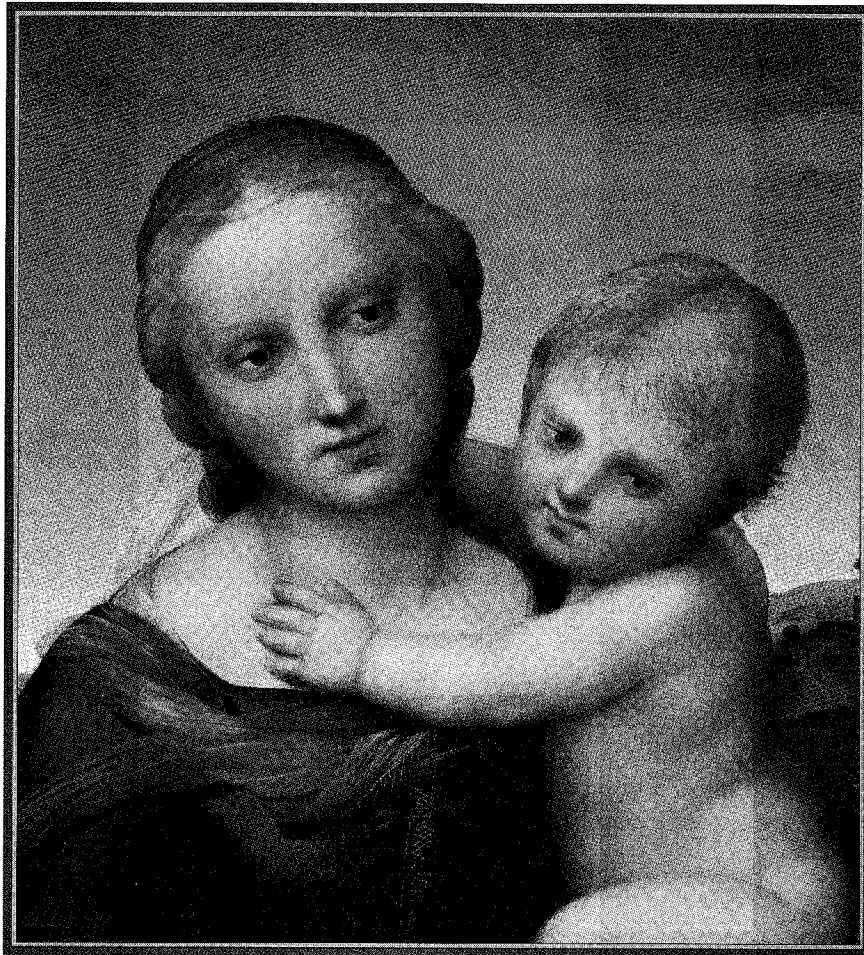
## JMTC 10月に召された 専任宣教師

第125期生16名

1. 杉野勝美 札幌M/函館B 東京北伝道部
2. 大湾由美子 那覇S/名護B 名古屋伝道部
3. 泉谷美樹子 町田S/町田第2W 神戸伝道部
4. 西畑智子 岡山S/米子W 福岡伝道部
5. 野本恵美子 東京北S/浦和W 札幌伝道部
6. 上家明美 福岡S/八幡B 東京北伝道部
7. 黒澤江美子 名古屋S/刈谷W 仙台伝道部
8. 倉林路江 東京東S/水戸W 神戸伝道部
9. 近江節子 札幌西S/小樽W 神戸伝道部
10. 丹沢章子 東京西S/甲府W 神戸伝道部
11. 松石統治 東京南S/茨谷W 福岡伝道部
12. 谷田部英正 東京東S/牛久W 福岡伝道部
13. 中村和樹 山口D/宇部B 東京南伝道部
14. 淀靖利 福岡S/八幡B 仙台伝道部
15. 大谷昌史 三重D/伊勢B 大阪伝道部
16. 峯吉博文 横浜S/横浜第2W 福岡伝道部



● S：ステーク部，D：地方部，M：伝道部，W：ワード部，B：支部  
● 後列左から1-10，前列左から11-16



# 特別な子供

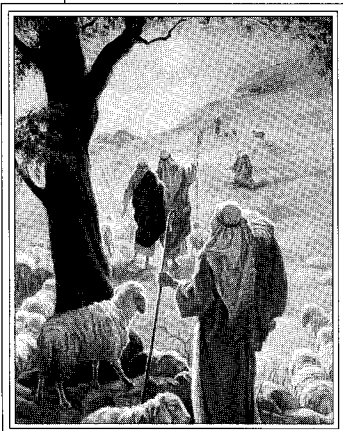
バーバラ・B・スミス

母親の務めの重要性がしばしば軽視されるこの世にあって、  
イエス・キリストの誕生を思い起こすのは  
大切なことだと思います。

**私**は、これまでベツレヘムの閑静な通りを歩いたことはありません。ガ  
リラヤ湖の青い水面や羊飼いたちの野原の上にきらめく星も、見たこ  
とはありません。しかし母親として、ときどきマリヤの歩いた道を理解でき  
るように思うのです。幼い子供をこの腕に抱いたときの大きな喜びや、生ま  
れたばかりのわが子を見たときの畏敬の念を、この私も経験しているからで  
す。生まれたばかりの子供は皆、神聖な素質を備えています。この敬虔な驚

きをもって、誕生の奇跡、2千年近くも前に飼葉おけに寝かされていたあの赤ん坊の誕生に、思いをはせてみましょう。

マリヤとヨセフがベツレヘムに着くと、ふたりが休む場所は馬小屋のわらの上にしかありませんでした。時が満ちるとすぐさま、そこでひっそりと出産が行なわれたのです。



羊飼いたちは  
天使の歌声を聞き、  
それに誘われて  
幼な子イエスが寝ている  
飼葉おけのあるところまで  
たどり着きました。

ほとんどの女性は命を尊び、胎児の成長につれその思いを強くします。出産が始まるや、信仰に身をゆだね、身も霊も苦しみを味わいます。しかしマリヤにとって、この経験はことさら敬虔なものだったに違いありません。後のキリスト、人類の贖い主となる神の御子の不滅の霊に、この世の死すべき肉体を与えるということを知っていたからです。

はるか昔のその夜も、当時のほとんどの人にとって、いつもと同じ普通の夜だったに違いありません。もちろん人口調査による混雑の不都合もあったでしょうが、大部分の人々はいつものように食事をし、会話を交わし、寝床に就いたのでした。

そのとき、静まりかえった近くの野原に、突然、天使らが現われ、歌声を響かせてみどり児の誕生を告げ知らせました。

ベツレヘムの人々が天使の歌声を聞いたとは聖典には記されていません。しかし羊飼いたちはその歌声を聞き、それに誘われて幼な子イエスが寝ている飼葉おけのあるところまでたどり着きました。マリヤはその歌声を聞いたのでしょうか。聖典には何も書かれていません。しかし、子供が誕生するとき母親の心の中には賛美の歌が聞こえてこないのでしょうか。さらに、全世界が動きを止め、息をひそめてみどり児に見入ってほしいという思いに駆られないでしようか。

ベツレヘムのほとんどの人々にとって、マリヤに生まれた子供は、徴税記録に書き加えられるひとりのイスラエル

人にすぎなかったでしょう。その幼な子はユダ族の血統で、ダビデの子孫、ナザレのヨハネとマリヤの間に生まれた息子でした。

マリヤは、無力で愛らしい小さな体をしたこの幼な子を見て、特別な子供だということを知っていました。まったく無力なこの子の持つ偉大な可能性に、マリヤは圧倒される思いだったに違いありません。彼女は驚嘆すべき方法で妊娠し、神の御子を育てる責任が自分に託されたことを知って、恐れおののいたはずです。

クリスマスは、誕生の神聖さを私たちに気づかせ、人間の成長という奇跡を理解させてくれます。

母親の務めの重要性がしばしば軽視されるこの世にあって、イエス・キリストの誕生を思い起こすのは大切なことだと思います。また、イエスが母から死すべき肉体を受け、御父から不死不滅の体を受け継いだからこそ、その使命を成し遂げられたということをおぼえてはなりません。キリストの救いのみ業を可能にするには、この両親が不可欠だったのです。

誕生の奇跡は永遠にわたる重要な事柄です。それは人類の存続にかかわっているからです。また、それは永遠の進歩が可能になることをも意味しています。霊は永遠の成長のために肉体を必要としているからです。ここに、この世の男性と女性の伴侶としての関係の重要性があります。母親になることによって個人的にすばらしい成長を経験することができます。それは単に子供を産むことによってだけではなく、特に子供を育てることによって達成されるのです。私たちは皆、霊を高める必要があります。また、霊を高めるための経験が必要なのです。

わが子が神殿で教師たちと議論を交わした出来事の後、マリヤがどのようにこのことを心に留めたかを思い出してください。私は自分の子供たちが成長する様子を目にしながらか、多くのことを心に留めました。そして子供たちが産まれるたびに、新たな信仰も生まれ、彼らの成長とともに信仰の必要性も増していくことを知ったのです。

神が私たちに広い心を与えてくださって、主の弟子として行動する決意と信仰を新たにできるように、願っています。喜びに満ちたこの時節にふさわしい真心をもって、私たちの子供や今この地上で私たちを必要としているすべての人々に対し、救い主が私たちに賜った愛と関心を示すことにより、救い主の人生を尊ぶ信仰を持つことができますように。□

\*バーバラ・B・スミス姉妹は前中央扶助協会会長。現在、香港に在住。七十人第二定員会会員である夫のダグラス・H・スミス長老はアジア地域会長として教会を管理している。





# 予言者ジョセフの

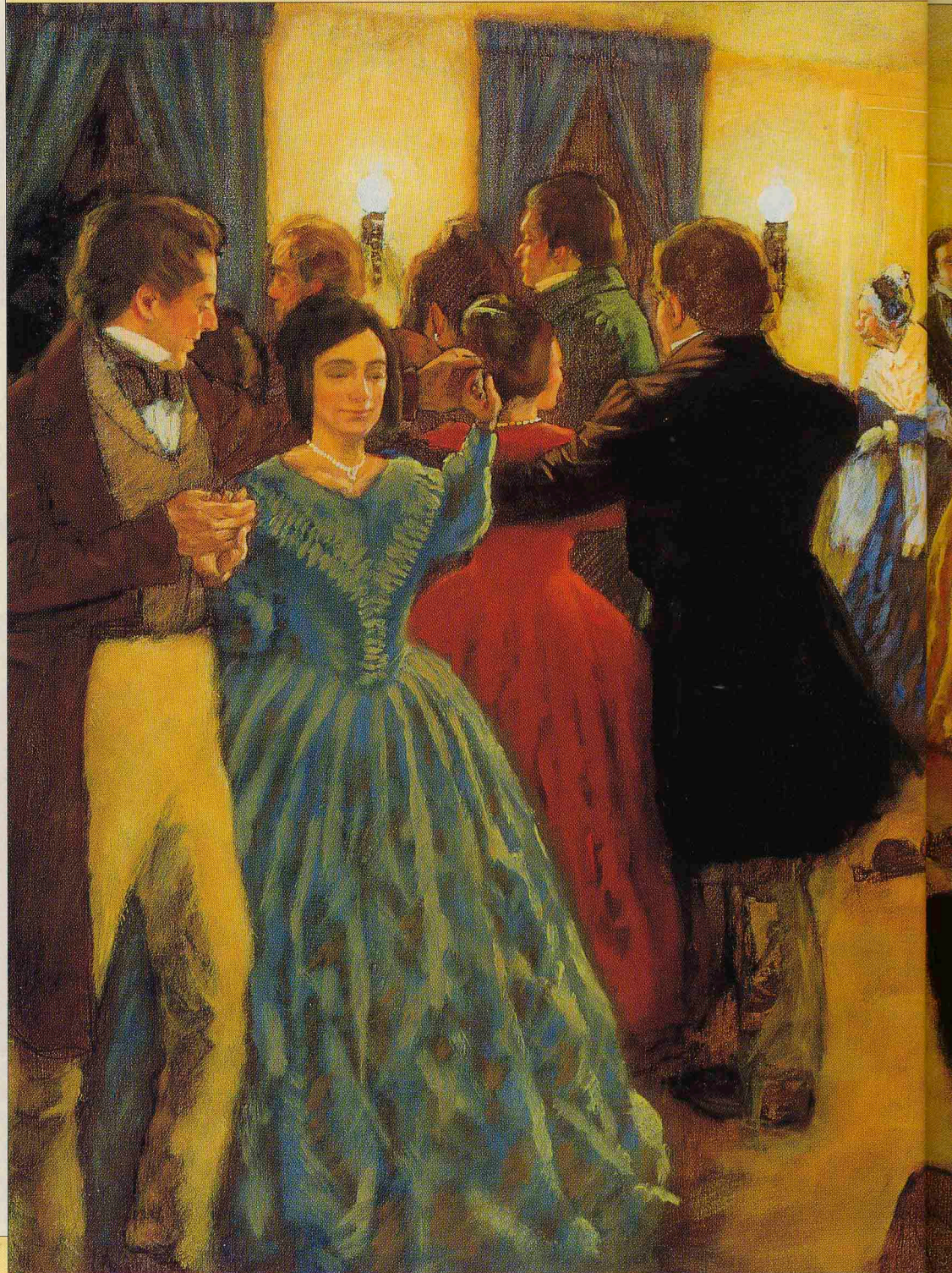
ラリー・C・ポーター

私たちは世の救い主の誕生を祝うと  
ジョセフ・スミスの生涯と犠牲に感謝

**世**界中のキリスト教徒の間では、救い主の生涯を記念してクリスマスをお祝いします。しかし、私たちの教会では、このクリスマスに関連するもうひとつの大切な生涯があります。それは、予言者ジョセフ・スミスの生涯です。

1805年12月23日に生まれたジョセフ・スミスは、いわば「クリスマスの」子供でした。ジョセフは、最初のクリスマスをバーモント州ウィンザー郡シャロンの町で過ごしました。この前年、ジョセフの母ルーシー、父ジョセフ、そしてその3人の子供たちアルビン、ハイラム、ソフロニアは、ルーシーの父のソロモン・マックの招きに応じてこの土地に移住し、ソロモンの所有地に建つ小さな家で生活していました。この愛らしい幼な児の誕生は、クリスマスの聖なる日を祝うスミス家族にとっても、また近くに住む祖父母のマック家族にとっても、どれほど大きな喜びをもたらしたことでしょうか。

38年の生涯にわたってジョセフがどのようなクリスマスを過ごしたのか、完全な記録が残っているわけではありません。たとえば、



# 過ごしたクリスマス

ともに、救い主のみ使いとなった  
謝することを忘れてはなりません。



18 43年の  
クリスマスには、  
家族と友人が  
数多く集まり、  
予言者と  
夕食を共にしました。  
そして  
「共に陽気に楽しく」  
美しい音楽や  
ダンスに興じました。

合衆国東部のニューイングランド地方でジョセフがどのようなクリスマスをおすごしたのかについては、記録がまったくありません。ただ、その当時のことでわかっていることは、ジョセフの家族が引っ越しを繰り返していたこと、ジョセフとルーシーに新たに5人の子供が生まれたこと、家族の中に発疹チフスにかかった者がいたこと、毎年作物が不作で家族の収入が非常に少なかったことなどです。ニューヨーク州に住んでいた初めのころについても、クリスマスの記録が完全にそろっているわけではありません。ただこのころは、新しい家を建てたり、最初の示現やモロナイの訪れを

**18** 05年12月23日、ジョセフ・スミスの誕生は、  
母親のルーシー、父親のジョセフ(初代)、  
兄のアルビンとハイラム、姉のソフロニアたちに喜びをもって迎えられた。

受けたりして、ジョセフにとってはかなり多忙な時期であったことでしょう。1823年の11月19日にはアルビンが亡くなっていますが、そのためにこの年の12月は家族全員が大きな悲しみに打ちひしがれていたものと思われます。<sup>1</sup>

1826年のクリスマスのころは、ジョセフは間近に控えたエマ・ヘールとの結婚について考えていたものと思われます。ふたりは翌年の1827年1月18日に結婚しました。1827年の12月には、ジョセフとエマはニューヨーク州マンチェスターからペンシルベニア州ハーモニーに引っ越し、最初のうちはそこでエマの父のアイザック・ヘールと一緒に生活しています。ここで、予言者はやっと手に入れた金版の文字について、ようやくじっくりと研究することができるようになりました。

1828年の12月には、ジョセフは初めてペンシルベニア州ハーモニーの自宅でクリスマスを過ごしています。おそらくこの時期は、最初の子供を亡くし、またモルモン経の原稿を160ページも紛失した直後で、まだ悲しみにふさいでいるころだったと思われます。<sup>2</sup>このふ



たつの事件は、この年の初めに起きています。

翌年のクリスマスには、きっとジョセフはモルモン経の出版を楽しみに待っていたことでしょう。翻訳という一大事業が完了し、印刷出版段階に入っていたからです。

1830年の12月は、ジョセフはおそらく、ニューヨーク州フェイヤットの町でピーター・ホイットマー(初代)の家族と一緒に生活していたものと思われます。ここでジョセフは現在の教義と聖約に含まれている啓示を3つ受けています。そのうちのひとつ(教義と聖約37:1-3)で、主は予言者と教会員にオハイオ州に移動するよう命じられました。

1831年の12月には、予言者とシドニー・リグドンは「この付近に在る世の人々」に福音を宣べ伝えるため、伝道に派遣されました。12月4日から翌年の1月10日まで、ふたりはオハイオの住民に福音を宣べ伝えています。(教義と聖約71:「教会歴史」1:238-41参照)

1832年12月25日、ジョセフは次のように説明しています。「この時期は、教会が荒野への旅を開始したところに比べ、国内での紛争がかなり顕著になりつつあった。……〔1832年の〕クリスマスの日、私は次の啓示を受けた。これは戦争についての予言である。」「(教会歴史」1:301-302)このあと、ジョセフの受けた啓示の中でも最も遠大な啓示のひとつが続きます。それが教義と聖約第87章です。ジョセフは〔やがて〕合衆国に南北戦争が起きることを予言し、またそれはいずれ世界中に広がっていく戦禍の始まりとなるであろうと警告しています。

1833年12月16日、ジョセフは聖徒たちがミズーリ州ジャクソン郡の中心の地から最近追放されたことを聞き、悲しみに打たれていました。ジョセフの嘆願に対して、このような答えが与えられます。

「そは、彼ら罪を犯したる結果、主なるわれは彼らを苦しめたる苦難を彼らの身の上に襲い来らしめたるなり。

されど、われな**お**彼ら**を**わが手に**有**つべし。而して、われ来りてわが宝の**珠**を飾る時彼ら**を**わがものとなさん。

故に彼らは、その独子を犠牲となすを命ぜられたるアブラハムの如くにすら、必ず懲しめられ試みられざるべからず。」(教義と聖約101:2-4)

1834年から35年の冬にかけて、ジョセフは「長老の塾」

(すでに組織されていた「予言者の塾」とは異なることに注意)を組織し、大部分の時間をその塾で教えることに費やしていました。「教会歴史」2:175-76)<sup>3</sup>

1835年の12月は、予言者にとってすばらしい冬になりました。ジョセフは次のように記録しています。

12月1日。「自宅で……そり滑りを楽しむ。雪はまだ降っている。」

12月18日、兄のハイラムと一日過ごしたあとで、予言者ジョセフは兄に対して抱いている深い愛について、次のように書いています。

「私は、あらゆる兄弟たちに私の愛する兄ハイラムと同じような人物になってもらえたら、と心の中で祈っている。兄は子羊のような柔和な心と、ヨブのような高潔な心、すなわちキリストの柔和さと謙遜さをあわせ持っているのである。私が兄に対して抱いている愛は死よりも強い。私はこれまで兄を非難するようなこともなかったし、兄も私に対してそうであった。兄はきょう帰るときにそう教えてくれた。」

12月25日。ジョセフは自宅で質素なクリスマスを楽しく過ごしました。「自宅で、家族と一日中楽しく過ごした。クリスマスをこれほど心ゆくまで楽しむことができたのは、本当に何年振りのことか。」(「教会歴史」2:232-45)

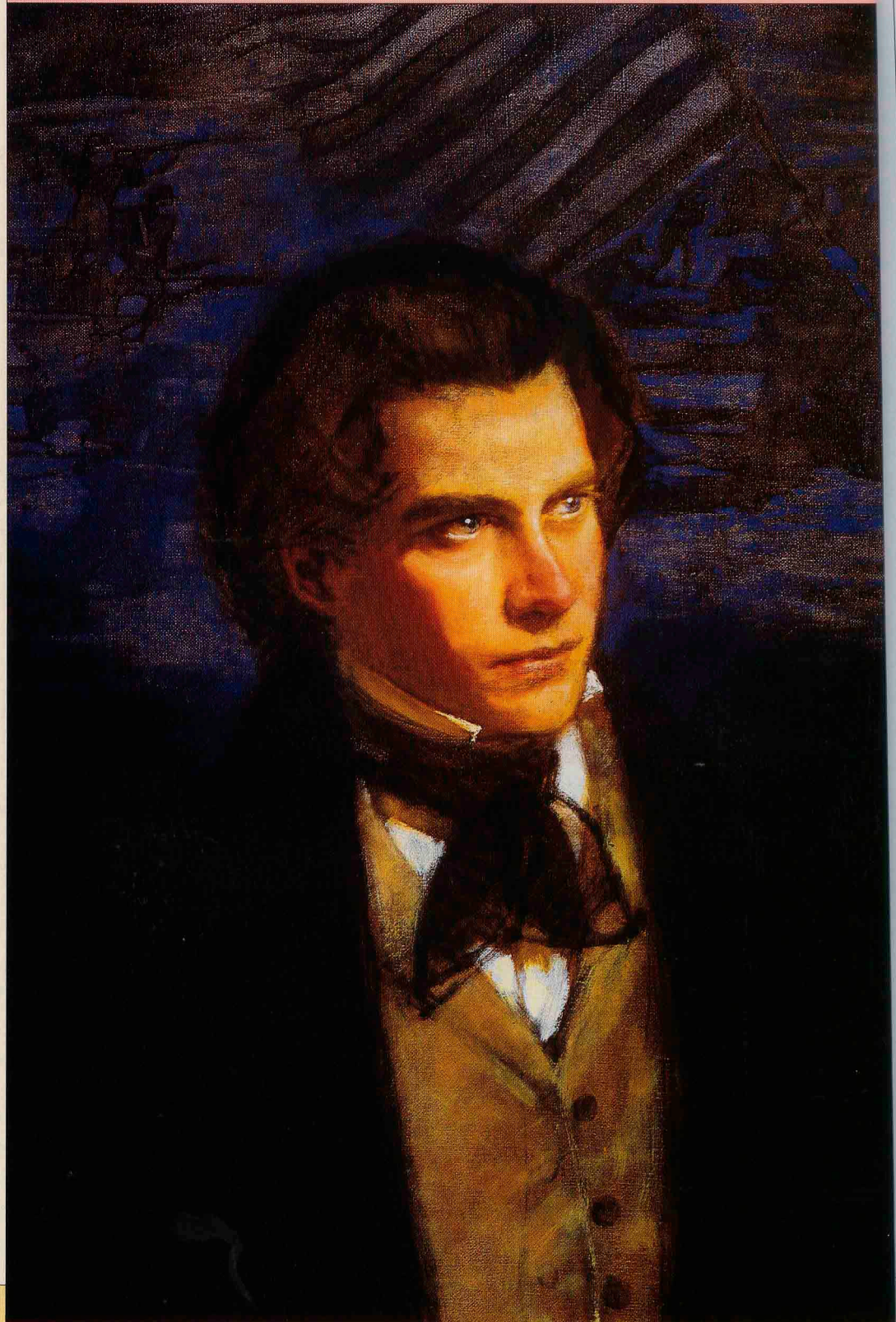
1836年の12月には、予言者は、ミズーリ州における教会員の避難所として新設されたコールドウェル郡で、集まった聖徒たちとの再会を喜んでいます。

しかしながら、1837年のクリスマスの季節は、ジョセフにとって決して楽しいものではありませんでした。この年に始まった全国的な経済恐慌のために、聖徒が自分たちで設立した「カートランド安全協会」という銀行が破産してしまったのです。高い役職にある人々を含めて、かなりの数の教会員が、教会に反旗を翻しました。1837年12月10日にミズーリの旅から帰って来たジョセフは、反対派の中でジョセフを大管長の地位から引きずり落とそう、さらにはジョセフを殺害しようという計画が進行していることを知りました。1838年1月12日には、ジョセフとシドニー・リグドンは身の安全を守るために、カートランドを出て、ミズーリ州の聖徒たちのもとへ身を寄せたのです。

18 32年のクリスマスに、予言者は遠大な啓示を受けた。  
それは、やがて合衆国に起きる南北戦争をはじめとする  
数々の戦争の予言であった。

1838年の12月を迎えるころには、ミズーリ州の教会も次々と襲いかかる試練に苦しんでいました。ジョセフをはじめ数人の人々が、いわれのない罪のために投獄されていたのです。1838年12月16日、ミズーリ州のリバティー牢獄の一室に閉じ込められていた予言者は、迫害を受け続けている聖徒たちに、次のような慰めの手紙を書いています。

「親愛なる兄弟たちよ。私たちがくじけているなどと思ってはならない。確かにこれまで私たちには理解できないことが起きてはいる。しかし、こうしたことはこれまでも見てきたし、経験もしてきたことである。それに、私たちには迫害する者たちにはるかに勝る確固たる希望がある。だからこそ、そうした重荷に耐えられるよう、神は私たちの肩を強めてくださったのだ。たとえ苦難の中にあっても、神をほめたたえようではないか。確かに神は私たちと共に在り、私たちの友であり、私たちの身も霊も救ってくださるからである。私たちの肉体を殺す者たちのことは構わないでおこう。彼らは私たちの魂にまで害を及ぼすことはできないの



だ。私たちは、暴徒にも、世の人々にも、悪魔にも、その使いとして働く反対者にも、そして私たちの命を取ろうとして好んで偽りを言い、偽りの誓いをする者たちにも、あわれみを請うことはするまい。私たちは、単に命請いをするために、人におもねることはこれまでしなかったし、これからも決してするつもりはない。」<sup>4</sup>

ミズーリ州の牢獄から釈放されたジョセフは、1839年の12月には首都ワシントンとニュージャージー州にいました。ミズーリ州の迫害者によって聖徒たちが被った損害の補償を求めるためと、福音を宣べ伝えるためでした。

1841年の12月には、ジョセフはノーヴー神殿の建設に携わっていたものと思われま

す。予言者の過ごしたクリスマスの中で、おそらく最後のクリスマス、すなわち1843年の12月25日ほど楽しいものはなかったのではないのでしょうか。予言者は次のように記録しています。

「今朝、夜中の1時すぎ、私は英国人のレティス・ラシュトン姉妹の来訪で目を覚ました。彼女はリチャード・ラシュトン(初代)の未亡人で、10年前に失明していた。3人の息子とその妻たち、ふたりの娘とその夫たち、それに近所の人たち数人と共にやって来たラシュトン姉妹は、『世の人、目覚めよ。み使いとともに』と歌ってくれたのである。この歌を聞いて、私の心の中に大きな喜びがわき上がった。私の家族も、我が家に寄宿していた下宿人たちも皆起きてきて、この美しい夜の調べを聞いた。私は彼女たちの訪れを天父に感謝し、主のみ名によって祝福を与えた。」(「教会歴史」6:134)

家族と友人が数多く集まり、予言者と夕食を共にしました。「共に陽気に楽しく」美しい音楽やダンスに興じました。そのとき、突然招かれざる客が入って来たのです。ジョセフはこのときの出来事を次のように書いています。

「この楽しい集まりの最中に、長い髪の毛を肩までたらし、男が入って来て、『いかにも場違いな』行動をとったのである。私は警察署長にその男を外へ出してくれるよう頼んだ。その男と取っ組み合いになった。私は相手の顔をよく見ることができた。そのときの私の驚きと喜びの大きさは、表現しようがないほどであった。それは、長い試

練と冷たい迫害に耐えてきた友、オーリン・ポーター・ロックウェルだったのだ。有罪の判決も受けぬまま、1年近くミズーリ州の牢獄に閉じ込められていたのである。」(「教会歴史」6:134—45)

ジョセフのクリスマスはこれが最後でした。ジョセフは新しい年に期待をかけてはいたのですが、敵がジョセフの殺害を計画していました。ジョセフと兄のハイラムは、1844年6月27日にカーセージの牢獄で凶弾に倒れたのです。

しかし、ジョセフの始めたみ業はジョセフの死とともに終わったわけではありません。私たちは今なお、回復されたイエス・キリストの福音により、多大の恩恵を受けています。そのみ業は1805年の12月のある日、バーモント州の丘で予言者ジョセフ・スミスが誕生したとき、この地上で始まったのです。

世の救い主となられたベツレヘムの幼な児の誕生を祝うとともに、救い主のみ使いとなったジョセフ・スミスの生涯と犠牲に感謝することを忘れてはなりません。□

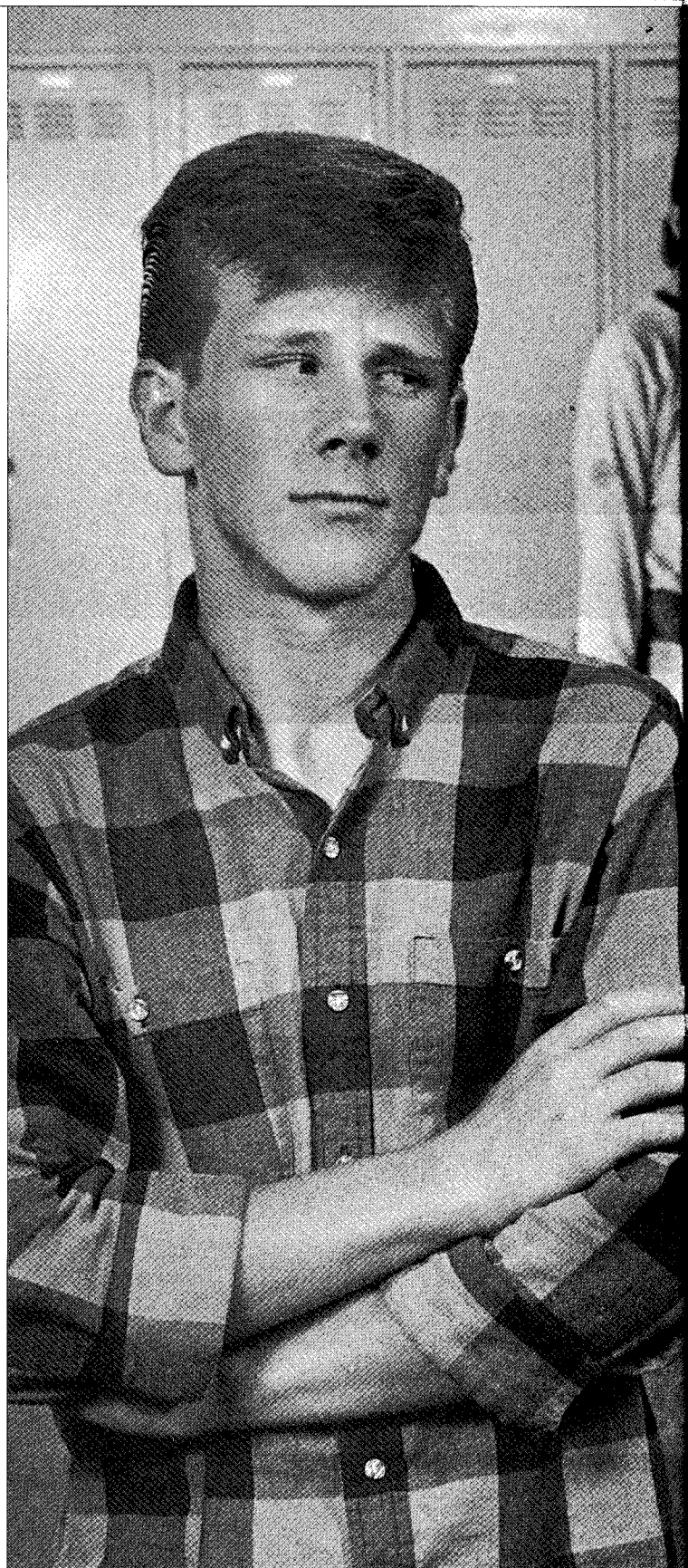
\*ラリー・C・ポーターはユタ州プロボのブリガム・ヤング大学で教会の歴史と教義を担当する准教授である。

#### 注

1. ルーシー・マック・スミス「予言者ジョセフ・スミスの生涯」、『インブループメント・エラ』1902年, pp.321—24. しかしながら、ルーシーの著作には、1824年11月19日というアルビンの死亡年月日について事実誤認がある。正確な死亡年月日は1823年11月19日である。
2. ルーシー・マック・スミス「同上」pp.410—15. また「教会歴史」1:20—28も参照のこと。
3. オーレン・カーティス・ピーターソン「1831年から39年までのオハイオ州とミズーリ州における末日聖徒イエス・キリスト教会の学校および教育制度の歴史」ブリガム・ヤング大学修士論文, 1972, pp.34—37.
4. ジョセフ・フィールディング・スミス編「予言者ジョセフ・スミスの教え」デゼレトブック社1977年版, pp.123—24.

# 質・疑・応・答

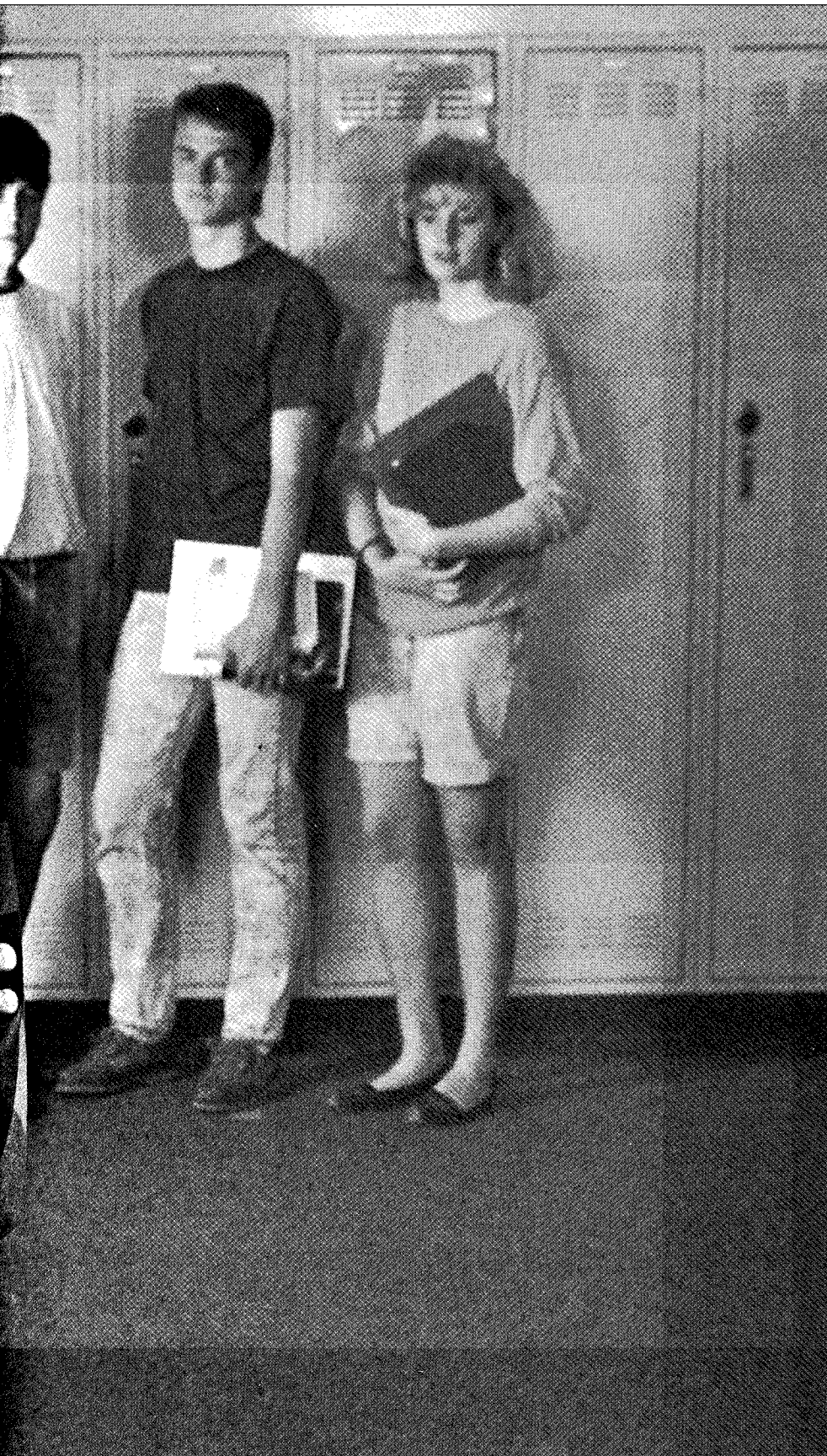
教会員の中には、  
末日聖徒以外の人とつき合うのは  
よくないと言う人がいます。  
でも私には、  
モルモンではありませんが、  
とてもよい友人がたくさんいます。  
彼らは別段私に  
悪いことをするように  
強要することはありません。  
彼らとつき合うのは  
本当によくないのでしょうか。



本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、  
教会の教義を公式に宣言するものではありません。

Craig Moyer





➤ の問題は聖書の時代にまでさかの  
↳ ぼる問題です。身分も違い、不義  
な人々と思われていた民と共に食事をした  
ことでパリサイ人の非難を受けた救い  
主ご自身も、このような問題に直面され  
ました。そのようなときに、キリストは  
何と言われたのでしょうか。あるときは、  
罪のある女の人のほうが、パリサイ人た  
ちよりも自分をよくもてなし、深い愛を  
示したと言われ(ルカ7:37—50参照)、ま  
たあるときは、羊飼いが99匹の羊を残  
して迷い出た1匹の羊を連れ戻すことほど  
喜ばしいことはないと言われておられます。  
(マタイ18:12—14)

皆さんの教会員ではない友人が、迷い  
出た羊だという意味ではありません。そ  
れどころか、この地上で末日聖徒イエ  
ス・キリスト教会の会員だけが善人な  
のでは決してないのです。私たちのワード  
部やステーク部、支部、地方部の外にも  
善良な人々は大勢いますし、教会内にも  
不義な人はたくさんいます。この世の善  
良な人々との友情をはぐくむこともなく、  
いろいろ違った物の見方を知り、福音を  
知ってもらう機会が持てないとしたら、  
それは実に不幸なことです。私たちが信  
仰を同じくする人々としかつき合わない  
としたら、モルモンは不寛容、非社交的  
で、同情心のない民と思われてしまい、  
伝道の業は進まないでしょう。

末日聖徒の友人とだけつき合うよう  
にと言っている人は、会員でない人々が皆  
さんに及ぼす影響を心配しているのだし  
ょう。つまり、末日聖徒でない人々は、  
私たちとは異なった標準を持っており、  
そうした標準に対して心配するのはもっ  
ともな場合があるのです。皆さんは自分  
の信じていることに確固たる信念を持ち、  
自分が何者で、なぜそうした生き方をし  
ているのかをしっかりと見極め、信条や生  
き方の違う人々の言うことに容易に影響  
されないよう注意しなければなりません。  
ハロルド・B・リー大管長はこのように  
言っています。「あなたがたは自分が低  
い所にいて他人を引き上げることはでき  
ない。その人より高い所に立っていなけ

ればならない。」(1973年4月総大会)

友人が、鉄の棒を握りしめているあなたの手をゆるめるように誘いかけてきたら、あなたがその友人とつないでいる手をゆるめてください。彼らが末日聖徒でないという理由からではなく、皆さんがすべきでないと思っていることを、彼らが勧めるからです。

皆さんの友人が教会員であろうとなかろうと、一緒にいて幸せな気持ちを感じさせて

くれる人というのは、皆さんに戒めに背くようなことはさせないはずです。またそのような人々は、皆さんの立場や信条を理解し、快く皆さんを受け入れてくれます。

では次に、こうした質問に対する末日聖徒の若者たちの意見をいくつか紹介しましょう。この中には、教会の知名度の高い地域に住んでいる人もいれば、会員数が非常に少ない地域の人もあります。

「私の学校の生徒数は約475人です。その中で末日聖徒は、私と私の兄妹だけです。教会員に会えるのは、日曜日か教会の活動のある日しかありません。学校のクラスメイトや先生たちは私の宗教を知っています。会員ではない友人たちは、私を教会から離れさせようとしたり、私がすべきでないと思っていることをするよう勧めたりすることはありません。私は13人兄弟の下から2番目です。私の家族はいつも教会員としてよい模範となれるよう努め、私たちの行動を友人にいつ見られても恥ずかしくないように頑張っています。私の場合は、信仰生活を送ることによって、友人たちのためになるようなよいことを行なうことができます。」



ジョアンナ・ショーフ, 15歳

「ぼくの住んでいる所にも教会員でない友人がいます。彼らはぼくが末日聖徒であることを知っています。彼らの中には良くないことをしている人もいますが、ぼくの守っている標準を知っていて、だれもそれに反するようなことを勧める人はいません。しかしぼくにとって親友と呼べるのはやはり教会員です。彼らとは一緒にいろいろなことをします。ぼくは教会員以外の友人を持つことを別に悪いことだとは思いません。もし彼らと友達にならなかつたら、彼らはぼくたちのことを自己中心的だと思うでしょうし、教会のことを知ろうとは思わないでしょう。ぼくたちは模範を示し、教会員でない友人たちの宣教師になることができます。」



デビット・フリント, 16歳

「私は教会員以外の人とつき合うことが必ずしも悪いことだとは思いません。ただし、悪い影響を受けて自分の標準を下げてしまうことのないよう、自分が正しいと信じていることを守り続け、彼らに模範を示すように努めなければなりません。私の好きな聖句は、マタイ伝5章16節の、世の光となり、人々に模範を示すように、という聖句です。私の通っていた学校では、教会員は私ひとりだけでした。ある意味では、自分だけが教会員というのは大変なことです。ほかのクラスの人たちと同じように行動する誘惑にかられることがよくあるからです。けれどもまた別の意味では、たやすいことだと言えます。というのは、モルモン女の子はどんなことをするのかと、私はみんなの注目の的だったからです。それに、自分がほかの人と違っているというのはいい気持ちでしたし、自分の信仰を守り、みんなの模範になりたいと思っていたからです。私のことをからかう人もいましたが、ほとんどの人は尊敬してくれました。何事も本人次第だと思います。よく知恵を使って、自分の標準に従った生活をしなければなりません。」

トレーシー・クラーク, 17歳

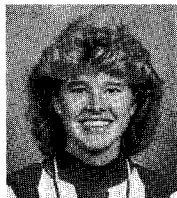
「末日聖徒ではない人とつき合うことは、悪いことではありません。よく注意して友達を選べば、何も問題はないと思います。しばらくつき合っていくうちに、友達はあなたのことがわかるようになり、あなたの守っている標準を理解してくれます。あなたが信じていることを理解し、ほかのことをするよう押しつけたりはしないと思います。」



シンディー・フーテン, 12歳

「末日聖徒以外の人とつき合うことは何も悪いことだとは思いません。私の学校には12人ほど末日聖徒の青少年がいてよく一緒に楽しい時を過ごしていますが、私には教会員ではない友人もたくさんいます。彼らに対してすべき最も大切なことは、良い模範を示すことだと思います。教会員ではない私の友人たちは私が特定の標準を守り、私が何をし何をしないかをよく知っていて、そのような私を尊敬

してくれています。私の標準に合わないことをするように誘うことは決してしません。そのことに私は感謝しています。教会員ではない友人が私たちの信じていることを知っていて、何も誘惑するようなことがなければ、彼らとつき合うことが悪いとは少しも思いません。彼らの中には私には良いと思えないようなことをしている人がいることは確かですが、だからといってそういう人が真の友ではないとは言えません。自分の信じていることを守り、それに従って生活することはとても勇気のいることです。中には私たちのことを笑いやにする人もいるからです。けれども、教会員ではない友人たちに良い模範を示すならば、彼らはあなたに従ってくるかもしれません。何が大切かをよくわきまえて忘れなければ、ほかの人がどう思おうとそれは問題ではありません。」



ローリー・リビンス, 17歳

「その友達がどんな人かによろと思います。教会の原則や標準に逆らうような人たちであれば、友達にならない方がよいと思います。でも、ただ末日聖徒ではないという理由だけで避けなくてははいけないということはありません。いい人であれば、友達になってもいいと思います。いい人が皆教会員とは限りません。」

レイラニ・ホクム, 17歳

19 85年4月の総大会が終わって、すぐのことでした。ある楽団と合唱団を招き、モルモンタバナクル合唱団との共演が予定されていました。この催しは録音されることが決まっていたので、様々な機材をこのソルトレークシティのタバナクルの中に据えつけなければなりませんでした。

私が担当する管理部門には、あの巨大なパイプオルガンの調律を行なう責任がありました。この精巧な楽器が奏でる音色は、室温にも大きく左右されます。演奏会の行なわれた晩は特に暖かったため、終了後、私たちは建物の中に夜気を通す意味で、タバナクルの扉を開け放っておきました。パイプオルガンは冷え、翌日の晩に控えた別のコンサートのために、調律を済ませることができました。

ところが、だれも気づかなかったのですが、扉の開いている間に、タバナクルの中に1羽のスズメが迷い込んでしまったのです。建物の扉は閉められ、スズメのことは翌朝までだれも知らないままでした。

職場に着くと、私の部署の職員から電話が入ってきました。スズメを追い出そうとして、すでに何時間もタバナクルの中で苦勞しているところでした。ソルトレークシティの動物管理局に通報すると、彼らはスズメを捕まえるための長い柄のついた網を持ってやって来ました。

私がタバナクルの中に入っていくと、職員たちはおびえるスズメを目がけて柄の長い網を振りながら、あちらこちらへと走り回っています。職員が網を持って一方の端に駆け寄ると、スズメは狂ったように反対側の端に逃げ去るのでした。

タバナクル正面のパイプオルガンの先端から、屋内の後方まで飛んでいって、そこにあるベンチの背の上に止まるのです。網の効果といえば、すでにおびえていたスズメをさらに怖がらせただけでした。タバナクルの扉はスズメが逃げられるようにすべて開けてあるのですが、肝心のスズメがそのことに気づかないのです。

動物管理局の人々は、散弾銃を何丁か持ち出してきました。彼ら自身は私有地内で銃を使用することはできないが、私たち職員がそれを借りてスズメを撃ち落とすことができると説明しました。

私はすぐに、この提案に反対しました。118年の歳月を経たこの建物の天井は、当時のまま伝えられています。それは、強度を上げ、美しい音響効果を得るために、良質の獣毛を混ぜたしつくい<sup>ばんこん</sup>を材料にして造られています。それが弾痕で損なわれることは、私には考えられませんでした。

# タバナクルに迷い込んだ スズメ

ロナルド・D・ジョン



Ron Stucki

ほかにも、この鳥を撃ち落とすべきではない理由がありました。壇上にまだ据えつけられたままの録音器材や様々な楽器を破損させる恐れがあったことも、そのひとつです。しかし一番大きな理由は、私にはこの小さな生き物を殺してはいけないような気がしたことです。小鳥を撃つてはいけないというキンボール大管長の説教を、私は覚えていました。

すると、動物管理局の人々は、毒の入ったえさをしかけてはどうかと提案しました。私はそれも正しいことではないような気がしました。しかし、できるだけ早くその鳥をタバナクルから追い出す必要があったのです。その日の晩には数名の教会幹部やそのほかの賓客を迎えて、満員の聴衆がタバナクルを埋め尽くす予定になっていたからです。

スズメは鳴き声をあげながら、あいかわらず天井を右に左に飛んでいます。そのとき、もしこの小鳥が天父にとって大切な存在であるなら、タバナクルから追い出す方法を私は天父に尋ねるべきではないか、という思いがひらめきました。私はその場の人々に背中を向けて頭を垂れ、短い祈りを捧げました。「天父よ、もしこのスズメがあなたにとって大切な存在であるなら、無事にこのタバナクルから外へ出す方法を、どうかお示してください。」

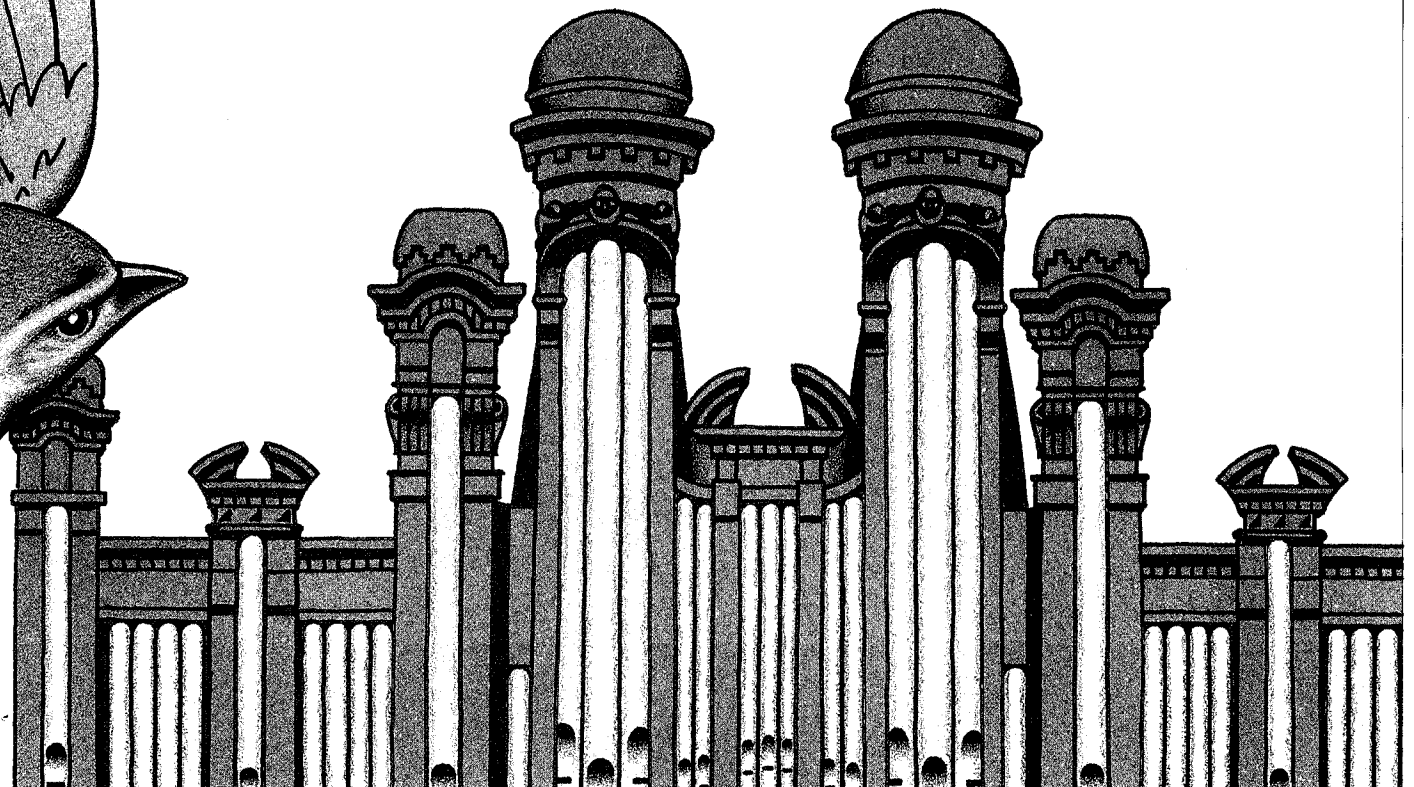
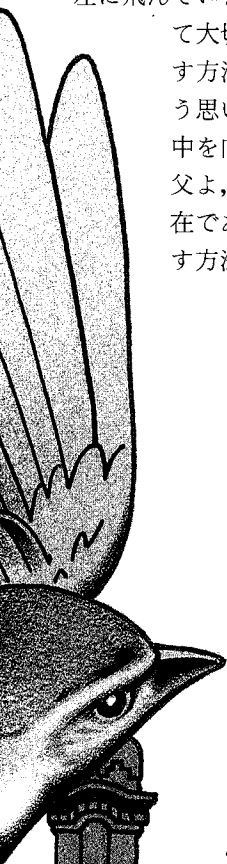
私は即座にはっきりと、取るべき方法を思いつきました。祈り終わると、私は振り返って、職員たちに指示を与えました。そして建物の中の明かりをすべて消し、窓にはブラインドを下ろし、扉はひとつだけ残してすべてを閉めました。

そのときスズメはパイプオルガンの先端に止まっていた。ところが突然、そこから急降下して、そのまま開放されたドアから自由な世界に飛び出していったのです。

このスズメの一件から、私は多くの人々が陥る困難について思い巡らしました。私たちは自分の行動や人の行動によって捕らわれたような気持ちになります。健康の問題や家族の問題、経済的な問題で挫折感を味わいます。そして、羽をバタつかせ騒々しい音をたてながら、あちらの場所こちらの場所へと飛んでいきます。ところが一向に問題は解決しないのです。

しかし神は、ちょうどあのスズメを愛しておられたように私たち一人一人を愛し、私たちが求めさえするならば、靈感と指示を与えてくださるのです。□

\*ロナルド・D・ジョン兄弟：テンプルスクウェア管理部部長。ユタ州レイトン、ホームズクリークステーキ部レイトン第21ワード部所属。





# 「偉大な女性」を目指して

全世界に広がる33万人以上の若い女性が、  
先月(1989年11月)、若い女性組織の創立120周年を記念して、ひとつになりました。

1869年、ブリガム・ヤング大管長は自分の娘たちを集め、  
当時、「リトレンチメント協会女子部」として知られた組織を設立しました。  
ヤング大管長が娘たちを呼び集めるために使用した同じ鐘を、  
エズラ・タフト・ベンソン大管長が祭典の中で再び鳴らしました。  
ベンソン大管長、ならびに中央若い女性会長のアーデス・G・カップ姉妹からは、  
特別なメッセージが伝えられました。ここにふたりのメッセージを掲載します。

## 「私たちは皆さんを愛しています」

大管長 エズラ・タフト・ベンソン

**愛**する若い姉妹の皆さん、皆さんを歓迎できることを心からうれしく思います。きょう世界中の若い女性が、姉妹たちの愛のきずなでひとつに結ばれています。私が皆さん一人一人に対して感じている、心からの愛と感謝の気持ちを伝えたいと思います。

過去に築かれてきた基盤の上に立ち、将来に対する理想を掲げながら、私は愛する若い姉妹の皆さんにこう呼びかけたいと思います。神の王国における責任を雄々しく担う、清くふさわしい器となるためにみずからを備えてください。……モルモン経を読む決心をしてください。その教えに従った生活をしてください。そうすれば、悪魔のわなに立ち向かい、主のみ手に使われる力強い僕となれるでしょう。

若い女性を担当する神権指導者の方々にも申しあげます。私と共に鐘を鳴らし、この世の事柄に惑わされないという決意を新たにしよう呼びかけてください。私たちは、若

い女性の皆さんが力を合わせて、真理と義を守る決意を固めてくださるよう呼びかけたいと思います。

私たちは皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。そして皆さんに信頼を寄せています。愛する皆さん一人一人の上に私の祝福を残したいと強く望んでいます。世の罪に染まることなくこの世で生活することができるように、このことをいつも忘れないようにしてください。

キリストの真の光を輝かし、主のみ名に栄光を帰して生活する決意をしてください。皆さん一人一人がその呼びかけをはっきりと聞き取り、真理と義を守れるように、イエス・キリストのみ名によってお祈りいたします。アーメン。

エズラ・タフト・ベンソン大管長を囲むアーデス・G・カップ姉妹と、ブリガム・ヤング大管長に扮した俳優ジェームズ・アーリントン。1869年に、ヤング大管長によって「リトレンチメント協会女子部」が組織された。



# 「真理を守りましょう」

中央若い女性会長

アーデス・G・カップ

**現**代は特別な時代であり、皆さんは特別な若人です。  
きょう私たちは数々の大陸や海を越え、様々な文化の  
違いや言葉の壁を乗り越えてひとつに結ばれて  
います。私たちは神の娘として共に立ち、イエス・キリストの福音に対する献身のきずなによって結ばれているのです。1869年11月28日、ユタ州ソル

トレークシティのライオンハウスにおいて、最初の若い女性組織が創設されました。創立120周年を記念するこの祭典に、私たちは真理と義を守るために共に集っています。その日、偉大な予言者であり指導者であったブリガム・ヤングは、家族の祈りを知らせる鐘を柵から取りあげました。そして大きな澄んだ音を鳴らし、娘たちをひとつの部屋に集めて特別な集会を開きました。ブリガム・ヤング大管長








---

皆さんはこの末日において  
 主の娘として生まれてくることに  
 なっていたのです。  
 貴い生得権を持つ若人です。

---

は教会歴史の初期に、教会の若い女性が将来担う大切な役割を理解していました。若い女性は人々に大きな影響を及ぼし、世界に貢献するとともに様々な問題に直面することを見抜いていたのです。そこでブリガム・ヤング大管長は、神の娘としての自覚を促し、世界中の姉妹たちの結びつきを強め、若い女性たちを世から守る組織を作りたいと望んでいたのです。ヤング大管長は娘たちにこう言いました。「世の人々が従うにふさわしい模範を示しなさい。……それは真理に対する生きた証を得るためであり、自分の力で福音の知識を得るためです。」ヤング大管長は娘たちに力をひとつに合わせるよう呼びかけました。

この組織は、「リトレンチメント協会女子部」として知られていました。当時の若い女性たちは、このような組織を創るという大管長の提案に支持を表明しました。彼女たちは次のような決意を記録に残しています。「互いに支え励まし合って善を行ないましょう。……それはみずから品位を落としてこの世の人々のように高ぶり、愚かな行ないをしたり、流行を追ったりせず、むしろ人まねを避けて人々に模範を示すためです。」

このようにして若い女性の組織ができてから120年がたちました。私たちは現代の予言者であり指導者である方から大きな祝福を受けています。若い女性の理想を示しておられるエズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉に耳を傾けてみましょう。「皆さんはごく普通の若い女性ではありません。皆さんの多くは選抜された霊であり、ほぼ6千年の間、この時代の、しかもこの時期に生まれるようにとどめ置かれたのです。それは、誘惑が大きいと同時に責任も重く、様々な機会に恵まれた現代に生まれてくるためです。」

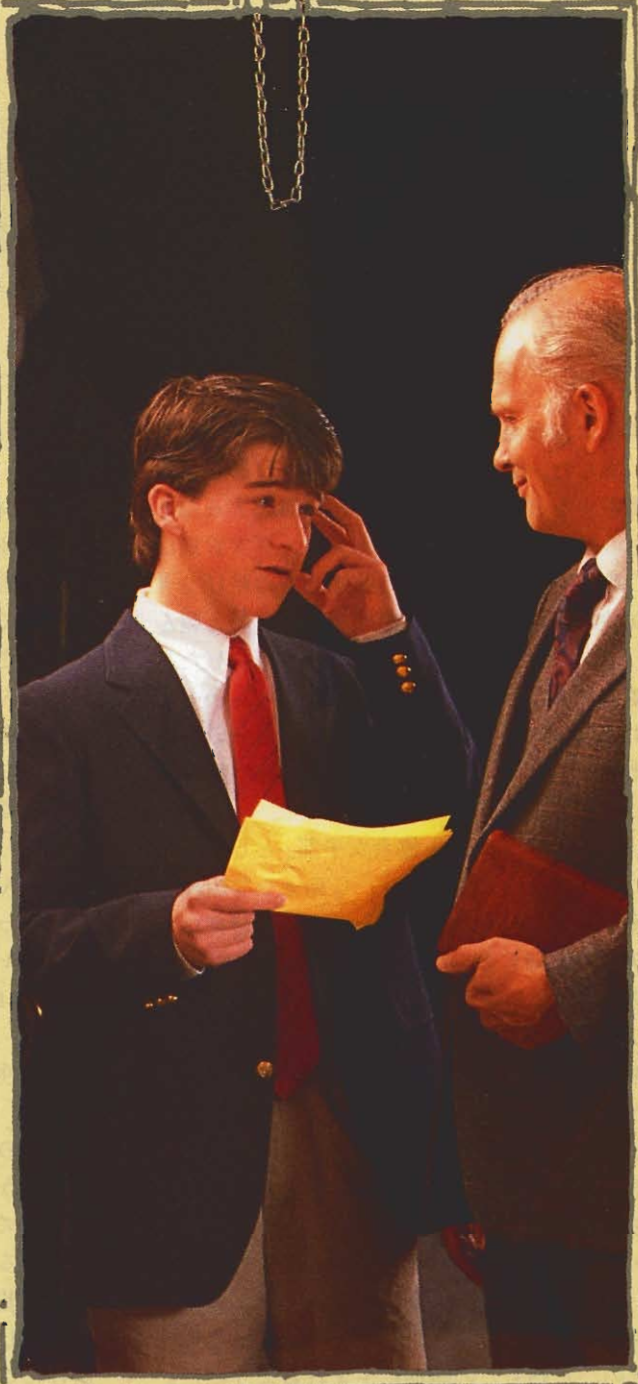
た。」(『新たな世代へ』「ニュー・エラ」1986年6月号, p. 4)

ベンソン大管長は世界中の若い女性に、神のような者となるにふさわしく生活するよう勧められています。大管長はこう言われました。「自分が何者であるか、また自分に与えられている天父の娘としての受け継ぎについて心に留めてください。」そして次のような予言を述べておられます。「皆さんがこの時代に生まれたのには、神聖ですばらしい目的があります。皆さんがこの時満ちたる最後の神権時代に地上に生まれるようにとどめ置かれていたのは、決して偶然ではありません。この特別な時代に生を受けるように、天においてあらかじめ定められていたのです。」

皆さんはこの末日において主の娘として生まれてくることになっていたのです。貴い生得権を持つ若人です。」「教会の若い女性の皆さんに」「聖徒の道」1987年1月号, pp.92, 88)

今朝、私たちは支部、地方部、ワード部、ステーキ部の若い女性、両親、そして指導者と一緒に集っています。これから、かつてブリガム・ヤング大管長が鳴らした鐘と同じ家族の祈りの鐘の音が、再び大きくはつきりと響き渡るでしょう。それは、世界中の若い女性に私たちの生ける予言者エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉を聞くよう呼びかける鐘の音です。

中央若い女性会長会を代表して、皆さん一人一人にお願いいたします。偉大な予言者であり指導者である方の呼びかけにこたえてください。予言者が若い女性の皆んのために示された使命を支持し、それを達成してください。□



# 最初の扉

ロバート・F・ジェックス

その扉に近づいて行くにつれ、私は足が震え、みぞおちの辺りが異様な気分になっていました。同僚が扉をたたきよう指示したとき、私は明らかに気が遠くなりかけていました。

とは言っても、私は新米の宣教師ではありません。15歳のホームティーチャーでした。同じワード部の未亡人、ライス姉妹が住むアパートの階段を上っているところだったのです。同僚の大祭司、ドン・ガボット兄弟は、老齢や重病のために教会の活動に参加できない兄弟姉妹をどのように援助すればよいかについて、その晩、大切な教訓を与えてくれることになっていました。

ガボット兄弟は、私たちの5軒の担当家族に伝えるテーマを教えてくださいましたし、自分でもメモを用意していました。それでも、私は未熟で恐れていました。若い神権者が大祭司の前でどのように振る舞ったらよいのか、わからなかったのです。

扉をノックしましたが、すぐには返事がありません。中には人がいないようだと言いついで出そうとしたときに、その扉はゆっくり開きました。奥からは弱々しい印象の年輩の姉妹が姿を見せましたが、入り口のところにだれがいるかすぐにはわ

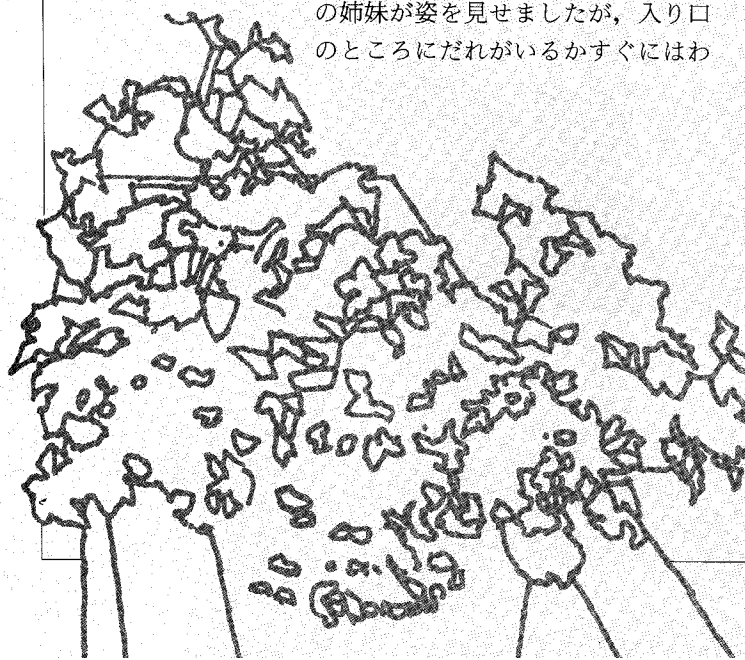
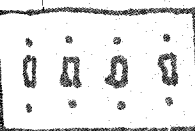
からない様子でした。しかし、それがガボット兄弟であることを認めると、彼女は笑みを浮かべました。私たちは中へ通され、いすに座るように勧められました。

簡単なあいさつの後、ガボット兄弟は目で私にこう促しました。「それじゃ、ロバート。メッセージを伝えてもらおうか。」私が話し始めると、胃の調子はずっと悪くなりました。自分が何を話したかは忘れてしまいましたが、メモからふと目を上げると、感じやすくうるわしいその姉妹のほおが涙でぬれていました。彼女は、神権者が訪問してくれたことに感謝の言葉を述べました。

私は何を言えばいいのかわからなくなっていました。自分が何をしたのか、どんな深遠なことを話したのか、また何ができたのか、何も覚えていません。しかし幸いなことに、ガボット兄弟が証を述べ、必要なことが何かないか尋ねて助け船を出してくれました。彼女は、「あります」と答えました。

ライス姉妹は、体の調子がずっと思わしくなかったのです。帰る前に彼女のために祈ってほしいと言うのです。そしてこちらを見て、その祈りを私にしてほしいと言うのです。そのころまでには、私はその場の雰囲気（ぼんやり）にすっかり飲まれていたので、彼女の頼みを聞いて茫然としてしまいました。私よりも経験のある信頼できる大人と一緒にいるのに祈りを頼まれたので、びっくりしてしまったのです。私は機械的にうなずいてホームティーチングの閉会の祈りを捧げ、その忠実な姉妹のために特別に健康と力が祝福されるように願いました。彼女のことはほとんど知らなかったのですが、私はすぐに愛と尊敬を感じるようになりました。

ライス姉妹の家で初めてホームティーチングを行なったあの日から25年の歳月が流れ、彼女が亡くなってからもう何年もたっています。しかし、今でもあの家の前を通ると、ガボット兄弟や忠実な姉妹と一緒に過ごしたあのときのことが思い出されます。従順な大祭司と、おびえて自信のないアロン神権の教師に求めることのふさわしさを、彼女は理解していたのです。□



# 私が会った予言者

カーラ・サンソン

もしモーセがこの時代に生きていたとしたら、あなたは彼を神の予言者として受け入れられる？」と聞くと、私のその友人は、「もちろん、何の疑いもなく信じる」と答えました。

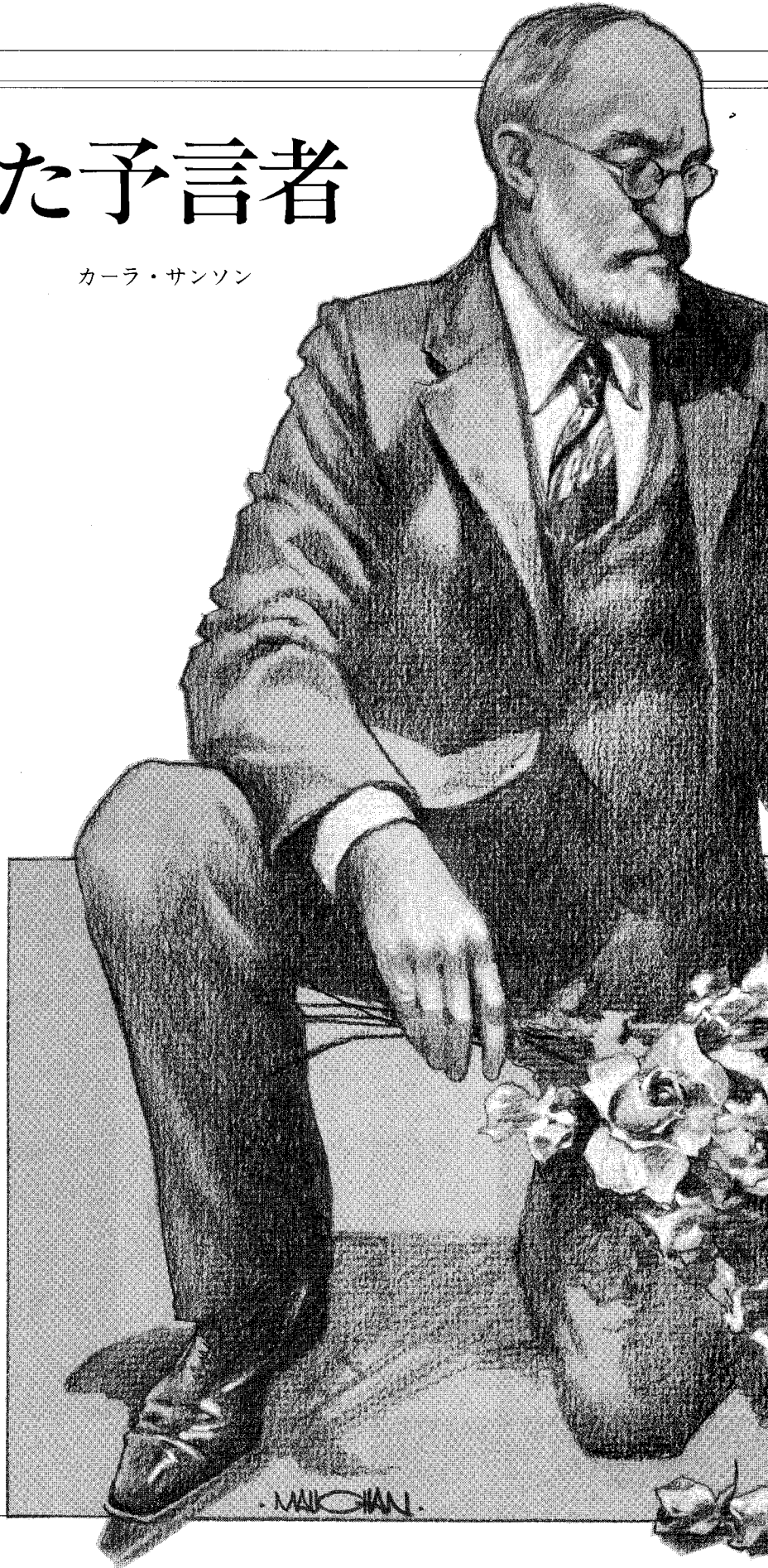
「もし彼が今の時代の服を着て、車を運転するとしたら、どう。それでも信じられる。モーセが結婚していて子供もいるとしたら、どう。自分の国のために熱心に尽くす人だったとしたら、どう。」

「モーセがそんな人であるはずがないよ。彼は神の予言者モーセだよ。神と言葉を交わした人なんだよ。」

彼にとって、モーセが現代人と同じ格好をしているなどということは、考えもしなかったことなのです。彼の考えからすれば、自分と同じ時代の人の中にも、神のみ名によって語り、行動する予言者が存在するなどということは想像もできなかったことなのです。

私は彼に言いました。「前に予言者に会ったことがあるの。彼は立派なビジネスマンで人々からとても尊敬されていたわ。それで奥さんや子供もいて、国のために熱心に尽くす素晴らしい人だったわ。その人に会ったのは私がまだ子供のころだったけれど、私は確かに彼が神の予言者だということがわかったの。」

それは1937年、ドイツのハンブルグでのことでした。その年ヒーバー・J・グラント大管長はヨーロッパの伝道部を巡歴していました。私たち家族が所属していた支部は、工場が建て込み、多くの人びとがひしめき合っている地区の裏通りにある、石鹸工場のホールを借りて集





会場にしていました。そのホールにドイツの北部や西部の地区から、予言者の声を聞こうと数多くの教会員が集まってきました。

私たちの支部に詩才のある教会員がいて、彼が作った長い詩を大管長に披露することになっていました。そして大管長へのあいさつと詩の朗読の割り当てが私にまわってきたのです。大管長が来る前の日の夜、母が私の部屋へ来てこう言いました。「とてもすばらしい特権よ。今度の責任はあなたの信仰が認められたからよ。」

しかし暗い部屋の中で、母は私がかうかない表情をしていることに気がつきませんでした。母が部屋を出ていくと、私は天父に数々の罪の赦しを願い、予言者に会うのにふさわしい人間になれるようにと祈り始めました。母はその夜遅くまでかかって、私のために新しい服を縫いあげてくれました。本当ならうれしくてたまらないはずなのに、私の気持ちは滅入るばかりでした。予言者に自分の心を見透かされて、罪に汚れたつまらない人間だと思われるに違いないと考えていたのです。

翌日学校へ行っても、まるで悪夢を見ているような気持ちでした。壁にかかった大きな時計を見るたびに、自分の過ちを悔い改める時間がわずかしかないとを思い、どうしていいのかわからなくなっていました。私があまり静かにしているので、友人たちは病気だと思ったようです。私も自分の心の中の秘めごとを知られるよりは、そう思わせ

ておいた方がよいという気持ちでした。

そして遂にその時間がやって来ました。大管長を歓迎する言葉が述べられた後で、私がバラの花束を贈り、通訳をつけて詩の朗読をすることになっていました。

グラント大管長のところへ一歩一歩進むたびに、足下の床が揺れました。そして胸をどきどきさせながら心の中で祈っていました。しかし、私はもう前へ進んでいくしかありませんでした。

大管長は私を見るときから立ち上がりました。私の目には大管長の体が、山のように大きな姿に見えました。大管長はやさしそうなまなざしで私を見ると、腕を伸ばして私を引き寄せました。私は全身がしびれたようになり、持っていた花束を床に落としてしまいました。すると大管長は腰をかかめてそれを拾いあげてくれました。それから私の頭をなで、朗読を始めるのをじっと待ってくれました。

たちまち心の中の恐れが消え去り、言いやうのない幸福な気持ちを感じました。私はそれまで天父は愛に満ちた、やさしく、慈悲深いお方だと考えていました。ですから神の予言者がやさしい人だったのは、当然といえば当然のことだったのです。私はそれ以来、真の予言者は天父の子供に対して愛と関心を示す人だという確信をいつも持てるようになりました。

□

\*カーラ・サンソン姉妹：カリフォルニア・ニューバリーステークス部ウェストレックビレッジワード部に集うフリーランスのライター。

ポテパルの妻は  
ヨセフの着物を捕らえて、  
「わたしと寝なさい」  
と言った。  
ヨセフは着物を  
彼女の手に残して  
外にのがれ出た。  
(創世39：11-12参照)



# とても大切な聖句

エリザベス・コトレル

それは9月のすばらしい陽気の日でした。新学期が始まったばかりでしたが、私は高校生活とセミナーとから早く別れたいという気持ちでいっぱいでした。

セミナー教師のエライアソン兄弟が「この聖句にはぜひ星印をつけておいてほしい」と言いました。それは創世記39章9節でした。私はいつものようにその聖句に線を引きました。そこには「どうしてわたしはこの大きな悪を行なって、神に罪を犯すことができましょう」と書かれていました。私たちはさらに12節まで読み進め、「……外にのがれ出た」という箇所にも印をつけ、余白に星印を書き込みました。その星印はエライアソン兄弟の定義で「特に重要な聖句」を意味していました。

彼はそのときのヨセフの状況について説明し、ポテパルの妻から逃れるのはヨセフにとって大変な力を必要とすることだったと話しました。ヨセフはそのような状態になったときにはどうすべきか前もって答えを決めていました。そして現実にもそのような状況に立ち至ったのです。エライアソン兄弟はこのときこう言いました。「君たちが人生を送っていく中で、この聖句はぜひとも忘れないでいてほしい。」

それから月日が流れ、やがて大学へ行く準備をする時期になりました。ところが母が癌がんになってしまい、私は自分の計画を大きく変えざるを得なくなりました。私たち家族は母が通院する病院の近くの小さなアパートに引っ越ししました。

私は継父と交替で母を病院まで連れていきました。母はそこで治療を受けましたが、薬の副作用で髪の毛がすべて抜けてしまいました。母は最初の夫に先立たれ、再婚してからも多くの子供を抱え、その苦労は並大抵のものではありませんでした。私にとって病に冒されて弱りきった母の姿を見るのはとてもつらいことでした。

そのうちに私は近くの短大に通うようになり、家を出ることになりました。そしてそこでロンに出会ったのです。彼は私よりずっと年上でしたが、とても良い友達になり、いつも長い時間を一緒に過ごすようになりました。彼は教

員ではなく、結婚もしていませんでしたが、すばらしい車、家、そしてボートまで持っていました。

彼と一緒にいると楽しいことばかりで、家の中のつらいことも簡単に忘れることができました。彼は教会にもよく来てくれました。しかしそのうちに彼は私に、自分の家に泊まるようにと求めてきたのです。彼の考えではそうするのが自然のなりゆきだったのです。私は教会の標準を話して、それはできないと断りましたが、彼は決してあきらめませんでした。

私はいけなしいとは思いつつも彼との交際を続けました。それほどまでに友達が欲しかったのです。そのうちに私は自分が弱くなっていくのを感じました。私は人に影響されやすく、意志が弱くなっていました。そして、いとも簡単にみたまのささやきを無視するようになっていったのです。

心がひどく弱くなっていたある夜のこと、私は自分のしていることを正当化し始めていました。私はロンが愛していると信じ、大事にしてくれるはずだと確信していました。彼の腕の中でとても安らかな気持ちを感じました。ところがそのとき、「外にのがれなさい」という声が聞こえてきたのです。長い間忘れていたその聖句の言葉が聞こえてきたことに私はびっくりしました。その声はだんだん大きな声になって心に響いてくるようでした。「外にのがれなさい。」私は何も考えずに、その部屋を飛び出しました。

後になって冷静に考えてみると、私は自分の永遠の人生を台無しにする過ちを犯そうとしていたことを思い知らされました。そしてサタンが私の感情を煽り、判断力を曇らせようとしていたことと、ひとつの聖句が自分を救ってくれたことに気づいたのです。

あの秋の日の教えがどれほど大切な意味を持つものだったかを、エライアソン兄弟がどこまで知っていたのだろうかと思うことがよくあります。私は彼と天父と父親に感謝しています。皆ロンよりも私を深く愛してくれているのです。そして数々の聖句、特にあの聖句に心から感謝しています。□

# お知らせ

FULL TIME MISSIONARIES

## JMTC 10月に召された 専任宣教師

第125期生16名

1. 杉野勝美 札幌M/函館B 東京北伝道部
2. 大湾由美子 那覇S/名護B 名古屋伝道部
3. 泉谷美樹子 町田S/町田第2W 神戸伝道部
4. 西畑智子 岡山S/米子W 福岡伝道部
5. 野本恵美子 東京北S/浦和W 札幌伝道部
6. 上家明美 福岡S/八幡B 東京北伝道部
7. 黒澤江美子 名古屋S/刈谷W 仙台伝道部
8. 倉林路江 東京東S/水戸W 神戸伝道部
9. 近江節子 札幌西S/小樽W 神戸伝道部
10. 丹沢章子 東京西S/甲府W 神戸伝道部
11. 松右統治 東京南S/渋谷W 福岡伝道部
12. 谷田部英正 東京東S/牛久W 福岡伝道部
13. 中村和樹 山口D/宇部B 東京南伝道部
14. 淀靖利 福岡S/八幡B 仙台伝道部
15. 大谷昌史 三重D/伊勢B 大阪伝道部
16. 峯吉博文 横浜S/横浜第2W 福岡伝道部



● S : ステーク部, D : 地方部, M : 伝道部, W : ワード部, B : 支部  
● 後列左から1-10, 前列左から11-16



---

---

東方から、博士たちが星に導かれながらやって来て、  
こう尋ねた。

「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、  
どこにおられますか。」

すると、その星は博士たちの前に進んで行って、  
幼な子のいる所まで行き、  
その真上に止まったので、

彼らは非常な喜びに満ちあふれた。

博士たちが家の中に入っていくと、  
母マリヤのそばに幼な子の姿が見えた。

そこで、彼らはひれ伏して拝み、主に贈り物を捧げた。

（マタイ2:1-12参照）

---

---